

授業評価報告書

—よりよい授業への改善を目指して—

2007

四條畷学園短期大学

Shijonawate Gakuen Junior College

序

2005年以降、3か年にわたり、「学生による授業評価・教員自身による自己点検評価」を施行し、それらの結果を、毎年、学内外に公表し四條畷学園短期大学が提供する授業のありのままの姿を世に問うて来た。

これまで2年間の調査から把握できた幾つかの傾向、すなわち、(1)専攻学科により、学年別授業評価の推移に差が見られたこと、(2)学生の授業に対する評価と教員の授業に取り組む姿勢との間に意識のズレの存在すること、(3)受講者数と授業形態により評価に一定の傾向が見られること、(4)教員の自己点検評価に対する前向きな姿勢、について、3年目の調査から追認できたもの(2, 3, 4)・傾向が否定されたもの(1)・傾向を生む背景を解明する必要性(2)、などが明らかとなった。

とくに(2)に関して、教員と学生との間の意識のズレの在り方は学科により異なるものの、このようなズレが明確に出てくる背景を把握することが当面の課題となった。

明確な目的を持って入学する学生(保育学科・介護福祉学科)と、入学してから将来の進路を決めようとする学生(ライフデザイン総合学科)とでは、授業を受ける意気込み・インセンティブの度合いの推移が大きく異なっている。この相違に起因する諸問題点を正確に把握し、改善に向けた授業を提供すれば、教員-学生間の授業に取り組む姿勢のギャップを解消出来ないであろうか。

今後とも、この調査を継続させ、学生の満足度が高く、効率よく学習効果の上がる教育の実践に繋げたい。

学長 廣島和夫

もくじ

1	はじめに	
	授業評価の目的	2
2	調査の方法	
	調査の対象	3
	調査の実施方法	3
	学生による授業評価	3
	教員による自己評価	3
	教員による自己点検評価報告書	3
3	調査の結果	
	実施授業数と延べ人数	4
	授業への出席状況	4
	学生による授業評価と教員による自己評価の比較	5
	A 教員の授業への取り組み姿勢	6
	B 授業内容について	6
	C 学生の授業への反応・意識について	6
	D 設備	7
	E 実技・実習	7
	2005年度から2007年度にかけての年次的推移の比較	7
	受講者数と授業評価との関係	9
	授業形態と授業評価との関係	11
	1年生と2年生の比較	11
4	教員による自己点検評価報告書の結果	14
5	全体的な考察と今後の問題	15
6	要約	16

付表

- 1 教員による自己点検報告書（保育学科）
- 2 教員による自己点検報告書（ライフデザイン総合学科）
- 3 教員による自己点検報告書（介護福祉学科）

別紙

- 1 「学生による授業アンケート調査」実施要領
- 2 授業についてのアンケート調査票
- 3 自由記述用紙
- 4 教員による授業の自己点検評価票
- 5 教員による自己点検評価報告書（ご意見）－学生の授業評価より－

1 はじめに

授業評価の目的

本学では2005年度と2006年度に全学的に「学生による授業アンケート調査」を実施し、その結果をまとめた「授業評価報告書—よりよい授業への改善を目指して—」を作成、学内外に公表してきた。今年度は過去2年間にわたる授業評価の結果から示唆された問題点をふまえながら、基本的にはこれまでと同じ目的、実施方法に基づいて「学生による授業アンケート調査」を実施した。なお今回は、2007年度からスタートした介護福祉学科についても同様の調査を行った。

本調査の目的の第一は、まずは2007年度に在籍する学生の授業評価の結果を得て、2005年度から2007年度にかけての年次的な授業評価の変化を捉え、各年度の相違点の有無を明らかにすることにある。既刊報告書¹⁾²⁾では、2005年度と2006年度の調査項目の全体平均値が、保育学科では2005年度から2006年度にかけて有意に上昇していたのに対して、ライフデザイン総合学科では有意に低下していたことを報告した。それぞれの学科におけるこのような2005年度と2006年度間の平均値の変化を、授業評価実施の結果に基づいた授業改善の影響とみることができるのか、そうでないのかを判断するためには、今回の2007年度の調査結果との比較を試みる必要があると考えるからである。

目的の第二は学生による授業評価と授業担当者（以下、教員）による自己評価との関係性をみることである。2005年度と2006年度においては、20問の調査項目を『教員の授業への取り組み姿勢』、『授業内容について』、『学生の授業への反応・意識』、『設備』、『実技・実習』の5つのカテゴリーに分類し、それぞれのカテゴリーごとに学生の授業評価と教員の自己評価との関連性の有無について検討した。その結果、2005年度と2006年度においては、総じて『教員の授業への取り組み姿勢』についての教員自身の評価は高いが、学生の方はそれほど高く評価していないという、教員の意識と学生の意識との間に明らかにズレのあることが認められた。一方『学生の授業への反応・意識』については、学生自身の評価は高いが、教員の方は学生が感じているほどの高い評価をしていないという、学生と教員間の意識にズレのあることがこの項目についても認められた。このような学生の授業評価と教員の自己評価間に差異が見られたカテゴリーを中心に、本年度も、同様の傾向がみられるのかどうかについて検討を行うことにした。

目的の第三は一つの授業当たりの受講者数が授業評価に及ぼす影響、および講義・演習形態と実技・実習形態という授業形態が授業評価に及ぼす影響をみることである。

2006年度の調査では、保育学科の場合は受講者数や授業形態による影響がほとんど見られなかったのに対して、ライフデザイン総合学科では、受講者数や授業形態による影響が顕著であり、少人数授業、および実技・実習形態の授業の方が高く評価される傾向が認められた。こうした各学科でみられた特徴が、それぞれの学科特有のものであるかどうかを確認することを目的として、本年度においても同様の分析を行うことにした。

目的の第四として、1年生と2年生の授業評価の比較をおこなった。過去2年間の調査では学年間の比較は行ってこなかった。しかし入学後半年、または1年間の学習経験しかない1年生と、すでに1年半、または2年間にわたって学習経験を積んだ2年生とでは、目的達成のためのモチベーションにおいても、また授業の理解力においても、当然違いのあることが予想される。そこで本年度は1年生と2年生の授業評価の比較をおこない、どのような点に違いがみられるかについての検討を試みることにした。

目的の第五は、教員から提出された自己点検評価報告書の分析である。従来同様、教員に対しては、次年度の授業構築にあたっての参考指標として頂くことを目的として、担当科目に対する学生の授業評価結果を個別に示し、その結果に対する教員自身によるコメントの記載を依頼している。また2006年度より、授業評価にあらわれた学生の心情をより深く理解することを目的として、学生に「自由記述」提出の機会を与えているが、この自由記述についても教員からのコメントを求めている。これら教員から提出されたコメントの中、「今後の授業改善策」の項に示された内容を、「改善点を具体的に明記」、「改善への意識が感じられる」、「結果への感想」、「学校への要望等」、「アンケートへの要望」、「無回答」の6つに分類し、教員の授業姿勢について、過去2年間の結果との比較を試みた。

なお、教員から寄せられたコメントの具体的な内容は、付表1、2、3に示したとおりである。

2 調査の方法

調査の対象

授業評価アンケートを行った学生は保育学科 199 名（1 年 94 名、2 年以上 105 名）とライフデザイン総合学科 223 名（1 年 108 名、2 年 115 名）、介護福祉学科 1 年 28 名の合計 450 名であった。

教員による自己評価及び自己点検評価報告書提出にご協力いただいた教員の人数は保育学科 63 名、ライフデザイン総合学科 67 名、介護福祉学科 20 名の計 150 名であった。

調査の実施方法

調査は、(1) 学生による 2 種類の授業評価（5 段階評定尺度によるアンケートおよび自由記述）、(2) 教員による自己評価（5 段階評定尺度によるアンケート）、(3) 教員による自己点検評価報告書の 3 種類から成り立っている。

学生による授業評価

学生による授業評価は昨年度と同様の「授業アンケート調査」と「自由記述調査」によった。アンケートは授業への出席状況についての 1 項目と授業評価に関する 20 項目の計 21 項目より構成されている。授業評価項目の内訳は「授業の実施や教授態度」に関する 6 項目、「授業内容」に関する 5 項目、「学生の授業への意識」に関する 4 項目、「授業環境」に関する 1 項目、さらに実技・実習授業については「実習授業のあり方」についての 5 項目の計 20 項目とした。調査に用いた「授業についてのアンケート調査票」は別紙 2 に示した通りで、回答はマークシートによった。

また「自由記述調査」は別紙 3 を用いておこない、授業についての感想を自由に書かせた。なおアンケートと自由記述はいずれも無記名方式とした。

学生による授業アンケート調査は前期、後期の最終授業日から 1 ヶ月前までの期間に、教員（授業担当者）により授業中に実施された。実施の手続きは別紙 1 の文書にて予め教員に伝え、統一的なアンケート調査の実施を図った。学生によるアンケート調査票の回収にあたっては学生の代表が袋詰め・密封までを行い、教員が調査票を直接回収することを避けた。自由記述用紙は教員が回収し、回収後は担当教員以外の者の目に触れることがないように教員自身に保管を任せた。アンケート実施に要した時間は約 15 分であった。

教員による自己評価

学生が授業評価アンケートと自由記述を実施している間、教員に対しても自己評価アンケート調査を依頼した。教員に対する質問項目は別紙 4 の通り学生用の別紙 2 と同じ内容のものを教員に対する質問として適切な表現に変えた。教員によるアンケート調査票は学生によるアンケート調査票とは別の封筒に入れ、事務局に提出していただいた。

教員による自己点検評価報告書

学生による授業評価の集計結果に加えて、その結果と教員による自己評価、および学内平均値との関連性をグラフ化したデータを、それぞれの担当教員に個別にフィードバックした。その際「教員による自己点検評価報告書」を同封し、報告書へのコメントの記載を依頼した。

なおこの自己点検評価報告書は次の 4 項目から構成されている。

1. 学生による授業評価の集計結果についてどのように感じたのか。
2. 教員による自己点検評価と学生による授業評価との関係についての分析と問題点の把握。
3. 学生の自由記述についてのご意見
4. 2、3 より、今後の授業の改善策について

3 調査の結果

実施授業数と延べ人数

授業評価を実施した授業数（コード数）は、保育学科が 107、ライフデザイン総合学科が 173、介護福祉学科が 33 であった。そのうち、調査用紙の不備のため実施できなかった授業（1つ）、教員が実施を拒否した授業（1つ）の二つを除いた計 311 の授業でアンケートが実施された。

授業評価した学生の延べ人数は、保育学科が 5,324 名、ライフデザイン総合学科が 3,336 名、介護福祉学科が 792 名であった。教員による自己評価にご協力いただいた、教員の延べ人数は保育学科 245 名、ライフデザイン総合学科 177 名、介護福祉学科 41 名の計 463 名であり、回収率は 99.6% であった。

授業への出席状況

授業への出席状況について、全回出席、2/3 以上出席、1/2 以上出席、1/2 未満出席に分けて示したのが図 1 である。全学科では、毎回と 2/3 以上出席をあわせると約 95.7% を超えており、授業への出席率は非常に高いといえる。学科別に見ると、介護福祉学科、保育学科、ライフデザイン総合学科の順に出席率が高いことがわかる。介護福祉学科と保育学科では資格取得に際して 2/3 以上の出席が義務づけられているので、当然の結果であろうと思われる。しかし、そのような厳格な取り決めのないライフデザイン総合学科においても両学科と大きく変わらない高い出席率であった。

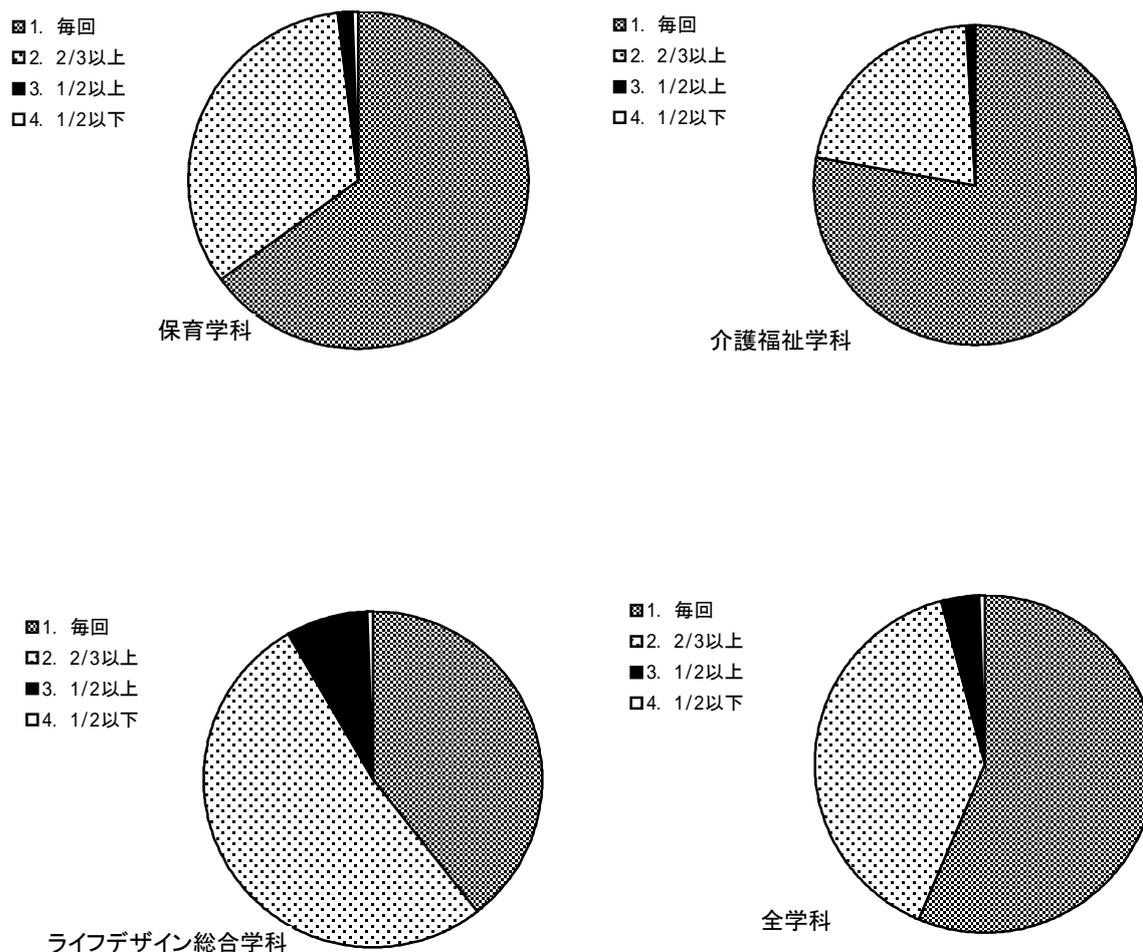


図 1. 出席状況

学生による授業評価と教員による自己評価の比較

本項では、出席状況に関する項目を除いた 20 項目を昨年度と同様に、A『教員の授業への取り組み姿勢』、B『授業内容について』、C『学生の授業への反応・意識について』、D『設備』、E『実技・実習』の5つのカテゴリーに分類してそれぞれの結果の分析を行った。

結果の分析にあたり、授業科目ごとに学生による授業評価得点と教員による自己評価得点を算出、これらの得点をもとに、学科別に学生による授業評価の得点の平均値と教員による自己評価の平均値を求めた。

表 1. 学生による授業評価と教員の自己評価

項目番号	項目	評価者	保育		ライフ		介護	
			平均 (SD)	有意差	平均 (SD)	有意差	平均 (SD)	有意差
A	問1 教員は大きな声で聞き取り易い速さで話してくれた。	学生	4.09 (0.51)	**	4.14 (0.51)	**	4.05 (0.32)	
		教員	4.48 (0.54)		4.35 (0.64)	**	4.37 (1.02)	
	問2 教員は授業内容が良く理解できるように丁寧に説明してくれた。	学生	3.98 (0.56)	**	4.08 (0.53)		3.82 (0.41)	
		教員	4.32 (0.54)		4.19 (0.65)		4.13 (0.95)	
	問8 板書はわかりやすかった。	学生	3.75 (0.56)	**	3.94 (0.57)	**	3.63 (0.41)	*
		教員	3.52 (0.74)		3.70 (0.71)		3.29 (0.85)	
	問9 授業に対する熱意や真剣さが伝わってきた。	学生	4.06 (0.49)	**	4.12 (0.50)	**	3.93 (0.29)	**
教員		4.57 (0.56)		4.42 (0.61)		4.50 (1.02)		
問10 教員は学生の質問や発言などに適切に対応した。	学生	4.02 (0.52)	**	4.11 (0.50)		3.86 (0.32)		
	教員	4.31 (0.61)		4.14 (0.63)		4.14 (0.92)		
問11 教員は授業態度の悪い学生に注意し、授業に集中できる静かな環境をつくってくれた。	学生	3.97 (0.44)	**	4.05 (0.49)	**	3.77 (0.34)		
	教員	4.22 (0.59)		3.83 (0.66)		3.72 (0.93)		
B	問3 授業はシラバスに示された目標や内容に沿って行われた。	学生	3.97 (0.43)		4.10 (0.45)		3.80 (0.28)	
		教員	3.91 (0.74)		4.01 (0.68)		3.84 (0.93)	
	問4 授業には十分な準備と工夫がなされていた。	学生	3.96 (0.46)	**	4.08 (0.47)		3.83 (0.33)	
		教員	4.16 (0.55)		4.13 (0.64)		4.09 (0.96)	
	問5 授業の難易度のレベルは適切であった。	学生	3.80 (0.55)		3.94 (0.52)	**	3.68 (0.30)	*
		教員	3.81 (0.67)		3.72 (0.74)		3.38 (0.64)	
	問6 授業の進行速度は適切であった。	学生	3.82 (0.57)		4.01 (0.50)	**	3.76 (0.31)	
教員		3.73 (0.72)		3.85 (0.72)		3.53 (0.89)		
問7 テキストやプリント、視聴覚教材の使い方は適切であった。	学生	3.92 (0.49)		4.08 (0.47)	*	3.90 (0.25)		
	教員	3.79 (0.63)		3.94 (0.66)		3.70 (0.93)		
C	問12 授業に興味をもって熱心に取り組むことができた。	学生	3.93 (0.49)		3.95 (0.55)	**	3.71 (0.34)	
		教員	3.83 (0.68)		3.60 (0.74)		3.75 (0.77)	
	問13 授業の内容を良く理解することができた。	学生	3.88 (0.53)		3.89 (0.58)	**	3.63 (0.34)	
		教員	3.81 (0.72)		3.56 (0.67)		3.38 (0.74)	
	問14 授業により新しい知識や考え方や、必要な技能を習得でき、もっと深く勉強したくなった。	学生	3.89 (0.51)		3.90 (0.56)	**	3.72 (0.30)	
教員		3.93 (0.74)		3.69 (0.67)		3.57 (0.70)		
問16 総合的にみてこの授業を受けて満足している。	学生	3.97 (0.54)		4.07 (0.53)	**	3.82 (0.34)	*	
	教員	3.82 (0.70)		3.64 (0.63)		3.52 (0.73)		
D	問15 この授業の教室の大きさや設備（視聴覚機器や教材など）は適切であった。	学生	4.01 (0.42)		4.08 (0.45)	**	4.02 (0.22)	
		教員	4.05 (0.88)		3.85 (0.82)		4.10 (1.15)	
E	問17 教員の技能や実技の指導は適切に行われた。	学生	4.01 (0.61)		4.58 (0.38)	**	3.92 (0.36)	
		教員	4.21 (0.77)		4.12 (0.59)	**	3.68 (0.64)	
	問18 この授業で課せられる課題の量は適切であった。	学生	3.74 (0.79)		4.48 (0.46)	**	3.79 (0.28)	
		教員	3.92 (0.74)		3.97 (0.58)	**	3.59 (0.86)	
	問19 与えられた課題に取り組む時間は充分にあった。	学生	3.67 (0.78)		4.45 (0.48)	**	3.77 (0.24)	
		教員	3.71 (0.79)		3.99 (0.68)	**	3.68 (0.56)	
問20 授業の内容は技術や実技の向上に役立つものであった。	学生	4.09 (0.59)	**	4.63 (0.35)	**	4.03 (0.30)		
	教員	4.41 (0.63)		4.17 (0.58)		4.09 (0.54)		
平均		学生	3.93 (0.49)		4.04 (0.49)	**	3.81 (0.28)	
		教員	4.00 (0.44)		3.92 (0.43)		3.81 (0.72)	

* p<.05, ** p<.01

A 教員の授業への取り組み姿勢

『教員への取り組み姿勢』に該当する項目は、「教員の声の大きさや速度」(問1)、「説明の丁寧さ」(問2)、「板書の仕方」(問8)、「授業への熱意」(問9)、「学生への適切な応答」(問10)、「授業環境への配慮」(問11)の6項目である。

学生による評価の結果は、表1に示されたように概ね肯定的な評価といえようが、「説明の丁寧さ」(問2)、「板書の仕方」(問8)、「授業環境への配慮」(問11)の3項目において3学科とも評価が比較的やや低くなっていた。

教員の自己評価の結果については、「板書の仕方」(問8)、「授業環境への配慮」(問11)を除き、他のすべての項目において3学科とも4.00以上の高い得点であった。それぞれの教員が非常に高い意識をもって授業に取り組んでいることを示す結果といえる。

次に、学生の評価と教員の自己評価の相違点を明らかにするため、両得点の差異について検討した。表1のAの結果をみると、保育学科では、「板書の仕方」(問8)を除いて教員による自己評価の方が学生による評価を上回っており、すべての項目において有意差が見られた。ライフデザイン総合学科では、「板書の仕方」(問8)、「授業環境への配慮」(問11)の項目で教員による自己評価が学生の評価より有意に低い結果だった一方で、有意に高い結果だったのは「教員の声の大きさや速度」(問1)、「授業への熱意」(問9)の2項目であった。介護福祉学科では、教員の自己評価と学生の評価に有意な差が見られたのは、「板書の仕方」(問8)、「授業への熱意」(問9)の2項目で、教員よりも学生の評価の方が高かった。

教員が授業に対し熱意と真剣さをもって取り組むのは職務上当然のことであろうが、両得点の比較からみて教員が自覚するほどには学生にそれらが伝わっていないといえる。また、「板書の仕方」に対しては、学生・教員ともに現状に満足しているとはいえない結果であり、今後改善されるべき課題のひとつであることが示唆された。

B 授業内容について

『授業内容』については、「シラバス通りの内容」(問3)、「授業への準備と工夫」(問4)、「授業の難易度」(問5)、「授業の進行速度」(問6)、「教材の使い方」(問7)の5つの項目がこれに該当する。表1のBは『授業内容』についての学生の評価と教員の自己評価の結果を示したものである。

学生の評価は3学科とも「授業の難易度」と「授業の進行速度」についての評価が低かった。教員の自己評価については3学科の得点を見ると、先に述べた『教員への取り組み姿勢』についての自己評価(表1のA)よりもほとんどの項目で、得点が低くなっていた。このことは、授業には自負心をもって取り組んでいるものの、授業の難易度や進行速度、テキストやプリントの使い方は学生の能力や動機づけに適したものとなっていないと教員自身が感じていることの表れとみることでもある。

学生の評価と教員の自己評価の差異を検討すると、ライフデザイン総合学科と介護福祉学科では「授業の難易度」(問5)について教員の自己評価よりも学生の評価の方が有意に上回っており、教員が思うほどには学生は授業に難しさを感じていないという結果であった。

C 学生の授業への反応、意識について

『学生の授業への反応・意識』に該当する項目は、「授業への興味」(問12)、「授業内容の理解」(問13)、「もっと深く勉強したくなった」(問14)、「総合的な満足度」(問16)の4項目とした。表1のCに示したように、教員の自己評価は3学科共に、上記いずれの項目においても4.00に達していなかった。

学生の評価と教員の自己評価を比較すると、ライフデザイン総合学科では、全項目において、学生の授業評価が教員の自己評価よりも有意に高い得点を示した。保育学科では、いずれの項目にも有意差は見られなかったが、ライフデザイン総合学科とほぼ同様の傾向が見られた。介護福祉学科では、教員の自己評価と学生の評価との間に有意差がみられたのは「総合的な満足度」(問16)のみであり、教員の評価よりも学生の評価の方が高いことが示された。

Cに属する項目は、いわば学生の自己評価的な意味も含んでいるが、教員は学生の授業への取り組みに対して学生が意識しているほどには高い評価をしていないといえる。すなわち、教員の方は学生達が良く理解しているかとか、授業に満足しているか、についてはやや不安感をもっているが、学生の方は内容を

よく理解でき、授業に満足し、熱心に授業に参加していたと自分自身を高く評価していた。この結果から見る限り、学生は教員が感じている以上に授業に満足しているとも解釈されるが、何をもって授業を理解したと感じているのか、満足しているのかについての基準が、教員・学生にとって質的、量的に異なる可能性について検討する必要があるように思われる。

D 設備

『設備』についての項目は「教室の大きさや設備」(問 15) の一問だけであった。表 1 の D によれば学生の評価は、教室の大きさや設備に対し、ほぼ満足していることが示された。しかしライフデザイン総合学科においてのみ、学生の評価の方が教員の評価に比べて有意に高く、他の 2 学科の評価点と比べても遜色がない得点を示した。すなわち少なくともこの結果からは、日ごろ教員が心配しているほどには学生は設備面に不満をもっているとはいえない。しかし別途実施している「授業についての満足度調査」^{3) 4)} では、ライフデザイン総合学科の学生は、保育学科や介護福祉学科の学生に比べて物理的学習環境に対する満足度が低いという結果も出ており、本調査の結果だけをもって学生が設備面に満足していると一概に判断すべきでないと言えよう。

E 実技・実習

『実技・実習』に該当する項目は、「技能・技術の指導の適切さ」、「課題の量」、「課題に取り組む時間」、「実技向上」の 4 項目であり、評価の結果は表 1 の E に示すとおりであった。

今回の調査において、実技や実習を伴う授業数は保育学科では 43、ライフデザイン総合学科では 27、介護福祉学科では 10 であった。

教員の自己評価と学生の評価の差異を比較すると、保育学科では、有意差が見られたのは「実技向上」のみであるが、すべての項目で、教員の自己評価よりも学生の評価得点が下回っており、教員の熱意が必ずしも学生に十分に伝わっているとは言い難い結果であった。特に「課題の量」、「課題に取り組む時間」についての評価が教員・学生ともに低かった。教員は学生にとって負担が大きいことは承知しつつも、目的学科としての性質上、それぞれの授業で「最低限これだけはやらせておきたい必須の課題」というものがあり、宿題を課すことも少なくない。一方学生の方は、複数の教員から求められる様々な課題を全てこなす、しかも時には多量の課題を同時期に提出しなければならない、といった厳しい事情もあることなどが重なり、双方が「課題の量」を適切とは思えず、「課題に取り組む時間」も十分ではないと評価する結果になったのではないかと推察される。これに対してライフデザイン総合学科は逆に教員の自己評価よりも学生の評価の方が全項目で有意に高い結果となった。3 学科における実習や実技の内容は相当異なるので直接比較はできないが、ライフデザイン総合学科の学生の評価はすべての項目において 4.40 以上の高得点を示しており、実技・実習の授業は学生に非常に高い満足を与える内容のものであったことがうかがえる。

一方介護福祉学科では、全ての項目において有意差はなかったが、ライフデザイン総合学科とほぼ同様に総じて教員の自己評価よりも学生の評価の方が高い傾向にあることが認められた。

2005 年度から 2007 年度にかけての年次的推移の比較

保育学科とライフデザイン総合学科では、2005 年度から 2007 年度にかけてはほぼ同じ方法による授業評価を行ってきた。今回の 2007 年度の調査は 3 回目であるが、この結果をこれまでと同様の方法で分析し、2005 年度および 2006 年度と比較することによって、授業評価で得られた結果の年次的推移と信頼性について考察することにした。なお介護福祉学科は 2007 年度に調査を開始したため、年度比較はできなかった。

表 2 は 2005 年度から 2007 年度にかけての学生評価、教員の自己評価のそれぞれの得点を学科別に示したものである。各学科の各項目について、年度を要因とする 1 要因分散分析を行った。さらに学年の主効果が有意であった項目については、多重比較 (Bonferroni 法) を行った。

表 2. 学生評価の年度比較

項目 番号	項目	年度	保育		ライフ	
			平均値	(SD)	平均値	(SD)
A	問1	2005	4.13	(0.45)	4.24	(0.58)
		2006	4.23	(0.40)	4.03	(0.55)
		2007	4.09	(0.51)	4.14	(0.51)
	問2	2005	3.99	(0.50)	4.14	(0.62)
		2006	4.13	(0.45)	3.96	(0.57)
		2007	3.98	(0.56)	4.08	(0.53)
	問8	2005	3.72	(0.53)	3.98	(0.65)
		2006	3.92	(0.45)	3.77	(0.64)
		2007	3.75	(0.56)	3.94	(0.57)
	問9	2005	4.11	(0.38)	4.19	(0.55)
		2006	4.22	(0.37)	4.01	(0.49)
2007		4.06	(0.49)	4.12	(0.50)	
問10	2005	4.04	(0.45)	4.18	(0.59)	
	2006	4.16	(0.45)	4.03	(0.52)	
	2007	4.02	(0.52)	4.11	(0.50)	
問11	2005	3.95	(0.47)	4.13	(0.55)	
	2006	4.13	(0.38)	3.95	(0.52)	
	2007	3.97	(0.44)	4.05	(0.49)	
B	問3	2005	3.97	(0.39)	4.11	(0.50)
		2006	4.11	(0.32)	3.99	(0.45)
		2007	3.97	(0.43)	4.10	(0.45)
	問4	2005	3.98	(0.42)	4.12	(0.56)
		2006	4.10	(0.36)	3.95	(0.51)
		2007	3.96	(0.46)	4.08	(0.47)
	問5	2005	3.80	(0.43)	4.03	(0.56)
2006		3.97	(0.44)	3.85	(0.53)	
2007		3.80	(0.55)	3.94	(0.52)	
問6	2005	3.83	(0.47)	4.09	(0.58)	
	2006	3.99	(0.43)	3.88	(0.54)	
	2007	3.82	(0.57)	4.01	(0.50)	
問7	2005	3.96	(0.41)	4.14	(0.53)	
	2006	4.07	(0.37)	3.95	(0.51)	
	2007	3.92	(0.49)	4.08	(0.47)	
C	問12	2005	3.92	(0.44)	4.04	(0.65)
		2006	4.09	(0.42)	3.88	(0.54)
		2007	3.93	(0.49)	3.95	(0.55)
	問13	2005	3.86	(0.46)	4.02	(0.65)
		2006	4.02	(0.46)	3.81	(0.58)
2007		3.88	(0.53)	3.89	(0.58)	
問14	2005	3.84	(0.42)	3.98	(0.65)	
	2006	4.06	(0.43)	3.81	(0.57)	
	2007	3.89	(0.51)	3.90	(0.56)	
問16	2005	3.99	(0.42)	4.14	(0.62)	
	2006	4.15	(0.41)	3.96	(0.54)	
	2007	3.97	(0.54)	4.07	(0.53)	
D	問15	2005	4.03	(0.39)	4.19	(0.50)
		2006	4.15	(0.37)	3.96	(0.49)
		2007	4.01	(0.42)	4.08	(0.45)
E	問17	2005	4.03	(0.41)	4.49	(0.44)
		2006	4.16	(0.47)	4.39	(0.56)
		2007	4.01	(0.61)	4.58	(0.38)
	問18	2005	3.69	(0.51)	4.41	(0.49)
		2006	3.88	(0.49)	4.28	(0.57)
		2007	3.74	(0.79)	4.48	(0.46)
	問19	2005	3.56	(0.58)	4.37	(0.48)
		2006	3.77	(0.54)	4.25	(0.60)
2007		3.67	(0.78)	4.45	(0.48)	
問20	2005	4.09	(0.40)	4.58	(0.38)	
	2006	4.21	(0.42)	4.47	(0.46)	
	2007	4.09	(0.59)	4.63	(0.35)	
平均		2005	3.94	(0.40)	4.11	(0.56)
		2006	4.09	(0.37)	3.93	(0.50)
		2007	3.93	(0.49)	4.04	(0.49)

その結果、保育学科は問1、問2、問10、問17～問20については、主効果が有意でなく3年間を通して授業評価に変動がなかったことが明らかになった。その他の項目については、2005年度から2006年度にかけて授業評価得点が高くなり、2006年度から2007年度にかけては得点が低くなり、2005年度の得点と差がなくなった。

ライフデザイン総合学科では、問17～20については主効果が有意でなく、3年間を通して授業評価に変動がなかったことが明らかになった。その他の項目については、2005年度から2006年度にかけて授業評価得点が低くなり、2006年度から2007年度にかけては得点が高くなり、2005年度の得点と差がなくなった。

全項目についての平均値の年次的推移を求めると保育学科では2005年度、2006年度、2007年度でそれぞれ3.94、4.09、3.93、ライフデザイン総合学科では同様に4.11、3.93、4.04であった。つまり、2005年度から2007年度にかけて保育学科では低→高→低、ライフデザイン総合学科では高→低→高の両学科とも有意な年次的推移が見られた。このような年次的変化については、毎年授業評価する学生集団が同一でないことによる影響が最も大きいと思われるが、各年次の学生集団のどのような要素がこうした変化をもたらしたのかについては、今回の調査のみでは判断する材料がない。今後、その要因について明らかにしようとするならば、たとえば調査年次ごとの学生集団の特徴（モチベーションや学習能力等）、学習環境の変化、教員の意識変化（前年度の授業評価の結果を受けて...等）などを問う質問項目を加えることなどが必要かもしれない。ちなみに、教員の自己評価においては、保育学科では有意な年次的推移は見られず、ライフデザイン総合学科では、2005年度から2006年度にかけて自己評価が低下し、2007年度もそれが持続する結果となっていた。なお、学生評価に比べて教員における自己評価の年次的変化は小さかった。これは教員による評価は、毎年ほとんど変わらない集団によって行われるためであると推察される。

受講者数と授業評価の関係

ここでは授業評価と受講者数との関係をみるために、各項目について保育学科とライフデザイン総合学科ごとに受講者数と評価得点間の相関係数を表3に示した。なお介護福祉学科についてはほとんどの授業が必修であるため、受講者数のばらつきがほとんどない。そのため受講者数と授業評価の相関については検討しなかった。

受講者数による学生評価の違いを学科別に検討した。保育学科においては「板書の仕方」(問8)、「もっと深く勉強したくなった」(問14)、「授業環境への配慮」(問11)、「授業内容の理解」(問13)、「総合的な満足度」(問16)、「教室の大きさや設備」(問15)、「課題の量」(問18)、「課題に取り組む時間」(問19)において有意な負の相関、すなわち受講者数が多い授業では評価が低いという関係が認められた。相関が見られた項目が、2006年度とくらべ6項目増加しているが、それが調査対象である学生集団が変わったことに因るものか、その他の理由によるものかを明らかにするためには、今後引き続き推移をみていく必要があると考える。

ライフデザイン総合学科においては受講者数と学生の授業評価との間にすべての項目において、高い負の相関が見られた。相関係数の有意差検定においてもすべての項目において有意な負の相関、すなわち受講者数が多くなるにつれて、学生の授業評価の得点が有意に低くなることが認められた。これは、2006年度から引き続き見られる傾向であり、ライフデザイン総合学科においては、受講者数が授業効果に関係する大きな要因であることがさらに明確になったといえる。

表 3. 受講者数と学生の授業評価の相関関係

項目 番号	項目	保育		ライフ		
		相関係数(r)	有意性	相関係数(r)	有意性	
A	問1	教員は大きな声で聞き取り易い速さで話してくれた。	-0.12		-0.26	**
	問2	教員は授業内容が良く理解できるように丁寧に説明してくれた。	-0.11		-0.31	**
	問8	板書はわかりやすかった。	-0.20	*	-0.30	**
	問9	授業に対する熱意や真剣さが伝わってきた。	-0.13		-0.34	**
	問10	教員は学生の質問や発言などに適切に対応した。	-0.12		-0.33	**
	問11	教員は授業態度の悪い学生に注意し、授業に集中できる静かな環境をつくってくれた。	-0.20	*	-0.37	**
B	問3	授業はシラバスに示された目標や内容に沿って行われた。	-0.16		-0.33	**
	問4	授業には十分な準備と工夫がなされていた。	-0.18		-0.36	**
	問5	授業の難易度のレベルは適切であった。	-0.16		-0.25	**
	問6	授業の進行速度は適切であった。	-0.10		-0.30	**
	問7	テキストやプリント、視聴覚教材の使い方は適切であった。	-0.15		-0.33	**
C	問12	授業に興味をもって熱心に取り組むことができた。	-0.18		-0.34	**
	問13	授業の内容を良く理解することができた。	-0.20	*	-0.28	**
	問14	授業により新しい知識や考え方、必要な技能を習得でき、もっと深く勉強したくなった。	-0.19	*	-0.34	**
	問16	総合的にみてこの授業を受けて満足している。	-0.19	*	-0.37	**
D	問15	この授業の教室の大きさや設備（視聴覚機器や教材など）は適切であった。	-0.20	*	-0.33	**
E	問17	教員の技能や実技の指導は適切に行われた。	-0.10		-0.35	**
	問18	この授業で課せられる課題の量は適切であった。	-0.18	*	-0.29	**
	問19	与えられた課題に取り組む時間は充分にあった。	-0.19	*	-0.37	**
	問20	授業の内容は技術や実技の向上に役立つものであった。	-0.17		-0.40	**
平均			-0.16		-0.34	**

* p<.05, ** p<.01

授業形態との関係

授業形態には講義・演習形式と実技・実習形式の2種類があるが、この授業形態の違いが授業評価と関係があるかについて検討した。ここでいう授業形態は、教育課程表に定められた講義、演習、実習の分け方とは異なっている。たとえば、教育課程表では講義・演習に分類されている科目であっても、実際の授業形態が実技・実習形態であれば、実技・実習と分類した。授業形態の分類の規準は、アンケートにおいて、問17から問20に回答した場合を実技・実習科目とし、16問までの回答の場合を講義・演習科目とした。その結果、保育学科では講義・演習科目が61授業、実技・実習科目が43授業、ライフデザイン総合学科では講義・演習科目が145授業、実技・実習科目が27授業、介護福祉学科では講義・演習科目が23授業、実技・実習科目が10授業であった。これは、7ページの『E 実技・実習』で言及した授業数と同一である。

学生の授業評価を授業形態別に算出した結果は表4に示す通りであった。講義形態と実技・実習形態の授業評価得点を t 検定(両側)で比較した。表4の結果から保育学科とライフデザイン総合学科の違いが明らかであった。保育学科では、授業形態による授業評価は、講義形態が実技・実習形態に比べて若干数値は低いが、すべてにおいて有意差は見られず、授業形態による授業評価への影響は認められなかった。

これに対して、ライフデザイン総合学科ではすべての項目において、講義・演習形態が実技・実習形態に比べて有意に授業評価が低い結果であった。

介護福祉学科では、「授業への興味」(問12)、「もっと深く勉強したくなった」(問14)の2項目においてのみ講義・演習形態が実技・実習形態に比べて有意に低い結果であった。

3学科を比較してみると、ライフデザイン総合学科の講義・演習形態の評価が他の2学科に比べて低いということではなく、実技・実習形態の評価が特に高かったために、講義・演習科目の授業評価との差が顕著にあらわれたものと考えられる。

1年生と2年生の比較

入学してしばらくの1年生と、すでに1年以上の学習を終えた2年生とでは、当然のことながらモチベーションにおいても授業への理解力においても何らかの差があることが予想される。そのため、本年度は1年生と2年生の授業評価の違いについても検討をすることとした。なお介護福祉学科は1年生のデータしかないため、比較はできなかった。ローデータをもとに保育学科1年生(延べ1,679名)、2年生と留年生と科目等履修生(延べ2,404名)、ライフデザイン総合学科の1年生(延べ1,880名)、2年生と留年生と科目等履修生(延べ1,172名)の授業評価得点の平均値を算出しその結果を表5に示した。学年の記載がなかった延べ1,525名のデータは、この分析から除外した。

各学科で1年生と2年生の授業評価得点を t 検定(両側)で比較したところ、両学科ともに1年生よりも2年生の評価得点有意に高かったのは、「もっと深く勉強したくなった」(問14)の項目においてであった。保育学科ではさらに「学生への適切な応答」(問10)、「授業の難易度」(問5)、『学生の授業への反応・意識について』に属する(問12)～(問14)、および「総合的な満足度」(問16)の5項目、「教室の大きさや設備」(問15)、「課題の量」(問18)、「実技の向上」(問20)などの項目においても2年生の得点の方が有意に高かった。これは全項目の半数近い数にあたり、保育学科では2年生になると授業評価が明らかに高くなっていることが示された。中でも、学生が自らの授業への取り組みを評価する項目である『学生の授業への反応・意識について』の向上が注目される場所である。

これに対してライフデザイン総合学科では学年間に有意差が見られたのは「教員の声の大きさや速度」(問1)、「シラバス通りの内容」(問3)、「もっと深く勉強したくなった」(問14)の3項目で、この中(問14)を除く2項目はわずかながら1年生よりも2年生の方が下回っているという結果であった。このように2年生における満足度の向上が保育学科に比べてあらわれにくいという傾向は、平成18年度、平成19年度に実施した「授業についての満足度調査」でも示されている³⁾⁴⁾。ライフデザイン総合学科ではできるだけ多くの資格を取得させるために、1年生と2年生に共通した授業科目が多く、大半の科目は1年生と2年生が同時に受講できる授業体制になっているという事情もあり、本調査においても、学年間の差があらわれにくい結果となったのではないかと推察される。

保育学科とライフデザイン総合学科との大きな違いとして、一つには、保育学科は国家資格取得という

目的に向かって、段階的に専門的能力を獲得していくという教育課程で学んでいるということ、さらには保育学科では1年生のときに保育所（園）ならびに施設実習があり、これらの実習を経て保育という仕事への興味・理解がさらに深まり、その厳しさや責任を実感するという体験が、2年生になってからの短期大学での勉学に対する新たな動機づけに寄与しているためではないかと思われる。

表4. 授業形態別の学生の授業評価

項目番号	項目		保育学科			ライフデザイン総合学科			介護福祉学科		
			平均値	(SD)	有意差	平均値	(SD)	有意差	平均値	(SD)	有意差
A	問1	教員は大きな声で聞き取り易い速さで話してくれた。	講義	4.09	(0.44)	4.09	(0.51)	**	4.01	(0.32)	
			実技・実習	4.10	(0.61)	4.41	(0.42)	**	4.16	(0.31)	
	問2	教員は授業内容が良く理解できるように丁寧に説明してくれた。	講義	3.96	(0.48)	4.01	(0.51)	**	3.76	(0.37)	
			実技・実習	3.99	(0.67)	4.44	(0.46)	**	3.94	(0.48)	
	問8	板書はわかりやすかった。	講義	3.74	(0.52)	3.86	(0.55)	**	3.58	(0.41)	
			実技・実習	3.78	(0.61)	4.39	(0.47)	**	3.75	(0.40)	
問9	授業に対する熱意や真剣さが伝わってきた。	講義	4.05	(0.42)	4.05	(0.48)	**	3.87	(0.29)		
		実技・実習	4.07	(0.58)	4.51	(0.43)	**	4.08	(0.26)		
問10	教員は学生の質問や発言などに適切に対応した。	講義	4.03	(0.45)	4.04	(0.49)	**	3.79	(0.31)		
		実技・実習	4.02	(0.61)	4.48	(0.43)	**	4.02	(0.31)		
問11	教員は授業態度の悪い学生に注意し、授業に集中できる静かな環境をつくってくれた。	講義	3.94	(0.41)	3.98	(0.47)	**	3.73	(0.33)		
		実技・実習	4.02	(0.47)	4.45	(0.39)	**	3.88	(0.36)		
B	問3	授業はシラバスに示された目標や内容に沿って行われた。	講義	3.95	(0.37)	4.04	(0.44)	**	3.76	(0.27)	
			実技・実習	4.00	(0.51)	4.38	(0.40)	**	3.90	(0.30)	
	問4	授業には十分な準備と工夫がなされていた。	講義	3.91	(0.44)	4.01	(0.45)	**	3.79	(0.32)	
			実技・実習	4.02	(0.48)	4.44	(0.41)	**	3.93	(0.34)	
	問5	授業の難易度のレベルは適切であった。	講義	3.80	(0.44)	3.86	(0.50)	**	3.63	(0.29)	
			実技・実習	3.81	(0.69)	4.32	(0.49)	**	3.78	(0.29)	
問6	授業の進行速度は適切であった。	講義	3.85	(0.47)	3.96	(0.49)	**	3.72	(0.31)		
		実技・実習	3.78	(0.70)	4.30	(0.49)	**	3.85	(0.30)		
問7	テキストやプリント、視聴覚教材の使い方は適切であった。	講義	3.93	(0.43)	4.02	(0.46)	**	3.86	(0.23)		
		実技・実習	3.92	(0.57)	4.40	(0.45)	**	3.98	(0.28)		
C	問12	授業に興味をもって熱心に取り組むことができた。	講義	3.90	(0.44)	3.85	(0.51)	**	3.63	(0.32)	*
			実技・実習	3.97	(0.56)	4.48	(0.45)	**	3.88	(0.32)	*
	問13	授業の内容を良く理解することができた。	講義	3.84	(0.44)	3.79	(0.55)	**	3.58	(0.34)	
			実技・実習	3.94	(0.63)	4.42	(0.51)	**	3.75	(0.32)	
問14	授業により新しい知識や考え方、必要な技能を習得でき、もっと深く勉強したくなった。	講義	3.86	(0.42)	3.80	(0.52)	**	3.65	(0.28)	*	
		実技・実習	3.94	(0.61)	4.42	(0.51)	**	3.88	(0.30)		
問16	総合的にみてこの授業を受けて満足している。	講義	3.96	(0.45)	3.99	(0.51)	**	3.76	(0.34)		
		実技・実習	3.99	(0.64)	4.52	(0.46)	**	3.95	(0.30)		
D	問15	この授業の教室の大きさや設備（視聴覚機器や教材など）は適切であった。	講義	3.99	(0.38)	4.01	(0.43)	**	3.98	(0.22)	
		実技・実習	4.05	(0.47)	4.45	(0.40)	**	4.11	(0.19)		
E	問17	教員の技能や実技の指導は適切に行われた。	講義	4.01	(0.61)	4.58	(0.38)	**	3.92	(0.36)	
			実技・実習	4.01	(0.61)	4.58	(0.38)	**	3.92	(0.36)	
	問18	この授業で課せられる課題の量は適切であった。	講義	3.74	(0.79)	4.48	(0.46)	**	3.80	(0.28)	
			実技・実習	3.74	(0.79)	4.48	(0.46)	**	3.80	(0.28)	
問19	与えられた課題に取り組む時間は充分にあった。	講義	3.67	(0.78)	4.45	(0.48)	**	3.77	(0.24)		
		実技・実習	3.67	(0.78)	4.45	(0.48)	**	3.77	(0.24)		
問20	授業の内容は技術や実技の向上に役立つものであった。	講義	4.09	(0.59)	4.63	(0.35)	**	4.03	(0.30)		
		実技・実習	4.09	(0.59)	4.63	(0.35)	**	4.03	(0.30)		
平均			講義	3.92	(0.42)	3.96	(0.46)	**	3.76	(0.27)	
			実技・実習	3.95	(0.58)	4.46	(0.40)	**	3.92	(0.29)	

* p<.05, ** p<.01

表5. 1年生と2年生の学生の授業評価の比較

項目 番号	項目	保育			ライフ		
		1年生	2年生 以上	有意差	1年生	2年生 以上	有意差
A	問1	4.12 (0.98)	4.12 (1.00)		4.09 (1.00)	3.97 (1.05)	**
	問2	4.00 (1.03)	4.02 (1.04)		3.95 (1.02)	3.94 (1.01)	
	問8	3.73 (1.13)	3.76 (1.13)		3.81 (1.07)	3.80 (1.09)	
	問9	4.05 (0.97)	4.12 (1.00)		4.01 (0.98)	3.96 (0.98)	
	問10	4.01 (1.01)	4.10 (1.03)	**	3.97 (0.99)	3.99 (1.00)	
	問11	3.95 (1.01)	4.01 (1.05)		3.93 (1.02)	3.92 (1.04)	
B	問3	3.98 (0.93)	3.99 (0.98)		4.02 (0.93)	3.93 (0.97)	*
	問4	3.96 (1.00)	3.98 (1.01)		3.96 (0.98)	3.94 (0.97)	
	問5	3.79 (1.08)	3.88 (1.05)	**	3.82 (1.02)	3.82 (1.00)	
	問6	3.84 (1.05)	3.89 (1.08)		3.89 (1.03)	3.89 (1.01)	
	問7	3.93 (1.02)	3.97 (1.02)		3.99 (0.99)	3.94 (1.01)	
C	問12	3.91 (1.03)	3.99 (1.03)	*	3.79 (1.04)	3.82 (1.02)	
	問13	3.83 (1.05)	3.92 (1.04)	**	3.73 (1.09)	3.79 (1.02)	
	問14	3.81 (1.06)	3.97 (1.03)	**	3.71 (1.08)	3.80 (1.03)	*
	問16	3.91 (1.04)	4.06 (1.03)	**	3.92 (1.06)	3.95 (1.01)	
D	問15	3.98 (0.99)	4.06 (1.04)	*	3.99 (1.00)	3.94 (1.01)	
E	問17	4.09 (1.01)	4.16 (1.01)		4.61 (0.72)	4.48 (0.84)	
	問18	3.76 (1.20)	3.98 (1.10)	**	4.50 (0.83)	4.39 (0.86)	
	問19	3.71 (1.22)	3.86 (1.19)		4.45 (0.92)	4.39 (0.94)	
	問20	4.04 (1.00)	4.32 (0.92)	**	4.62 (0.75)	4.51 (0.82)	

* p<.05, ** p<.01 ()内はSD

4 教員の自己点検評価報告書の結果

FD委員会よりフィードバックした学生の授業評価の結果と教員による自己評価、および学内平均値との分析結果について、教員によるコメントを求めた。総回答数は保育学科では238件、ライフデザイン総合学科では175件、介護福祉学科は45件であり、教員からの回収率は保育学科では97.9%、ライフデザイン総合学科では99.5%、介護福祉学科では100%であり、全体として98.7%の回収率であった。

自己点検報告書への回答の有無が、教員自身の授業への取り組みの姿勢のあらわれと判断されるが、2005年度、2006年度に続く今年度の回収率の高さは、本学授業担当者の学生に対してよりよい授業を提供したいという意識と意欲の高さを裏付けるものといえる。

教員からの回答の具体的な内容は付表1～付表3に示した。回答のうち、「今後の改善策」の内容を既刊報告書¹⁾²⁾と同様、「改善への意識が感じられる」、「改善点を具体的に明記」、「結果への感想」、「学校への要望等」、「アンケートへの要望」、「無回答」に分類し、その割合を図2に示した。これより、具体的な改善方針について述べられていたものが全体の57.4%を占め、次いで「改善への意識が感じられる」が18.3%であった。これは既刊報告書とほぼ同様の傾向であり、教員の授業改善への強い意欲と前向きな姿勢が今回の調査においても引き続き示された。

また、2006年度の調査から新たに導入した「学生による自由記述」については、回収、および保管は担当教員に任せているので、回収率や具体的な内容についてはここで明らかにすることはできない。しかし教員の自己点検評価報告書の中に、学生から寄せられた自由記述に対する教員の感想を記述する項目を設け、その内容を図3に示したように分類した。その結果、「自由記述の内容への感想(授業に関すること)」が57.6%と最も多かった。その他、自由記述の実施に関する変更としては、「自由記述の実施はよい・今後も継続すべき」は9.8%であった。反対に「実施に意味がない」の回答は0.4%、「無回答・白紙が多かったため回答できなかった」が26.9%と、消極的反応が併せて約4分の1にものぼった。「自由記述を実施することへの意見・感想」は、「実施時間の少なさ」、「記名式が良い」、「設問の項目をおくなど工夫が必要」などがあつた。2006年度と比較すると、「自由記述を実施することへの意見・感想」が減少し、「自由記述の内容への感想(授業に関すること)」が増加している。2006年度に「学生による自由記述」が実施開始され、1年が経過した。その間に自由記述を実施することが教員間に定着し、記述内容に関心が向けられるようになってきた可能性がある。

当面、FD委員会としては、この「学生による自由記述調査」を継続実施する方向で考えているが、実施にあたっては、学生にその主旨をよく説明して理解を図るとともに、従来以上に時間をかけて丁寧に実施するなど、今後検討していきたいと考えている。

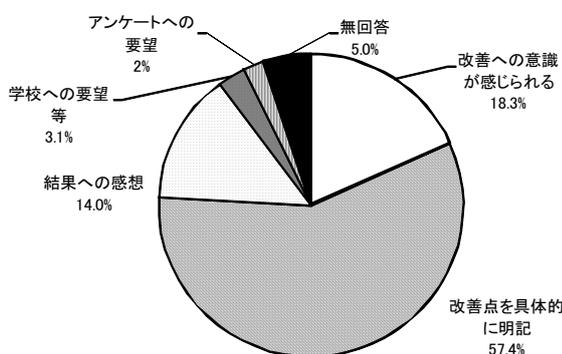


図2. 今後の改善策

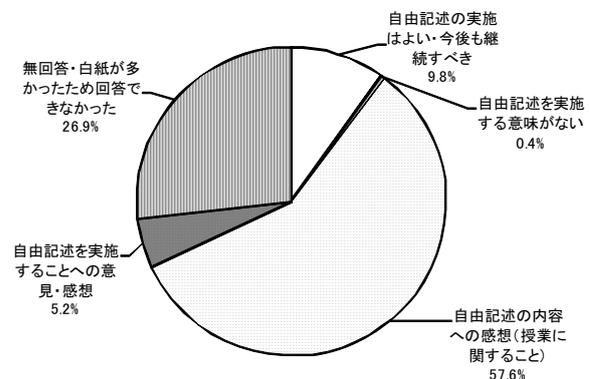


図3. 学生による自由記述

5 全体的な考察と今後の問題

冒頭でふれたように、本学で実施する「学生による授業アンケート調査」は今回で3年目を迎えた。まず、今回の目的の第一に掲げた2005年度から2007年度にかけての3年間にわたる年次的推移についていえば、全項目の評価の平均値からみて、学生による授業評価には有意な年次的変化が認められたといえる。すなわち、2005年度から2007年度にかけて、保育学科では低→高→低、ライフデザイン総合学科では高→低→高という結果であった。これらの変化が、2005年度から開始した「学生による授業アンケート調査」の結果に基づいた教員の授業改善努力の影響によるものなのか、或いは単に毎年同一集団ではない学生を対象とした調査であることに因る影響なのかどうかを判断するために年次的な変化を追跡したわけであるが、少なくともここ3年間にわたる調査では、そのいずれかを判断する一定の傾向を見出すことができなかった。いずれにしても、本調査が、年々、われわれが期待するような教育成果をあげていくためには、今後、学生の授業評価に年次的変化が生じる要因について明らかにしていく必要がある。そのためにも、新たに適切な質問項目を追加するなど、本調査内容の見直しを図っていくことが今後の課題といえる。

第二に、学生による授業評価と教員による自己評価との関係について検討した。学科によるばらつきはあるものの、大まかな傾向として『教員の授業への取り組み姿勢』に関しては、学生からの評価に比して教員の自己評価が高い傾向にあるのに対して、『学生の授業への反応・意識』に関しては、逆に学生の評価よりも教員による評価の方が低いという結果であった。学生と教員の相互評価の結果生じるこのズレは、本調査開始以来継続して見られる傾向である。何故学生と教員間の評価にこのようなズレが生じるのか、その要因についてさまざまな観点から検討・分析していくことが、よりよい授業への改善を目指す上での今後の課題となろう。

第三に、2006年度に引き続き、今年度も一つの授業あたりの受講者数、および授業形態が授業評価に及ぼす影響について検討した。保育学科では2006年度に比べて、受講者数と授業評価間に有意な相関の見られた項目が6項目増えて8項目に増加した。また、他の2学科とくらべて選択科目の多いライフデザイン総合学科では、全ての項目について学生の授業評価と受講者数との間には負の相関関係があり、受講者数が授業効果に影響する主要な要素となっていることが今年度の結果よりさらに明確になった。

授業形態に関しては、保育学科・ライフデザイン総合学科ともにこれまでと同様の傾向が見られた。すなわち、保育学科では授業形態による授業評価への影響は全ての項目において認められなかったのに対して、ライフデザイン総合学科では授業形態による影響が顕著であり、学生の授業評価は、講義・演習形態よりも実技・実習形態の方がすべての項目において有意に高かった。介護福祉学科においても保育学科同様、総体的には授業形態による影響は小さかったが、「授業への興味」、「もっと深く勉強したくなった」の2項目についてのみ、講義・演習形態よりも実技・実習形態の方が有意に高い結果となった。

第四に、今回は初めて1年生と2年生の授業評価の差異について比較検討した。その結果、保育学科では、2年生になると『学生の授業への反応・意識について』の授業評価が特に向上することが示された。国家試験を通じて資格を取得することを目的とした目的学科であり、1年生から2年生にかけて段階的に専門性を高めていくという教育課程で学んでいることによる教育成果のあらわれと推量される。保育学科における、この学びに対する意欲の伸びは2年間の教育成果と見ることもできよう。これに対して、ライフデザイン総合学科では、「もっと深く勉強したくなった」の項目で2年生の方が有意に高くなっているが、総じて学年間に大きな差異は認められなかった。種々の資格取得を中心とする学科の特質上、1年生と2年生の共通科目が多く、また1、2年生が同時に受講する授業体制となっていることなどの影響で、学年間の差異があらわれにくいのではないかと推察される。

学生による授業評価と同時に実施した教員による自己点検評価報告書の提出は全体で458件、回収率は専任、非常勤を含む全教員の98.7%と極めて高かった。報告書のコメントを分析した結果、「改善点を具体的に明記」、「改善への意識が感じられる」が全体の約76%を占め、学生による授業評価を謙虚に受け止め、学生が期待するよりよい授業の実践に向けて日々の精進に努める教員の変わらぬ姿勢がうかがえた。

6 要 約

2005年度、2006年度の調査にひきつづき、2007年度の前期末と後期末に、本学で開講されている授業科目について「学生による授業アンケート調査」を実施した。

学生に対する調査の実施方法は、5段階評定尺度によるアンケートと、自由記述の2種類とし、同時に授業担当者（以下、教員）による自己評価を実施した。また教員に対しては、学生による授業評価結果に加えて、その結果と教員による自己評価、および学内平均値との関連性をグラフ化したデータを個別にフィードバックし、学生による授業評価に対する自己点検評価報告書の作成を依頼した。

2007年度に開講された授業科目数は、保育学科107、ライフデザイン総合学科173、介護福祉学科33の計313であった。その中、手違いにより実施できなかった授業科目1と教員の実施拒否による授業科目1を除いた総計311科目について調査を行った。また授業アンケートを行った学生数は、保育学科199名（1年94名、2年・科目履修生等105名）、ライフデザイン総合学科223名（1年108名、2年115名）、介護福祉学科28名（1年）の総計450名であった。さらに実施した授業の中、「教員による自己点検評価報告書」の総回答数は458件、回収率は98.7%であった。調査の内容は既刊報告書^{1) 2)}と同じく別紙2～4に示した通りで、回答はアンケート、自由記述ともに無記名方式とした。調査の分析結果を要約すると以下の通りである。

(1) 授業評価の分析にあたっては、授業科目ごとに学生による授業評価点と教員による授業評価点を算出、これらの得点に基づいて、学科別に学生による得点の平均値と教員による得点の平均値を求めた。最初に授業評価項目を、A『教員の授業への取り組み姿勢』（問1、問2、問8、問9、問10、問11）、B『授業内容』（問3、問4、問5、問6、問7）、C『学生の授業への反応・意識』（問12、問13、問14、問16）、D『設備』（問15）、E『実技・実習』（問17、問18、問19、問20）の5つのカテゴリーに分類して、それぞれのカテゴリー毎に「学生による授業評価」（以下、学生評価）と「教員による自己評価」（以下教員評価）間の比較検討をおこなった。

その結果、保育学科では、Aの『教員による授業への取り組み姿勢』において教員評価の方が学生評価を有意に上回っており、教員の方は総じて真剣に熱意をもって授業に取り組んでいると自身を評価しているが、学生の方は教員が期待しているほど高い評価をしていないという結果が示された。一方ライフデザイン総合学科では総体的にみて教員評価よりも学生評価の方が高く、特にCの『学生の授業への反応・意識』、Eの『実技・実習』においてその傾向が顕著であった。すなわち学生の方は授業に熱心に取り組み満足していると自身を評価しているが、教員の方は学生の授業への取り組み姿勢をそれほど高く評価していないという結果が示された。介護福祉学科では、Aに属する「授業に対する熱意と真剣さ」では教員評価の方が学生評価を有意に上回り、Cに属する「授業に対する満足度」では学生評価の方が教員評価を有意に上回る結果であった。

(2) 保育学科とライフデザイン総合学科について、2005年度から2007年度にかけての学生による授業評価結果の年次的推移の比較を行った。アンケートの全項目についての平均値を求め、その年次的推移をみると、保育学科では3.94→4.09→3.93、すなわち低→高→低と変化したのに対して、ライフデザイン総合学科では4.11→3.93→4.04、すなわち高→低→高という変化を示した。このように調査開始後3年目の段階においては、何れの学科においても、学生評価実施による年次的な成果が見られたと判断できるような一定の傾向を見出すことはできなかった。

(3) アンケートの各項目別に授業評価の得点と受講者数との相関係数を求め、学生による授業評価と受講者数との関連性について検討した。その結果、ライフデザイン総合学科においては全項目において高い負の相関関係が認められ、相関係数の有意差検定においても有意な負の相関関係、すなわち受講者数が少ないほど授業評価が高くなることが認められた。これは2006年度にも見られた結果であり、ライフデザイン総合学科においては受講者数が授業効果に影響する要因の一つであることは明らかといえよう。一方保育学科においては受講者数による影響は、ライフデザイン総合学科ほど顕著には認められなかった。

(4) 授業形態（講義・演習形態と実技・実習形態の2種類）の違いが学生評価におよぼす影響をみるため、

学生評価を授業形態別に算出し、講義・演習形態と実技・実習形態のそれぞれの授業評価点を t 検定（両側）により比較した。その結果、保育学科では授業形態による授業評価への影響は全ての項目において認められなかったが、ライフデザイン総合学科では全ての項目において、実技・実習形態の授業の方が講義・演習形態の授業に比べて有意に評価が高い結果であった。介護福祉学科では、Cに属する「授業への興味」と「もっと深く勉強したくなった」の2項目においてのみ、実技・実習形態の授業の方が講義・演習形態の授業に比べて有意に評価が高い結果であった。

(5) 1年生と2年生の授業評価点を t 検定（両側）で比較した結果、保育学科、ライフデザイン総合学科に共通して1年生よりも2年生の評価が高かった項目はCに属する「もっと深く勉強したくなった」であった。保育学科ではさらに8項目について2年生の評価が1年生を上回ったが、中でも学生が自らの授業への取り組みを評価する項目であるCの『学生の授業への反応・意識』の向上がみられたのが注目に値する。

(6) 教員の自己点検評価報告書を分析した結果、「自由記述の内容への感想(授業に関すること)」が57.6%と最も多かった。その他、自由記述の実施に関する変更としては、「自由記述の実施はよい・今後も継続すべき」は9.8%であった。反対に「実施に意味がない」の回答は0.4%、「無回答・白紙が多かったため回答できなかった」が26.9%と、消極的反応が併せて約4分の1にもものぼった。「自由記述を実施することへの意見・感想」は、「実施時間の少なさ」、「記名式が良い」、「設問の項目をおくなど工夫が必要」などであった。

引用した既刊報告書

- 1) 「授業評価報告書—よりよい授業への改善を目指して—2005」(2006年7月), 四條畷学園短期大学FD委員会(近藤淑子, 北村瑞穂, 井上泰子, 石村哲代)
- 2) 「授業評価報告書—よりよい授業への改善を目指して—2006」(2007年7月), 四條畷学園短期大学FD委員会(北村瑞穂, 近藤淑子, 井上泰子, 石川肇, 石村哲代)
- 3) 「平成18年度 授業についての満足度調査」(2007年5月), 四條畷学園短期大学FD委員会(北村瑞穂, 近藤淑子, 井上泰子, 石川肇, 石村哲代)
- 4) 「平成19年度 授業についての満足度調査」(2008年9月), 四條畷学園短期大学FD委員会(北村瑞穂, 井上泰子, 石川肇, 奥田純, 鍛冶谷静, 石村哲代)

付表1 教員による自己点検報告書(保育学科)

前期・後期	授業コード	科目名	担当者	1. 学生による授業評価調査の集計結果について	2. 教員による自己点検評価から見た集計結果について -昨年度の結果と比較して-	3. 学生の自由記述についてご意見があればご記載下さい	4. 2と3の結果より今後の改善点について
前期	101	子ども文化	増谷尚子	全体的にとっても低い評価だった。とても人数の多い授業で全体的に注意がいきとどかなかった部分はあります。	授業のとくみ方や、話し方等色々工夫してみたが生徒には熱意が伝わっていないようだ。		人数が非常に多く生徒一人一人となかなか向き合えないが、この授業は保育の現場にたった時にとでも役にたつと思うので生徒が前向きに取り組めるよう改善策を考えていくべきだと思います。
前期	101	子ども文化	淡路和子	2項目を除いては5、そう思う4、どちらかといえばそう思うの回答が50%を超えていたが、問11の授業態度の悪い学生に注意し、静かな環境を作る、の項目では47、3%という結果になった。	昨年度、配付資料など授業準備の項目で予想以上の高い評価を受け今年も努力したが、学生評価が全項目平均で1、2の回答合計が8%弱あった。原因について考えてみたい。	特になし。	「板書」の項目は、教室に音楽用移動式白板しかないので、教員、学生とも答えにくい。善処したい。
前期	101	子ども文化	向山裕子	全体に学内平均より低い評価ですが、特に問11の授業態度の悪い学生に注意し・・・の評価が低いように思います。	昨年度の学生評価は比較的自己評価に近い結果でしたが今回は差異が見られました。	自由な席で授業を受けたかった。席が決まっている方が良かった、と正反対の意見に別れました。	真剣に授業に取り組んでいる学生にとっては、他の学生の私語は騒音以外の何ものでもなく、授業に集中できる環境づくりという点についてより考えなければと思いました。
前期	101	こども文化	島長 恵美	結果からは教員の熱意と学生の評価のずれが見られて残念であった。今年は、特に私語の多い学生が見られ、その対応にとられすぎた面があったかもしれない。問8板書については講義と言うより実技に近い授業なので判断が難しい面があります。	昨年前期の結果では、学生評価が学内平均を上回っている項目がほとんどでしたが、今年は全項目で学内平均を下回っていました。授業内容は昨年と大きな変化はなかったのですが、今年は一部に私語の多い学生が目立ち、広い教室での大勢の学生に対する授業の難しさを感じました。	無記名なので各個人の率直な感想等も書かれていて良かったと思います。	教員の側から見た「保育士を目指す者として取り組んでおくべきこと」の思いが学生に充分伝わらなかった面が残念です。来年度はさらなる工夫をして授業の臨みたい。
前期	102	くらしと環境	藤田 眞一	本年度は同一時間帯に2科目の選択科目が開講され、受講生が昨年度に比較して半減(13名)であった。選択科目、さらに1時間目の講義であったにもかかわらず、熱心に聴講してくれた。残念ながら1名の学生(7.7%に相当)が意に添えなかったのか、評価1を9設問に付けていた。全体的におおむね評価4であり、平均的な講義であったと感じる。	シラバスに示した目標と内容を忠実に実行したが、休講とその補講との関係で受講生に幾分負担をかけた。教科書を全く使わない講義の形態になっていないのか、設問6、7、8の評価が3であった。これは受講生が1年の前期であり、大学の講義形態に慣れていないのが一因であろう。	自由記述欄に意見及び指摘など記入する者が少ない。時間をかけても、ほとんどの者は筆を置いていた。絵文字入りの文章もあり、文章の書き方の指導も必要である。	昨年と同様、受講生の理解力(学力)に大きな差があることを感じます。講義内容の検討と演習的要素も導入し、全員が楽しく受講できる講義でなくてはと考えております。
前期	103	日本国憲法	沼口智則	シラバスどおりに進んでいても、そうは思わない、どちらかと言えばそう思わないで10%あった。ほかの問も含めて、授業全体が理解できていないのではないかと考えざるを得ない。板書は長い黒板に左から書いて横長になり、見にくかったかもと反省している。	こちらの熱意や授業での様々な工夫と生徒の評価がある程度食い違っている部分があり、こちらのエネルギーや内容が生徒に充分伝わっていないと感じた。	かなり優しい内容の授業だと思っているのに、生徒には難しかったと言う自由記述が2名あったのでこれからは生かそうと思う。	徹底的に生徒の立場に立った授業やその工夫が必要だと痛感しています。こちらの自己満足に終わらせないよう心がけたい。内容のレベルを落とさず、わかりやすく理解を深めさせる授業を考えています。
前期	104	英語(英会話A)	モルデン	帰国されたため、データなし。			
前期	105	英語Ⅱ(リーディング)	井上泰子	選択で、4年制大学への編入希望の学生のレベルに合わせたため、無理を承知でかなりの量をこなした。学生にはかなりの負担だったので、予想通りの反応であったと思う。学生の基礎学力の差が大きく、焦点の合わせ方が難しかった。	昨年度は受講者が1名で、本年度は13名に増えた。5限目の授業にもかかわらず、出席率が高く、まじめな学生が多い。自分としては、精一杯やっているつもりが、学生によっては苦しいだけと思われたのかもしれない。	1回生では英会話が中心で、講義形式の授業に慣れていないため、授業の進め方が速く、ノートを取るだけで大変だったという意見が多かった。中には、文法、単語、イディオムなどの知識が増え、選択してよかったという声もあった。	通年授業で、小説を一冊読み切ることを目標としているが、学力差が大きいため、もう少し説明を丁寧し、注釈のプリントにも改善を加え、小説を読むことの楽しさを教えたい。
前期	106	スポーツⅠ	黒石久昭	水泳という実技種目は、体育的価値論からは、すぐれた実技種目であるが、体育授業としては、一般的に嫌われている。それにもかかわらず、4点台の評価は、まずまずと言ったところであると思う。	保育学科においては、いずれも昨年よりも評価が少し下がっているが、これは、入学時の動機付けの問題とも関係しているのではないと思う。なぜなら、私の指導方法は、昨年と今年もあまり変えていないからである。	当初は、課題が重く感じられた学生も、授業後半になると、達成意欲がでてくるようである。	ガイダンスでの説明が、理解されているものと思っていたが、理解している学生が少なく当初のガイダンスに今後工夫の余地がある。
前期	106	スポーツⅠ	籾 功	学生からは、評価4以上が70パーセント以上あり、よい評価を頂いたと思う。ただし、実技科目のため、テキストや板書がないため、それらの項目の評価は下回っていた。また、授業の難易度のレベルは適切だとは思わないが6パーセントあり、少し気になった。	自己評価と学生評価との差はあまりなく、教員の気持ちが生徒に伝わったと思う。	特になし。	授業の難易度のレベルを考え、学生に身につく授業をしていきたい。

前期	107	情報基礎	守屋誠司	丁寧な説明、授業の進行速度、質問への適切な対応の項目の評価が他より相対的に低かったので改善したいと思う。一方、技術の向上に役立つという意見が多かったため、授業の目的は達していると思われる。ただし、各クラス数人がいわゆる落ちこぼれている。空き時間を利用した積極的な学習が望まれる。	学生はよく理解していると答えているが、特にマニュアルを自分で読みこなす力が付いていないので、教えられたこと以上を独学するのは難しいであろう。	進度が早いという意見と、こんな簡単な内容では不十分という意見がある。入学時点での個人差が広がってきた感じがする。	能力別クラス編成が必要であろう。
前期	108	情報基礎	渡邊伸樹	ほとんど学内評価からは高かったが、まだ伸びる余地があるので、改善の余地があると考ええる。	学生評価が全体的に自己評価を上回っていた。	とくにありません。	授業の内容(課題)の変更により、より改善する必要があると考える。
前期	109	保育者基礎演習A	近藤・石村	近藤先生8回、石村5回、卒業生の体験談1回の授業構成とした。途中で教員が交代することにより抵抗のある学生も少なくないように見受けられた。卒業生の体験談については数多くの感謝の声が寄せられた。しかし評価は全項目について3点台で必ずしも高いとはいえない評価であった。授業態度の悪い学生が多く、両教員ともに厳しい姿勢で臨んだことの影響もあるのではないかと考えている。	全般的に自己評価が学生評価を上回っていた。1/3程度の学生には当方の熱意が伝わっていないと感じている。現在の学生にとって「よりよくあってほしい」との思いはなかなか通じないようである。しかし「尊敬される保育者」を育成するためには厳しさも必要である。あきらめずに努力を続けていきたいと考えている。	「役に立った」、「立派な保育者になるためには大切な内容」との声が聞かれる一方で、「厳しい」、「疲れる」、「緊張する」との声も聞かれた。高校卒業後間もない学生にとっては90分間の緊張を強いられることはさぞ苦しいことに違いない。厳し過ぎるのかな、と改めて問い直しているところである。	石村に関しては、マナーの時間であるから、私語はしない、飲み食いはしない、携帯は禁止、パジャマは禁止を約束させての授業を実施した。窮屈に感じる学生が多いことは承知の上である。評価は高いとはいえなかったが、教科の性質上、この方針は変えたくない。しかし厳しいと感じさせない、そうだと思うような言葉遣いなどに留意して成果を上げられるように努力していきたいと考えている。
前期	110	言葉と表現 I	工藤真由美	学生から全項目に亘り大変高い評価を頂いたことは、正直申し上げて嬉しいですが、学生が教員が思う以上に満足してくれているということは、違う意味で教員と学生にズレがあるということであり、学生の満足の中身について慎重に分析していかなければならないと思う。	昨年でも高い評価を頂いていた。授業で昨年と変更したのは、より学生参加型の内容に変えたということであり、それが今回のさらに高い評価へつながったのではないかと自己分析する。	実習で使えそうな内容でよかったか、わかりやすくてよかったという意見が大勢を占めた。	学生が喜ぶ授業(すぐに飛びつく)と厳しくても長い目で見てために学生参加型の内容に変えたその認識の差を埋める努力(言葉がけなどによって)が今後の課題だと思う。それが授業内容の高度化につながり、質の高い学生の育成になると思われる。
前期	111	音楽 I	中谷孝平	与えられた課題の量の多さとそれに取組む時間の不足を感じている学生が多い。	教員の熱意や学生への適切な対応が少々伝わり難い感がある。	学生の忌憚のない意見がよく分かるのでよいと思う。	音楽 I の学生の中にはかなりの数ピアノ初心者がいるため、教員側は学生たちが短期間で最大限の成果を上げることが願っている。学生がその必要性を自ら感じて学んでくれるように努力したい。
前期	111	音楽 I	森脇由紀	各項目とも自己評価が最も高く学生評価と大きな開きがある。厳粛に受け止め後期の参考にしたい。	初年度なので解りません。	前向きな意見が半数以上ある反面、ピアノの難しさを訴える記述も多く、よりわかりやすい指導方法を考えていきたい。	与えられた課題に取り組む時間が無かったという意見が多かったため、うまく課題をこなしていけるよう自主練習法なども工夫してもらえよう取り入れたい
前期	111	音楽 I	早川未紗	全体的に学生は授業に満足して、とり組み、授業内容を理解してくれているように思います。	自己評価が全項目とも学生評価より上回っているのが気になります。少し工夫をしなければなりません。	学生の率直な意見を知ることができるので、とても良いと思います。	学生の意欲、技術が向上するように授業の方法を考えていきたいと思っています。
前期	111	音楽 I	野間路代	ほとんどの結果が学内平均より下回っている。特に個人レッスンについての評価が低いのが気になる。	自己評価が学生評価に比べて大きく上回っている。特に1年生は課題の量も多く、学生が負担に思うことも多々あったかと思われるので、改善できるのであれば考えたい。	「自由記述」だけでなく、ほとんど白紙の学生が見受けられるのが残念だ。	とはいえ、こちらとしては勉強して欲しいと思って課題を与えるのであるから、学生にももっと頑張ってもらいたい。そのうえで、課題の見直し、または学生の接し方を考えないといけないと思う。
前期	111	音楽 I	中東愛子	全ての項目において自己評価より学生評価が低いように思う。	学生評価の方がやや下回っていた。授業内容を良くする為に教員がもっと工夫しなければならない点がある。		教員の熱意が伝わるように、学生とのコミュニケーションをもっととって、学生の期待に応えていきたい。
前期	111	音楽 I	牧田さやか	そうは思わないという回答が一番多いのが、授業のレベルや、それに取組む時間についての質問だった。しかし、問14や、17などの結果を見ると、総合的に、学生にとって充実した授業内容になっていると思う。	教員による自己評価よりも、学生評価の方が下回っている事は、一昨年とも似通っている。		ピアノに触った事もないという学生を、2年間のあいだに保育士になれるだけの実力をつけたいといかないので、それだけ学生の努力は必要となる。そのためにも、充実した指導内容にしていきたいと思う。
前期	111	音楽 I	井後 和恵	課題に取り組む時間が少ないという評価が多い。学生も他の勉強、アルバイト等で忙しいようだが、確実に課題をこなし、自習する習慣を付けるよう指導したい。	こちらの熱意は伝わっているようだが、昨年より評価が下がっている。深く反省したい。授業の進め方、学生との接し方をもう一度考えたい。		一年生の内に自習の習慣を付けさせたい。教員側の目標を明示するとともに、学生にも目標を持って勉強できるよう指導していきたい。

前期	111	音楽 I	穂谷さつき	毎年のことながら「課題の量」「課題に取り組む時間が十分でない」ことが学生にとっても教員にとっても問題点になっている。	課題に取り組む時間、課題の量、授業の難易度のレベルについて比較的评价が低くなっているのが気になります。		音楽 I の授業は初心者にとって授業の取り組みや練習量等について具体的に考え勉強していくことが難しいと思う。学生にその点をできるだけ理解してもらうために指導面の工夫をしたいと思います。
前期	111	音楽 I	藤本 紀子	教員の熱意は学生に伝わっているようだが、学生自身が授業の難度・進行速度に対しては評価が低く、課題量に問題を抱えているようだ。	昨年に比べてまとまりのあるクラスで、課題に対しても前向きに取り組めているように見えたが、自己評価は意外と低い。100%の力で授業に臨めていないようだ。		音楽 I は初めてピアノを学ぶ学生にとっては、課題や試験も多い厳しい授業だが、学生の精一杯の努力を引き出せるように個人レッスンの利点を生かして、一人一人の声に耳を傾け、高い意欲を引き出せるよう努力したい。
前期	111	音楽 I	久保雅世	クラスによって多少のばらつきはあるが、問5.6.18.19の回答が他の項目と比べて、学生の評価が落ち込んでいた。教員の評価と比べても、大きな差があった。	課題の量や、レベル、進行速度は去年度と殆ど変わらないが、今回の学生の評価は、低いものであったと感じる。試験からも、学生達が毎月の課題をこなしていくのに精一杯、という様子が感じられた。2年間という短い間に、実践で使える実技を身につけるためには、練習する時間を見つけ、取り組むという習慣を身につけていけるよう、一層の指導が必要、と感じる。	学生の素直な意見が聞けて良かった。	実技の授業は、授業だけで技術が身につくものではなく、やはり学生自身が自分で練習し、取り組むことが重要である。レッスンでは、個々の能力に合わせた指導の中で、意欲的に取り組めるようなレッスンを心掛けたい。
前期	112	音楽 I	河津春奈	ほぼ予想どおりの結果であった。問6が教員との差が大きいように思われる。	自己評価より学生評価が上回っているものもあり、特に問9に関しては教員の熱意が伝わっているようで嬉しく思った。		問6が教員との差が大きいように思われるので、改善が必要かと思われる。
前期	112	音楽 I	中谷孝平	おおむね自己評価の数値と学生評価数値が各問いごとに連動している様子。ただし、同じ音楽 I でも騒がしい雰囲気のあるクラスの結果は教員と学生のお互いの評価にかなりの乖離がある。	おおむね自己評価の数値と学生評価数値が各問いごとに連動している様子。	学生の忌憚のない意見がよく分かるのでよいと思う。	実技習得、向上を目的とする科目の場合、それらをどれだけ自己のものにしたかという学生の意識が大切であると思う。その目的意識を学生が持ち続けられるような態勢を考えたい。
前期	112	音楽 I	森脇由紀	各項目とも自己評価が最も高く学生評価と大きな開きがある。厳粛に受け止め後期の参考にしたい。	初年度なので解りません。	前向きな意見が半数以上ある反面、ピアノの難しさを訴える記述も多く、よりわかりやすい指導方法を考えていきたい。	与えられた課題に取り組む時間が無かったという意見が多かったので、うまく課題をこなしていけるよう自主練習法なども工夫してもらえよう取り入れた。
前期	112	音楽 I	吉川陽子	問1~16の質問に対しては学内平均とほぼ同じ値であるのに対し、17~19の実技系、特に練習時間に関して値が下がっている事が気になる。	ほぼ全ての項目において、教員の評価を学生の評価が上回っているということは、教員側がもっと改善すべき事があることを物語っているのでは。	学生の正直な意見に接することが出来、とても参考になる。	練習時間の作り方等、改めて伝え、学生のやる気を引き出せる策を案したい。
前期	112	音楽 I	早川未紗	全体的に学生は授業に満足してくれていると思います。しかし、問18・19が低いのが気になります。	課題にとり組む時間や量について、教員と学生の評価に多少の差が出ているので、考える必要があると思います。	一人ひとりの学生の意見が知ることができると、とても良いと思います。	学生の意欲、技術が向上するように授業の方法を考えていきたいと思っています。
前期	112	音楽 I	大森由美子	問5.6.18の項目で教員・学生間に差が出た。	全力で授業をしているので自己評価を高くつけたが、学生評価が低い項目があり、反省している。	「課題が多い」という意見が多数あった。	卒業後のことを考えると課題を多く習得しなければならない。より効率のよい習得方法を学生達に指導していきたい。
前期	112	音楽 I	井後 和恵	こちらの熱意に関しては、平均を上回る評価を得ているが、レベル、進度に対しての評価は低い。もう一度課題の与え方、説明の仕方等を見直したい	学生の評価が下がっている。このことをしっかり受け止め、学生との接し方、授業の進め方等もう一度考え直したい。		課題の量は減らすことができないが、保育士として必要なスキルを身につけるためであり、将来役立つと学生に説明しながら授業を進めたい。
前期	112	音楽 I	岡田麻耶子	自分自身では全力で授業に取り組んで来たつもりだったがそれに見合った評価が得られず少々残念に思います。	今年度より勤務しているのので解りません。	私が日頃感じていたことと学生の記述の内容が近く、今後の参考にさせていただきたいと思えます。	今回の結果を参考に反省すべき点は何か見直していきたいと思っています。
前期	112	音楽 I	穂谷さつき	毎年のことながら「課題の量」「課題に取り組む時間が十分でない」ことが学生にとっても教員にとっても問題点になっている。	昨年同様「課題に取り組む時間」について評価が低い。		音楽 I の授業は初心者にとって授業の取り組みや練習量等について具体的に考え勉強していくことが難しいと思う。学生にその点をできるだけ理解してもらうために指導面の工夫をしたいと思います。

前期	112	音楽 I	久保雅世	クラスによって多少のばらつきはあるが、問5.6.18.19の回答が他の項目と比べて、学生の評価が落ち込んでいた。教員の評価と比べても、大きな差があった。	課題の量や、レベル、進行速度は去年度と殆ど変わらないが、今回の学生の評価は、低いものであったと感じる。試験からも、学生達が毎月の課題をこなしていくのに精一杯、という様子が感じられた。2年間という短い間に、実践で使える実技を身につけるためには、練習する時間を見つけ、取り組むという習慣を身につけていけるよう、一層の指導が必要、と感じる。	学生の素直な意見が聞けて良かった。	実技の授業は、授業だけで技術が身につくものではなく、やはり学生自身が自分で練習し、取り組むことが重要である。レッスンでは、個々の能力に合わせた指導の中で、意欲的に取り組めるようなレッスンを心掛けたい。
前期	113	音楽 I	金香観	授業態度に比例していると感じました。何かを学ぼうとする気のある子はそれなりの評価をしてくれると思います。	今年度からの勤務ですので比較はできません。		いくら熱心に指導しても学生自体に向上心が無ければ何も進歩しません。大学生はもう大人なので、各自がしっかりと将来に向けて真剣にならなければならないと思います。
前期	113	音楽 I	中谷孝平	与えられた課題の量の多さとそれに取り組む時間の不足を感じている学生が多い。	昨年度に比して授業の難易度や進行度のアップを教員も学生も感じているようだ。しかし、学生に課した課題の量やそれに取り組む時間の不足に関しては、教員と学生とに乖離があった。	学生の忌憚のない意見がよく分かるのでよいと思う。	学生が与えられた課題の量を多くと感じること、そしてそれに取り組む時間に不足を感じることは、学生たちの意識の持ち方如何であるように思う。モチベーションの向上を学生とともに探って行きたい。
前期	113	音楽 I	佐藤久美子	すべての評価が3点台という厳しい結果でした。学生の雰囲気を見ていても一部の学生をのぞき、結果はおおよそ予想どおりです。	教員と学生との評価に大きく差がついているように思う。音楽 I はピアノ。声楽、初心者学生にはかなり厳しい授業だったと思うので、少し気が減らしてしまっただけかなと感じます。		実技は授業だけでは絶対に上達しません。一日数分でも良いのでピアノ、声楽に向き合ってくれるととても違いますができます。今後も学生とコミュニケーションを取り、学生の考え方を理解したいと思います。
前期	113	音楽 I	吉川陽子	全体的「どちらでもない」への値が高いことが、学生の興味をかきたてる授業ではないかと思った。又、「そうは思わない」が8%いることに危機感をもちたなければいけないと思う。	教員と学生との評価に大きく差がついているように思う。この点気がになり、後期への課題として取り組むべきだと思う。		練習時間の作り方等、改めて伝え、学生のやる気を引き出せる策を思案したい。
前期	113	音楽 I	早川未紗	学生評価が非常に低いと思います。	自己評価と学生評価にはとても大きな差を感じます。こちらの熱意が学生に伝わっていません。	自由記述は学生の率直な意見を知ることができるので、とても良いと思います。	学生の授業に対する意欲が向上するように授業の方法を考えていきたいと思います。
前期	113	音楽 I	野間路代	他の授業の集計結果に比べて、学生評価の平均値が非常に低いことが気になる。また、評価詳細から、「そうは思わない」という回答が、他のクラスに比べて多いのが気になる。	自己評価が学生評価を大きく上回っている。特に、問9が気になる。全員がそうだとはいえないと思うが、一部の学生と教員側の意見の違いがみられるのではないかな。	ほとんど白紙で提出してあるので。あまり参考にならない。	学生との接し方、どうすれば学生がやる気になるのか、きちんと向き合って話をしたり、考えていかなければいけないと思う。
前期	113	音楽 I	河津春奈	どの項目も教員の自己評価と学内平均評価に比べて明らかに評価が低い。	昨年同様だが、教員の評価が学生評価を上回っている。特に差が大きい問6に関しては、改善が必要かと思われる。		教員の評価と学生評価の差が大きい。教員は学生の学習意欲が高まるように、授業内容の改善が必要だと思われる。
前期	113	音楽 I	淡路和子	進行速度と難易度の項目で学生評価と教員評価の差が大きかった。	昨年に引き続きピアノの初心者が多数なので、読譜力・テクニクの基礎力アップのための教材を作成、採用しているが、学生の評価は昨年度より低かった。教材は配布するだけでなく、必要以上に十分と思える説明が必要な時代に来ていると実感している。複数担当の授業なので、教員間で再認識したい。	授業形態はピアノの個人レッスン、声楽グループレッスンである。声楽を45分づつ2クラスに分けて担当しているが、2グループのうち、1グループは私語が多くその対応に時間を要した。声楽授業に対する数枚の批判の自由記述があったが、1枚だけ、その対応に対する肯定的な自由記述があった。今回の結果は真摯に捉え、しかしこれからは将来幼児教育の現場に立つ「保育学科学生」に相応しい授業を進めていきたい。	今までの学生には必要がなかった説明を、今後はしなければならぬと感じている。十分考慮し善処したい。
前期	113	音楽 I	岡田麻耶子	高い評価も低い評価もおおむね予想どおりでしたが、低い評価にある「課題の量は適切か」や「取り組む時間は十分か」は、私も日頃から学生に直接言われたことなので、今後授業内で改善していく必要があるかもしれません。	今年度より勤務しているのので解りません。	無記名なので学生も書きたいことを直に意見をくれたので一番参考になりました。	学生がなにを求めているのかすばやくキャッチし、彼女らの需要とこちらの供給が一致するよう常にアンテナを張っておく必要があると思います。
前期	113	音楽 I	向山裕子	すべての項目で学内平均を下回りかなり厳しい評価だと思えます。課題量、進行速度、取り組み時間に不満を感じている学生が多いようです。	自己評価も昨年に比べ全体に低く、課題量や環境づくり等反省、改善していきたいと思えます。		課題量については、個人差があるため、個々の学生に見合った課題を吟味し、学生の意欲を促すよう、後期も指導していきたいと思えます。

前期	114	音楽Ⅱ	佐藤久美子	どの項目も4を上回る評価だったので授業内容を理解し、実技の向上に役立ったのではないかと思います。	教員による自己点検評価と学生の評価にあまりさが無くなってきていることをうれしく思います。今後差を縮められる様努力していきたいと思います。		実技授業のため一人一人のレベルはもろろ違うので、もっと個人にあったレッスン内容を考えなければならぬと思います。それにコミュニケーションを取り、補講レッスンを行い、学生の意欲を高めていきたいと思ひます。
前期	114	音楽Ⅱ	増谷尚子	全体的に高い評価だった。学生も意欲的に授業に取り組んでいた事が伺える。	学生からはよく「課題が多い」「テストが多い」という言葉をききます。一人一人のレベルにあった授業をこちらがしているつもりでも伝わっていない事もあります。学生とのコミュニケーションをよくとり言葉をかわしながら授業をすすめていきたいと思います。		ピアノとは保育の現場でとても必要なものです。一人一人が興味をもち一つ一つの課題をこなす事が楽しく感じ、目標をもって勉学に取り組めるよう共に努力していきたいと思ひます。
前期	114	音楽Ⅱ	中東愛子	学生の評価はあまり良いとは思われない。「どちらかといえばそう思う」が多かったのが残念だった。	学生評価が自己評価を下回らないような授業の取り組みが今後の課題だと思ひます。		常に学生が意欲を持って授業を行えるような工夫、努力をしたいたい。
前期	114	音楽Ⅱ	木谷祐子	学生評価は思うほど伸びていませんでした。全ての項目において、教員の自己評価の方が高いという点に気がかかります。	昨年度はもう少し、学生評価が高かったと記憶しています。日頃指導して感じることは、自ら進んで曲を消化する姿勢が弱いということです。誰のために練習をするのか…自分の身なり将来生きてくると考えることができれば、受け身ではなくなってくると思ひます。簡単ではないですが、そういう部分もうまく指導していけるように努力したいと思ひます。	短い時間の中でということもあってか、記述のないものが多い数ありました。自由記述の良さが生かされていないと感じました。今後はもう少し時間をとりたいと思ひます。	課題(童謡)については、できるだけ多くなるように指導を進めましたが、何よりも学生自身の意識の持ち方を方向付けることが先ず大切だと思ひました。実際に現場に立った時、「ああもつとやっつおけば良かった」と思ふことのないように、学生自身が先を見据えて意欲を持って取り組めるよう、適切な言葉をかけながら指導していきたいと思ひます。
前期	114	音楽Ⅱ	角野美穂	学内平均と大きな差はないが、授業の難易度のレベルなどで、学内平均を少し下回っている項目があった。	すべての項目で自己評価が学生評価を上回っている。教員はかなり熱意をもって臨んでいるのに、学生が少しとまどっているようだ。課題の量の多さやそれに取り組む時間が充分なく、悪戦苦闘しているように思える。		課題を与える時に、学生が充分理解して、自分で効率よく取り組めるように、それぞれのレベルに応じていねいに説明していきたいと思ひます。
前期	114	音楽Ⅱ	久保雅世	2クラスの集計結果を頂いた。1つのクラスで、課題の量と、それに取り組む時間が適切であったか、と言う問いに対して、そうは思わないと言う回答が目立った。学生の力量を見極めつつ、課題を選ぶ事も必要だが、学生と話し合いながら、意欲的に取り組んでいける指導を心掛けたい。	殆どの項目で、学生評価が自己評価を下回っている。クラスによってまちまちだが、その差が特に大きく開いてしまっている項目については、その差をうめていく必要があると思ひます。	具体的な意見を聞くことができた。今後の改善につなげたい。	2年生は、実習や就職を目前に控えているため、現場で実践できる力を、学生のうちにできるだけつけて欲しいと思ひます。課題をこなしていくには、大変な時間と努力が必要だが、その必要性を日々伝えていきたいと思ひます。
前期	114	音楽Ⅱ	岡田麻耶子	同じ2年生でも組によって評価が大きく違い、同じ授業内容なのになぜこのような結果になったのか見直す必要があると思ひました。	今年度より勤務しているのので解りません。	「就職後に役立つ授業だった」と書いてくれた学生が多くいて大変うれしく思ひます。また意見が多くあったので、それだけこの授業に関心を持ってくれたのかと知ることができて良かったです。	2年生の学生の中で、個人個人の能力差が大きいのが目立ち、彼女たちが1年生の時のような指導を受けてきたのか、またどこに問題があったのか見直して行かないとこの差は縮まらないと思ひました。
前期	114	音楽Ⅱ	金香敬	授業態度に比例していると感じました。何かを学ぶとやる気のある子はそれなりの評価をしてくれると思ひます。	今年度からの勤務ですので比較はできません。		いくら熱心に指導しても学生自体に向上心が無ければ何も進歩しません。大学生はもう大人なので、各自がしっかりと将来に向けて真剣にならなければならないと思ひます。
前期	114	音楽Ⅱ	島長 恵美	2つのクラスの結果を見比べるとことができました。もう一つのクラスの結果よりはこちらのクラスの方がよい評価をもらえているとはいえ、教員側の熱意に比して学生の評価はなかなか厳しい者があるようです。問8についてはピアノ個人レッスンではほとんど板書することがないので、記入に際し判断が難しいです。	昨年の同期の結果と比べ、全体的に学生の評価が低いようでした。特に授業内容が難しく、進行速度が速いと感じている(課題が多いと言うことか)ようです。しかし、現場に出るとこれくらいの課題(曲数)ではぜんぜん足りないはずですが…また、態度の悪い学生への対処にも不満が見られるようです。	無記名なので、各個人の率直な感想等も書かれていて良かったと思ひます。	社会へ出る日も近づき、就職試験を目前に控えて、各人に必要な課題に的確に取り組めるようアドバイスをするべくより一層努力したいと思ひます。
前期	115	音楽Ⅱ	中谷孝平	概して学内平均を上回っているようである。必修科目ではないので、逆にこの科目を履修している学生の学びたいという意欲が結果に現れているように思ひます。	音楽Ⅱの授業内容が実践的で学生たちの就職活動及び就職後に直結しているためか、教員と学生双方の熱心が結果にでているようだ。	学生からの忌憚のない意見が解るので良いと思ひている。	問19の学生の課題への取り組み時間については学生の授業への熱意に比べて低いように思える。今後は学生たちに自覚を促すとともに、我々もサポートしていきたい。
前期	115	音楽Ⅱ	佐藤久美子	思っていたよりもやや評価が低いように思ひました。	教員と学生の評価に差が目立ったため、少し気になります。特に問18、19については、課題の量が多いと学生は感じているようですが、社会の現場に立ったとき困らないためには今くらいの課題の量は必要だと思ひます。		問18、19の改善策としては、実技レッスンは授業のときだけ練習しても身に付かないのが実技だと思ひます。一日数分でも良いのでピアノや声楽に向き合ってくれるととても嬉しいので、合っていないかと思ひます。

前期	115	音楽Ⅱ	森脇由紀	全体に自己評価が最も高く、学生評価が低めなので、より学生の声に耳を傾ける必要があると感じた。熱意があるとの評価は励みになった。	初年度なので解りません。	練習時間が少なくて、大変だったという意見が多かった。変面できた達成感を感じる学生も多かったのはうれしいことでした	更に熱意を持って、学生のニーズに応えられるよう努力を重ねていきたい。
前期	115	音楽Ⅱ	金香歡	授業態度に比例していると感じました。何かを学ぼうとする気のある子はそれなりの評価をしてくれると思います	今年度からの勤務ですので比較はできません。		いくら熱心に指導しても学生自体に向上心が無ければ何も進歩しません。大学生はもう大人なので、各自がしっかりと将来に向けて真剣にならなければならないと思います。
前期	115	音楽Ⅱ	藤本紀子	相対的に辛い評価になっている。2年生の前期として、目標を明確にできないクラスの雰囲気がある形になっているようだ。	課題の量やこなす時間が適切でないと感じている学生が多いようだ。授業外でも自分から効率よく学べるように指導する必要がある。		教員と学生評価の差が大きい。熱意が伝わらないようにも思える。課題は多いが将来のために必要なことで、減らすわけにはいけないので、具体的な実技指導のみならず、意欲を持ち効率的に学んでいけるような精神面でのサポートも考えたい。
前期	115	音楽Ⅱ	吉岡紀子	全体的に、意欲的に目標をもってこの授業に取り組んでいたように感じた。難易度や進行速度に関しては、それぞれの感じ方によって異なるようだ。	授業内容の理解、実技の習得について、教員が求めるものに学生の意識が随分近づいてきている。他のクラスと比べて教員の想いがしっかり伝わっているように感じる。	授業の多くは個別の実技指導であり、学生の記述が率直に担当教員に対する意見なのでとても参考になる。	実技の最終目標は、実践や卒業後に何らかの形で、いかに学んできたもの、経験してきたものを活かせるかである。引き続き更なる実力や意識の向上を手助けしていきたい。
前期	115	音楽Ⅱ	野間路代	1年生の結果にくらべて、学生評価の平均が高い。「そう思う」の回答が全ての質問について50%以上になっているし、2年生は就職のこともあり、授業に真剣に取り組んでいる感じが見られる。	だいたい質問で、自己評価よりも学生評価のほうが上回っている。こちらとしてはうれしいことだ。よりよくなるように努めていきたい。	ほとんど白紙に近い状態で提出されるので、中には貴重な意見もあるのだが、もっと書いて欲しいと思う。	卒業して現場に出たときに困らないように、いろんなことを教えていかなければならないと思う。
前期	115	音楽Ⅱ	岡田麻耶子	多くの項目が自己評価より学生評価の方が高く、驚くとも思われにくい。もちろん自信を持って自己評価を高くする記入できる授業にするように考えなければなりません。	今年度より勤務しているのので解りません。	この授業がいかに大切かと言うことを今になって気づいたと言う学生がいて残念です。就職後にどれだけ役立つか。1年生の内から理解していれば、授業に対する姿勢も変わるはずだと思います。	2年生という就職に向けて大事な時期に適切なアドバイスができるよう、自分自身も多くの情報を持つことが必要だと思います。
前期	115	音楽Ⅱ	杉田清子	全ての項目が学内平均を上回る良い結果で非常に驚いている。問16に関して全員が4或いは5の回答をしたことは大変嬉しく満足いく結果である。	自己評価を下回ることの多い学生評価が全体的に自己評価を上回っていた。授業で課す課題の量は決して少なくないと思うが、それをこなした上で適切であると考えている学生が多かったことに昨年度からの成長を感じる。		与えられた課題に取り組む時間が充分にあったと感じる学生が半数以上いる中で、時間がなかったと感じる学生も数人いる。そういった学生が一人でも減る様、適切な指導とアドバイスを心掛けたい。
前期	116	音楽Ⅱ	吉岡紀子	多くの質問に対して「どちらでもない」という回答が多い。授業の難易度や量、速度、課題に取り組むための時間などになにかしら不満、疑問を持っているように思われる。	教員が感じる授業に対する評価と、学生が感じるものが全体的に共通しているようにみられる。特に実技の項目に関しても一度考えてみる必要がある。	普段の授業態度がその記述にそのまま表れている。不満や疑問を感じているが、この授業の重要性を感じている学生も多い。どう意識を向上させるかが今後の課題である。	授業内の時間だけでなく、普段の自分の時間を削いで常に継続しなければならないこの授業を、学生にとって重荷にするのではなく、それらの積み重ねが自身にとっていかに必要か大切かを、まずは理解してもらわなければならない。
前期	116	音楽Ⅱ	早川未紗	全体的に授業の目的、内容を理解し、授業に満足してくれているように思います。	自己評価と学生評価に大差がないように思います。学生は積極的に授業にとり組んでくれていると思います。	無記名なので、学生の率直な意見が知ることができるので、とても良いと思います。	保育の現場でやっていく為の実力をつけると共に、課題の量や出し方を考えていきたいと思えます。
前期	116	音楽Ⅱ	久保雅世	2クラスの集計結果を頂いた。1つのクラスで、課題の量と、それに取り組む時間が適切であったか、と言う問いに対して、そうは思わないと言う回答が目立った。学生の力量を見極めつつ、課題を選ぶ事も必要だが、学生と話し合いながら、意欲的に取り組んでいける指導を心掛けたい。	殆どの項目で、学生評価が自己評価を下回っている。クラスによってまちまちだが、その差が特に大きく開いてしまっている項目については、その差をうめていく必要があると思う。	具体的な意見を聞くことができた。今後の改善につなげたい。	2年生は、実習や就職を目前に控えているため、現場で実践できる力を、学生のうちにできるだけつけて欲しいと思う。課題をこなしていくには、大変な時間と努力が必要だが、その必要性を日々伝えていきたいと思う。
前期	116	音楽Ⅱ	中東愛子	問19が最も低かった。これは生徒自身の問題であるが、私たちにも、生徒が課題に取り組む意欲を持たせることが大切だと思った。	思っていたより自己評価と学生評価の開きが大きかった。この結果を反省し、次に生かせる授業を行うようにしていきたい。		課題の量が適切であるかをよく考え、生徒とのコミュニケーションをとり、生徒も意欲を持って行える授業にしていきたい。

前期	116	音楽Ⅱ	木谷祐子	全体的には、学生評価と自己評価にあまり差のひらきがないように思いますが、「課題に取り組む時間」の項目で、学生評価がぐっと低くなっているのが分かります。	「課題に取り組む時間」の項目で学生評価が下がった点についてですが、昨年度に比べて、授業内での試験(就職試験に向けての教則本課題、童謡弾き歌い曲等)を増やしたことが、影響していると考えられます。	ある学生が「この記述は嫌いな先生のためにあるものやと思う！」と言っているのを耳にしました。授業についての具体的な意見は、受け止めて今後に生かすべきだと思いますが、この記述があるために学生に委に気を使うことのないように、とは思っています。	頻繁に試験をしたことは、目的をもって取り組むことにつながり、良かったと思います。ピアノに苦手意識を持っている学生は、なかなか自分から課題をこなそうとしない。課題の量が多いといっても、実際に現場に出たときのことを考えると、まだまだ…という感じです。「練習しなさい」だけではなく、学生が自分のことと捉えて取り組めるように、工夫していきたいと思えます。
前期	116	音楽Ⅱ	牧田さやか	どちらでもないや、どちらかといえばという回答が多く、問17,18,19の評価が非常に多いことから、学生のこの授業に対する意欲は欠けているという事が分かる。	授業の進捗や、課題の量についての評価が低いのは、一昨年も似通っている。改善すべき点である。		課題の量や進捗というよりは、学生が目前にある課題に対して、気後れしてしまうのが、意欲がかけられない原因の一つだと思う。学生に対する励ましや、的確な指導が必要であると思う。
前期	116	音楽Ⅱ	角野美穂	授業の進行速度、課題の量、課題に取り組む時間については、学内平均をかなり下回っている。	課題が多くて時間がないという学生の感想は昨年もあったが、このクラスは特に切実に思っているようだ。学生評価と自己評価に大幅なズレが生じている。		就職試験や保育の現場で通用するように出している課題であるので、学生が自主的に取り組みやすいように、それぞれのレベルに応じてわかりやすく説明していきたい。
前期	116	音楽Ⅱ	井後 和恵	課題の量が多く、取り組む時間が少ないと回答した学生が多い。授業の手応えから予想していたが、効率よく課題をこなせる方法も指導し、改善していきたい	授業の進捗度、課題の量、取り組む時間について、学生と教員の評価の隔りが大きい		課題の量が多いという学生が目立つ。そのような学生に対しては将来に必要なことであると励ましながら進めていきたい。こちらも学習計画をしっかり立てる必要がある。
前期	116	音楽Ⅱ 3組	杉田清子	教員自身を問う質問に対しては学年平均を上回る評価を頂いたが、授業のレベルや課題の量、難易度、進捗といった項目に関して学内平均を大幅に下回っており、満足したと感じる学生が他クラスより少なかったように思う。	全体的に学生と自己の評価の差は小さいが、問18,19では大幅に学生評価が自己評価を下回った。何故その課題の量が必要なのか、どういふ風に課題を進めていけばよいかを伝え切れなかった結果だと反省している。		学生に与えている課題は保育の現場に進む者にとってほんの一部に過ぎない。それを学生自身が理解し積極的に課題に取り組めるように努め、特に苦手意識を持つ学生を引っ張ってきたい。
前期	117	音楽Ⅱ	中谷孝平	問17から19の学生評価が著しく低いのが残念。	教員の指導の適切さ、与える課題の量、またそれに取り組む時間等で学生と教員の思惑の差はある。	学生の忌憚のない意見がよく分かるのでよいと思う。	毎年の課題に関しては、それほど大差がないはずで、学生たちにこの授業の必要性を感じてもらえるようにしたい。
前期	117	音楽Ⅱ	佐藤久美子	全体的に平均して4に近い評価をつけている学生多いように見られて、意欲的に授業に取り組んでくれているように思います。	ほとんどの項目で、学生より教員評価の方が高かったことが気になりました。もっと授業内容を工夫し、伝わりやすい指導を心がけなければいけないと思います。		ピアノが得意な学生にはより興味が持てるように、不得意な学生にはどこに問題点があるのか見極めて対処できるよう、今後気をつけていきたいと思えます。
前期	117	音楽Ⅱ	藤本紀子	4以上の高い評価を学生自身しているが、1の評価も少なくない。熱心にアンケートに答えているのか少し疑問が残る。高い評価に甘んじず、更に有意義な授業にするよう努力したい。	学生と教員の評価にあまり差がない方がよいと思う。教員評価を学生の評価が上回っている項目もあり、熱意が伝わっているようだ。		課題に取り組む時間が充分でないと感じる学生に対して、忙しい中でも将来のために時間を作り効率よく課題に取り組む意欲をかき立てられるような人間関係を創ってきたい。
前期	117	音楽Ⅱ	吉岡紀子	問5,6が特に低いと思われる。指導内容の改善が必要かと思われる。	授業内容のレベルや課題の量が多く感じている様子に残念な気がする。		どの項目も教員の自己評価のほうが高い。教員が授業内容をもっと工夫すると共に、学生の学習意欲を高めなければならぬ。
前期	117	音楽Ⅱ	増谷尚子	全ての解答が学内平均より下まわっている。	授業内容など色々工夫したが学生にはなかなか伝わらなかったようだ。授業の難易度などももう少し工夫が必要の様に思う。	1人1人の意見が聞けて授業を進めるのにとっても為になります。	授業内容・難易度についてはもう少し工夫がいるのかもしれない。授業をしながらもう少し学生に向上心をもちたす事も必要だと思う。学生からの意見を聞き入れながら、教員・学生共に努力し、よい授業をつくりあげていきたい。
前期	117	音楽Ⅱ	大森由美子	教員の熱意は学生に伝わっているように思う。(9.10.12)しかし課題の量や取り組む時間等項目は充分とは言えない。(18.19)	教員として常に熱意を込めて授業を行っている(9.10)は伝わっているようで嬉しく思うが課題の量や取り組む時間(18.19)は教員と学生間に差が出た。	「課題が多い」という意見が多数あった。	教員の熱意が伝わっていても学生は技術を習得しなければ意味がないので、今後意識の差をうめるよう努力したい。
前期	117	音楽Ⅱ	牧田さやか	他のクラスに比べ、そう思うと答えた答えた率は高いが、問18,19の評価が極めて低い。しかし、各自与えられた課題に前向きに取り組んだのかという事には疑問を感じる。	進捗や課題の量についての評価が低いのは一昨年度もそうであったが、目標である保育士を目指すためには必要な事で、各自与えられた課題に前向きに取り組んでほしい。		どのように練習すればよいか、何のために課題をクリアしなければならないかというのを自覚できていない学生が多いと思う。こちらの指導の仕方も、この事を踏まえて改善していきたいと思う。

前期	117	音楽Ⅱ 4組	杉田清子	学生評価が自己評価、学年平均共に下回り、同じ音楽Ⅱの授業の中で最も悪い結果となっている。実技に関する項目は有効回答数が2人だった為、正しい判断は難しい。	学生評価が全体を下回るものの、ほとんどの項目において1や2の評価をした学生は少なく、3、4、5にバラついて評価されている。この授業の半分は個人レッスンになるため評価にバラつきがあったと思われる。		学生評価と自己評価に差があることは、学生を理解できず、自己満足で終わっていることが問題だと思う。現状のレベルを下げず学生が前向きに課題に取り組めるよう、一人一人とよく向き合って指導していきたい。
前期	117	音楽Ⅱ	島長 恵美	2つのクラスの結果を見比べることができました。もう一つのクラスの結果よりはこちらのクラスの方が低い評価でした。同じ熱意と誠意を持って授業をしているつもりでも、学生達の反応が違ってくることに改めて気づかされました。問8についてはピアノ個人レッスンではほとんど板書することがないので、記入に際し判断が難しいです。	昨年の同期の結果と比べ、全体的に学生の評価が低いようでした。特に授業内容が難しく、進行速度が速いと感じている(課題が多いと言うことか)ようです。しかし、現場に出るとこれくらいの課題(曲数)ではぜんぜん足りないはずですが…また、態度の悪い学生への対処にも不満が見られるようです。	無記名なので、各個人の率直な感想等も書かれていて良かったと思います。	社会へ出る日も近づき、就職試験を目前に控えて、各人に必要な課題に的確に取り組めるようアドバイスをするべくより一層努力したいと思います。
前期	118	図工Ⅰ	香月欣浩	授業に全力投球し、自己評価に満点をつけました。しかし、学生の授業を受ける態度や、満足感を考えると、授業内容の再検討が必要だと感じております。	実技だということもあるのでしょうか、全体的に評価がよかったです。次年度はもっと満足し、実りのある授業にしたいです。	授業中はしんどがっていたが、終りのほうでは、課題の意味や教師の思いを理解してくれていたようです。	卒業して、この短大に来てよかった。この授業が役に立っていると思ってもらえるような、役立つ重みのある授業を考えていきたい。
前期	119	図工Ⅰ	中路規夫	なるほどと納得できる結果である。	昨年と同じ授業で何も問題点が改善されていない。		広い制作スペースとゆったりと流れるような時間が必要。生徒の人数を少なくするか、このままなら、今の倍の時間が必要。じっくりと制作に打ち込める時間と空間を創るべき。
前期	120	図工Ⅰ	元木 昭治				美術は感情だけで表現する物でなく、技術の裏付けがあって知的に組み立て表現する物である。この点を強調したが、学生の反応は予想どおりであった。
前期	121	図工Ⅰ	木村 和照	学生と私との認識の開きが大きいと思える。	学生、クラスの質、雰囲気によって毎年変化があって比較はできないようです。本年はきわめてスムーズに授業を行えました。学生も意欲的に、積極的に授業に取り組んでいたと思われるのに評価は良くない。	1)と同じ。	特にありません。
前期	122	幼児体育Ⅰ	黒石久昭	体力の低下が叫ばれて久しいが、やはり最近の学生の体力不足を考慮すれば、水泳と同じくまずまずといった評価であると思う。	4点台の評価はあるが、昨年よりもスポーツⅠ同様少し下がっているのは、やはり入学時の動機付けの問題が関係していると思われる。なぜなら、この授業も指導方法や課題の質量とも同じものであるからである。	水泳と同じく、過去の実技体験が重くのしかかり、できる、できないがその個人の達成意欲に強いかかわっているため、その個人に応じた指導の大切さが感じ取れた。	課題の量的な問題があり、今後検討すべき余地がある。
前期	123	教育原理	工藤真由美	原理系の授業にも関わらず、大変高い評価を頂き驚いている。	学生の満足度の高さに反して、担当者としてはもう少し、授業内容の理解、その反映としての試験の出来のよさを期待している。授業中楽しくても内容を十分理解しないようでは、授業としては不十分と思う。(自戒をこめて)	学生は楽しかったと書いてくれる。この楽しいとは何か…。彼女たちの求める楽しさと必要な知識を習得するのは、どのくらい乖離があるのか。楽しく知識も定着するような授業を心がけたい。	学生は大変満足していると評価してくれたが、これは定期試験前の調査であり、定期試験の結果を受けて(不可の学生などの)評価は変化がないのかわるか、それが真の授業評価かもしれないと思っている。
前期	124	保育学原論Ⅰ	山田秀江	昨年度に引き続き、進行速度と難易度が低い評価である。保育を担う者に対して最低限の内容を取り扱っているが、これ以上授業のレベルを落とすことは難しく、さらなる工夫が必要	今年度はパワーポイントを活用し、より分かりやすい授業になるよう工夫をしたが、学生の意欲や能力に個人差があり、進行が非常に難しかった。それで昨年度と同じような結果になったのであろう。	一部の学生は「少し難しいが保育をする上で大切な内容の授業であった」と書いているが、やはり「難しい」「速い」という感想が多かった。	意欲のある学生がいる反面、意欲のない学生がいたり、また理解力の個人差も大きい中で、授業のレベルを落とさずに進めていくのは非常に難しい。しかし今年の結果を踏まえこれから改善策を考えていきたい。
前期	125	発達心理学	近藤淑子	講義形式の授業なので、学生にはプリントを配布し、適宜ノートをとるように指導した。しかし、1年生前期にあつては講義を聞き、大切なところをノートテイキングすることがとても難しくそうだった。特に、今回はそのように感じました。こちらの真剣さが伝わってないと感じることがあり、そのように数字に出ていると思いました。	昨年は普通に思っていたことが今年はなかなか学生に理解されていないと感じることがありました。	「内容が難しく、スピードが速い」というコメントがありました。が、「子供の発達に興味を持って」というコメントもあり、さまざまでした。	1年生前期での発達の考え方は、抽象的なのでなかなか理解しにくいと思います。できるだけ、現実問題を取り上げて、学生に想像できるような教材を用いたいと思います。

前期	126	精神保健	西田吉男	平均をとれば妥当な数字だが詳細で1と評価している人がいる項目はチェックしておく必要を感じる。	教員個人の評価は一人のデータなので極端に出るが学生の評価と傾向は同じだと思う。	板書中心でないと感じにくい学生さんがいるのもっと工夫する必要がある。	あまりはっきりした結果でなくても、ある程度の傾向から言えることは、板書の方法、教材の工夫、学生への注意など含めて、授業にも少し集中できる環境作りをするということになる。
前期	127	小児保健	吉田 和重	来期に向けて参考にしたいと考える。	授業内容は昨年度とほぼ同じ内容であったが、学生に理解されていないことが解った。	少数の学生はこどものことがよく分かったとの記述があった。ほとんどの学生は白紙であった。	学生の学力差が非常にあると感じる。学生の中には勉強すること以前の問題として人の話をきくことができないため、授業中注意が多くなり授業することの難しさを感じている。今後まじめに受講している学生の意見を尊重し、見直していきたい。
前期	128	小児保健実習	吉田 和重	すべての項目において学内平均よりかなり高い評価をいただいた。	昨年度の結果と比較してみると、全項目が学内評価より上回っていた。	育児や保育士としてすぐに役立つとの記述が多かった。	より一層保育の現場で役立つ授業になれるよう工夫していきたい。
前期	129	小児栄養Ⅰ	石村 哲代	授業の難易度、授業内容の理解についての評価が他の評価に比べて低い。昨年度に比べてかなりレベルを下げて板書も丁寧にしたつもりであるが、未だ足りないということである。さらにレベルと内容について考える必要がありそうである。	自分では、大きな声でゆっくりとした説明を心がけ、熱意をこめて授業したつもりであるが、必ずしも学生の評価は高いとはいえない。学生が何をどの程度求めているのかを把握できていないと反省している。今後は学生の反応を見ながら、また感想聴取しつつ自己満足に終わらない授業展開を追及していきたい。	2クラス合併の授業であったが、1クラスは活発で私語が多く、1クラスはどちらかというと反応の乏しいクラスであったので、両クラスの意見が分かれていた。「私語に注意をしてくれて静かな環境で授業に集中できた」という意見がある一方で、「注意ばかりされて嫌だった」という意見もあった。また402のマイクの調子が悪いので、改善してほしいという声が多かった。	学生を名列順に、隔列順に並ばせての授業であったが、教室が大きくてワイドになり過ぎ、学生一人ひとりの顔を見ながらの授業ができたとはいえない。もう少し視野の範囲に学生を座らせて授業すべきであったと反省している。
前期	130	小児栄養Ⅰ	奥田玲子	すべての項目で学内平均を上回る評価をいただいた。学生は授業内容をよく理解できるよう丁寧に説明したが、必ずしも十分理解できたと感じていない。熱意と質問や発言への対応が満足度につながった事が実感される結果であった。	今年度初めての担当科目。	試験時間に対して試験問題数が多いという記述が多かった。	引き続き学生の興味を高めながら難易度の高い内容は今より少し時間をかけるなど工夫をし、理解度アップを図る。
前期	131	乳児保育	福岡貞子	全体的に評価が高いが、自分の科目の評価が低いことに驚いている。学生に迎合せず、きっちりとした授業態度を要求することが、反発を買うのだと思う。しかし、このような教師の授業を受講するのも良いことだと思う。また学生が評価票を記入する時間の早いことに驚く。高い、低い両極端で印を入れているような気がする。	昨年度より評価は厳しくなった。このことは授業態度から推測できなかった。年々科目の学習内容である関連法規、理論的押さえなどの学習を嫌う傾向が見られ、授業方法の工夫が求められる。	実技的なもの、保育エピソードなどには関心を示し、評価している。授業の進捗が速いという学生が見られた。また授業態度を注意される学生は毎回同じであり、不満を書いている。	通年授業なので後期は実技や保育エピソードなど多く取り入れ、学生が楽しく受講できるように努力したい。
前期	132	児童福祉	牧野一元	もっともである。公開授業でも指摘されたが、板書の工夫と、あれも伝えたい、これも伝えたい、という思いを少しセーブしてゆかないと、ノートをとりにくいであろう。	自己評価が学生の評価を上回っている部分には、素直に反省。	学生の素直な意見が分かり良かった。	次年度は、テキストを変更。学生にも使い勝手が悪かったと思われる。私語の多い学生をどう、引き込むか工夫が必要。
前期	133	家族援助論	曾和信一	全体的に見て、自己評価と比べ、学生からは高い評価を得た。もっとも板書の適切さ、授業内容への理解と関心を問う項目については、学内平均を上回っているも、他の質問項目に比較して低い評価となっている。	昨年度と同様に、全体的に見て、学生による授業評価が自己評価を上回っていた。学生と教員の評価間の乖離を自分で問われてくるという。	板書について、学生に読みやすいように丁寧に書いてほしいという意見が複数見られた。	パワーポイントを用いたの授業であり、補足的に板書しているが、板書の仕方について丁寧に書くなど改善策を講じていきたいと考える。
前期	134	社会福祉	合田 誠	最も高かった評価項目が「大きな声で聞き取り易い速さ…」の項目で、これは担当者としては特に意識して取り組んでいる項目のひとつであり、高い評価を得たのは担当者の励みになる。一方、最も低い評価項目が「授業の難易度のレベル…」が低くなっている。この項目は毎年のように低い数値の結果となって表れている。この結果に関しては毎年、述べているように本講義は国が例示している教科内容に則して進行しており、「難易度のレベル」の評価数値を引き上げようとするには、国基準からの見直しが必要になってくる。	担当者として授業に関して力点を置いている取り組み項目は問1の「大きな声…」、問9の「授業は熱意…」及び問11の「授業態度の悪い…」の3点である。この3点に関しては学生評価の比例して、「4」以上の高い評価を得たことは前述したように担当者の励みにつながる。昨年度の全体の平均値は「3.90」で今年度は「3.91」とほぼ変わりはない。ただ、昨年度の項目と比較して懸案である「授業の難易度のレベル」と「授業の進行速度」に関しては若干数値が上昇したに関しては着目している。この点について現時点での判断は早計であるため、来年度以降の動きを注視したい。さらに問15の「教室の大きさ…」の項目が昨年度と比べて明らかに低下した。これは、2クラスのうち1クラスのを使用した教室の大きさが受講者と教室定員がギリギリの教室を使用したため、学生がかなり窮屈な思いで受講したためと考えられる。	有効回答数71人中、自由記述の記入のあった学生は43名で、約6割から意見をもらった。「難しかった。」という意見も見受けられたが、「難しかったが、非常に役立つ内容であった。」という意見も書かれており、前向きな姿勢を示している学生の意見が何れ大変良かった。その他、理解しやすい説明や話すスピードを評価する意見もあり、担当者の後ろ盾になる力強い意見ももらった。	今後の改善点としては、毎年示される「授業内容」や「進行度合い」に向けても取り組みの点だが、教授内容は国の基準に沿ったもので、これ以上崩すことはかなり厳しい。よって、現在できていることは「社会福祉」をある特定の個人が関わるのではなく、広く国民一般が関わるものであるということを含めて以上に身近な生活面に具体例を求めながら授業展開する予定である。

前期	135	社会福祉援助技術	合田 誠	全体として平均値が4.30という高数値を示している評価を得たことは素直に喜びたい。特に、授業に臨む担当者の姿勢として重要視している「大きな声で聞き取り易い速さ...」の「熟意をこめて...」の3項目については高い数値を示していることは、担当者の姿勢を感じ取ってくれた証左であると感じ、今後の励みになった。	昨年度の全体平均も「4.21」と高数値を示し、さらに今年度はそれを上回る平均値を得られたことは担当者としては前述したように素直に喜びたい。ただ、若干の懸念としては担当者自身が授業を通して「授業の難易度」や「授業内容の理解」に対して学生が高数値を記入してくれたが果たして理解等できているのか心許ないと感じているので、全体の高数値評価に甘んじることなく、授業の中身について今後も検討を加えたい。	有効回答数88名の中で、自由記述の記載のあった学生数は60名に上り、68%の学生から様々な感想や意見をもらえた。ほとんどが好感触をもてた授業であったとの評価で、とりわけ、人を援助する具体的方策としての基礎知識などを最初に説明したり、また理想の援助者像である「アン・サリバン」のVTRを通じて「授業などが好評であったと知れた。しかしながら、一部では理解がたい」という意見やクラス編成のリクエストがあったことは留意したい。	演習形式の授業であるため可能な限り学生の主体的授業参加を促す内容としたいのだが、自主的に取り組み、自己の主張を展開できる学生に限られているため、どのように主体性をもたせるかが今後の課題となる。対人援助の基礎的な知識をベースに個人の意見を主張でき、かつ実行できる学生養成の方法を今後も模索していきたい。
前期	136	保育内容人間関係	長谷雄一	全体的には学生にこちらの意図が伝わりつつあると感じ。しかし、板書と授業環境に関しては課題があると思う。	教員の自己点検評価と学生による授業評価との相違については、真剣に取り組むべきと思った。年々教員の意図が伝わりつつあるのは良い傾向だと思った。	授業の教材について身近なものと保育の関わりについて非常に理解しやすかったという評価が多かった。	保育の深さを身近な題材で指導する方法は今後も継続したい。授業環境等の課題についてよりよくなるよう再考したい。
前期	137	保育内容環境	森 宇多子	今年度は50名クラスから30名クラスになったので、学生にとっては授業が受けやすくなり、評価が上がったのではないかと。	クラスによっての差があり、1つのクラスでは新聞記事からの内容の他、興味を持ち、学生と一体にもなったが、同じ内容でも1つのクラスは眠る。しゃべるなど差を感じた。授業方法はその都度考える必要を感じた。	園見学を授業内に取り入れたことは、学生にとって印象的、よい経験と書いていた。	あの手、この手で学生の気持ちを受け止めるし受け入れる、やる気を起こすことは、これからの自分の課題と考える。
前期	138	保育内容言葉	曾和信一	全体的に見れば、学生からはすべての質問項目で4以上の平均値の評価を得た。しかしながら、授業内容の関心を問う項目については、他の質問項目に比べて評価が低くなっている。	学生と教員の評価がかけ離れた質問項目について、授業への難易度、進行速度などを問う項目が挙げられる。	授業への進行速度について、授業の終了間際にあわただしくなるといったように、時間配分の問題点への指摘を頂いた。	授業への難易度と関わって、できるかぎり授業内容面での概念の大きさに心がけ、わかりやすい授業を行っていきたく考える。
前期	139	保育内容表現(音楽)	大森由美子	多くの学生は授業内容を理解し満足していると思う。	表現という授業内容を学生は理解しているが不安に思っていたが、アンケートの結果からは内容を理解し満足しているようだ。	楽しかった」というコメントが多かった。	楽しいだけでなく卒業後現場で役立つような授業内容にしたい。
前期	139	保育内容表現(音楽)	木谷祐子	学生評価は4を下回っているものが多いです。また学生評価より自己評価の方が低い項目もいくつか見受けられます。	この授業は学生自身が授業の目的を理解して、自分たちで引っ張っていかないとけない面を持っています。その点でこのクラスは少しおとなしく、テンションを高めるのに苦労しました。教員自身も授業を通した印象から、やや低く評価をつけています。クラスの雰囲気でも変わってくると思います。	紙芝居製作や、ぬいぐるみ人形劇についての前向きな感想等がありました。普段非常に大人し授業でもあまり発言をしない学生の意見が聞ける点など、自由記述は良い試みだと思えます。	前期の授業では、多様な課題を出しました。何の意味があるのかあまり分かっていないような学生もいましたが、少なからずステップになったと思います。後者はクラスで演目の発表という大きなイベントに向けて、意識を高めてもらいたいです。積極的に参加しない学生をどううまく輪にとりこむかは、難しいところです。
前期	140	保育内容表現(音楽)	角野美穂	すべての項目で学内評価を上回っていた。	ほとんどの項目で自己評価が学生評価を上回ってはいるが、学生もかなり満足しているようだ。		宿題の量が多かったにもかかわらず、学生もよく課題をこなしていた。授業の質を更に深められるように、工夫していきたい。
前期	141	保育内容表現(音楽)	淡路和子	ほぼ全項目に亘り、学生と教員の評価に差がなかった。	(前年度は担当せず。)	自由記述はあったが、意見は特になし。	クラスが纏まり全員積極的に行動している。後期の「保育内容総合表現」の成果に期待する。
前期	142	保育内容表現(音楽)	吉岡紀子	多くの学生が授業内容を理解し、関心をもって取り組んでいたと思う。しかし、どの項目に関しても「どちらでもない」を選ぶ学生も少なくはない。	「どちらでもない」は授業を受けるうえで疑問に感じることもあるのか、授業に対しての意欲がなくなってしまうのか、また違った理由なのか追求してみる必要がある。	団体授業であるため、普段は個人個人の意見をなかなかきくことはできない。この記述によって、気付かされることも多くあった。今後反映できそう。	5つの項目を選んだ評価からは読み取れることは限られてくるが、自由記述によってえられた意見を重要視して、今後活かしていきたいと思う。
前期	142	保育内容表現(音楽)	向山裕子	ほぼ学内平均と同じような評価でした。3のどちらでもないという評価が最も多い中、問16総合的にみてこの授業を受けて満足している。の評価が高くなっていきます。	学生評価と自己評価が似通った数値の項目もあり、後期の総合表現に向けて学生の意欲も感じられます。		作曲、台本作り等、初めて経験することも多く戸惑いを感じる学生もいましたが、必要性を理解し、後半は積極的に取り組む学生が多くなりました。クラス全員が意欲的に取り組めるよう、今後も努力していきたいと思えます。

前期	143	保育内容表現Ⅱ (図工)	香月欣浩	ほとんどの評価はよかったのですが、時間不足を訴える学生が多く見られました。制作授業の宿命かもしれませんが、もう少し授業の組み立て、段取りを工夫してみたいと思います。	実技だということもあるのでしようが、全体的に評価がよかったです。次年度はもっと満足し、実りのある授業にしたいです。	ありがたいことに楽しく、役立つ授業だったという意見をたくさんいただきました。	実践でいかにせる内容を考えて、もっと厳選する必要があります。幼・保と連絡をとり、実践で役立つような授業内容を考え直したいです。
前期	144	保育内容表現Ⅲ (身体)	谷玲子	学生からの評価は、問い15以外は、学内平均を上回り、4、どちらかと言えばそう、5、そう思うの平均値合計が74.3%という結果になり、全体的にはよい評価をいただいたように思います。 問い15については、保育の授業は駅前校舎で行われることがほとんどでありますのに、わざわざこの授業の為に北条校舎まで徒歩で上がり、さらに4階まで階段で上がる、授業の大半が体を動かすことで、また、前期どどん暑くなる気候、体育館の天井からの熱もそうとうあり、つらい授業になっているにも関わらず、39.4ポイントいただいています。休憩時間15分を移動と着替えに使いほとんど休憩をせずに授業に望む姿勢には敬服しています。 しかしながら、授業のカリキュラムを上手に組んでいたと、北条校舎でのパソコン授業と続け、ゆとりを持って、授業に参加出来るよう配慮いただくことが出来たクラスもあり、教務課の先生方にはとてもありがたく思い感謝いたします。	先日授業評価報告書をいただきましたが、お読みいただいているのでしょうか？ 昨年一昨年も要求し、新校舎建設の前にも再三お願いした「鏡のあるレッスン室」がこの授業のために上がる学生の苦勞をお察しいただき、天井は高くなくとも良いので、新校舎にはレッスン室をお願いしたい件は、まったく無視され、スペースが取れなかったと言われたが、私も学生も見る限り、新校舎にはスペースが作れると思ひ、作っていただく気が無かったと判断しています。 保育学生の「身体表現Ⅲ」立ち居振る舞いは、即幼児に反映されます。自分がどう立っているのか、どう動いているのかを判断できる鏡のレッスンルームは、不可欠だと考えます。古い校舎だと仕方が無い部分もあり、鏡を購入していただくようお願いしていましたが、叶わず、新校舎では必ず設けていただけるものかと思ひましたので、その必要性を痛感して感じておられない事に失望しております。最近の諸大学には、必ずといってよいほど改装、新築で鏡のレッスン室が設けられています。 また、身体表現だけでなく、必要なのは、リズムの授業でも、音楽や総合表現の授業でもその他の授業でも必ず必要になるはずですよ。 報告書も作成されているということは、この要求も自己評価報告書を始められた少なくとも3年前からは、ご覧いただいていると思ひますので、それが必要ないかと判断されていると思うととても残念でなりません。	問い18、19については、5、そうは思わない、4、どちらかといえばそうはおもわない項目がノートで1冊全部仕上げてくるという過大な課題について、もっと不満があると聞いていたので、合計しても11.5%、16.7%とあまり伸びず、驚いています。ほとんどの学生が、時間が無い、課題が多すぎると回答しても良いように感じます。また、後半の4時間はグループワークをしたが、今年は私の都合で、補講日最終日に合格できないグループは、授業時間内に帰れない場合もあると明示し、実際、朝から自主練習をし、合格を貰ったのが20時を回っているという過酷なグループもありました。にも関わらず、学生の評価は、満足しているといった回答が、他の回答よりは低いですが、大半を占めていることに疑問を感じます。 アンケートの設定が、どの教科も同じで、ほとんど嫌気が差し、本当にこの授業の評価を、真剣に考え、回答している学生が少ないのではないかと思います。 こういったアンケートで、学生は本当に授業内容や教員の質について評価が出来ているのかをアンケート調査されてはいいかと思ひます。同じだからめんどうくさいな～と発言している学生もいます。	授業の内容については、難易度を高くして技術のレベルアップを図り、技術の高い学生の技術を向上させる方法が良いかと、毎年思案しています。楽しい身体表現を目指し、技術レベルを低く設定してしまっている自分をそれでよいのか？ももっとどうして欲しいのか？をもっと具体的に記入できるアンケート調査もして欲しいと思う。記述用紙は、そうしたいことに使えばよいのだろうか、短すぎる半期の授業で、アンケート記述に時間を取ることができない学生も多いため、どうしても先生の評価を悪くすることができない学生も多いのではないかと考えます。私は見ないからと伝えてはいるが、どの程度そうなのか、本音が伝わられているのかを知りたいと思います。 他の授業も含め学生が気を使わずに記入できるような授業評価をしていただけたらありがたいなと思ひます。とりあえず、学生も私もお願いしている鏡のレッスン室の設立を要望します。
前期	145	幼児臨床心理学	北村瑞穂	ほとんどの項目で学内平均を上回る評価を得た。しかし、教室の設備に関しては平均を下回った。	ほとんどの項目で学生評価が教員の自己評価を上回っていた。しかし教室の設備に関しては平均を下回った。	先生が質問に対して、とても丁寧に答えてくれたという意見が、いくつかあった。教室が狭すぎるという意見も多かった。	教室の大きさに関する不満が多かった。パワーポイントでスクリーンに授業内容を提示しているため、一番前の学生がスクリーンとだいぶ近くなり、見難くなってしまふ。できることなら、来年度は大きな教室に変更できればいいと思う。
前期	146	教育相談	森石加世子	自己評価と学生評価がほぼ一致し、全体的に良い評価だった。特に、授業内容に対する評価が高く、今後に繋げていきたい。	昨年に比べて、学生評価が高く、授業において様々な工夫をしたことが、結果に表れたように思われる。	学生の真意が伝わってくる記述は参考になり、今後の授業に生かしやすい。	学生はより個人にあった授業内容を望んでいるようで、多人数の中でそれに応じるのはかなり難しいが、考えていきたい。
前期	147	総合演習	合田 誠	各項目ごとにほぼ、まんべんなく高い評価をもらっている。特に担当者が授業に臨む姿勢として意識的に取り組んでいる「大きな声で聞き取り易さ…」、「授業は熱意をこめて…」、「学生の質問や発言…」に関しては高い評価が得られたことは満足している。しかし、一方で「授業内容の理解」や「授業内容に対する関心」の項目は最も低く、担当者のテーマである「児童虐待の現状と対応」という現在保育者が最も優先的に取り組まなければならない課題であるにも関わらず、評価数値が低いのが残念である。	全体的に高い評価をもらったとは前設問で述べたが、昨年度と比較すると全体平均値が昨年度は4.51あり、6割以上の学生が、「5」の評価をしてくれたが、今年度は「4.11」で「5」評価も4割の学生に止まった。授業内容は昨年度と同じ流れで取り組んだが、なぜ評価内容が下がったのか理由を探らなければならない。	自由記述には、特に参考になる意見はなかったが、敢えてあげるとすれば「授業の展開が速くてついていけなかった。」という意見があった。これは授業回数が増え、今年度は7回となっているため、担当者としてはこの限られた7回の中で多くのことを学んでほしい気持ちがあり、学生によっては消化不良を起こしているのも事実である。	現代社会において多方面にわたる課題を学ぶ機会を与えるために4人の教員がそれぞれテーマを設定し、1年間オムニバス方式で進行する授業方法をとっている。総合演習のねらいを各課題理解を広く深くするが、もしくはその逆とするか？授業方法も変化をもたせる必要がある。今しばらく学生の動向を見極めていき、検討を加えることにしたい。
前期	147	総合演習	村井隆之	「学生評価」の平均値(1~16)は「4.11」である。この数字から判断して、学生からはほぼ合格点が与えられたと思う。	担当教員の「自己評価」は、すべて「4」とした。一方、学生からは問13を除くすべての項目で「4」以上の評価を与えられた。昨年度のデータがないので前年度比較はできないが、来年度以降も良い評価を得られるようなおいつそう努力したいと思う。	ほとんどの学生から、授業内容・方法等についての好ましい反響・意見を頂いている。特に、「私語」が少なく授業の雰囲気良かったという記述が多かった。	「学生評価」については、ほぼ合格点が得られているので、現時点では授業内容や方法を大幅に変更する必要がないと思うが、なお一層の工夫を加えて、さらに充実した授業にしていける所存である。
前期	148	教育実習A	田主義行	授業は教員と学生との総合作用によるが、学生からは4程度と、どちらかといえば高い評価であった。今後お互いの信頼関係を大切にしなければならないと思う。	授業への興味や取り組み姿勢は可なり高いようであるが、学習意欲・授業態度はそれほど高いとは思えない。ズレを感じる。もっと誠実に学んでほしいと思うのですが…	昨年同様「幼稚園の子どもの話、半日の観察実習は大変役に立った」といった記述が多かった。今年は「教室が広すぎる」という記述もかなり目立った。	保育者を目指す者として、幼児の心、発達を知ることは大切ですが、学習意欲を高めるためにも、学園附属幼稚園との連携を図り、加害の活動も含め少しでも多く教育現場を体験できる機会を持つよう考えたい。教室の広さについては受講生の数にもよるが、もう少し狭い方が望ましいと考えます。

前期	149	保育実習ⅠA	山田秀江	いずれの間も平均値より高い値だった。	昨年度と同じような結果となった。	特になし。	実習記録の書き方や指導案の書き方など保育現場でなければ具体的な指導ができないことを事前指導で行わなければならない、非常に苦労している。即実習で生きて働く力をつけるために更なる工夫が必要だと考えている。
前期	150	腹話術	谷本丹津子	評価5に至るものが一つもなかったことが残念で悔しいです。	学生達の状況を読み取る力が足りなかったと思われます。(押すべきか、待つべきか……)恥ずかしさを乗り越えさせるのが難しいです。	腹話術への興味が思った以上に高かったことに驚きました。	途中からこなくなった学生の声や評価5に至らなかったマイナス要因を探りたいと思います。
後期	401	子どもの音楽	淡路和子	授業への取組、準備、教材、視聴覚教材の使い方などの項目で予想以上の評価であった。問7の授業への熱意の項目では4.5の回答の合計が48%あったのは喜ばしい。問12で「熱心に取り組まなかった」と回答している学生が5.6%いるが、自己反省か。	一昨年、昨年度に高い評価を得た。配付資料など授業準備の項目について今年も引き続き努力した。学生評価で1は0%だが、2の回答が16.7%と多かった。問11の授業態度の悪い学生への注意は努力したが、4.5の回答合計が40%強であった。配付資料を毎回持参し活用している真面目な学生が大半であるが、少数のその他の学生について善処したい。	全員に目を配り、態度の悪い学生に注意をするなど毎回努力した。しかし授業内容について、意見が二分したのが興味深い。(例1リトミック:就職後役に立つ。⇒意味がない。例2子どもげきょう:貴重な体験をした⇒先生の言っている意味がわからない)	教室の構造上「板書」の項目は、教室に音楽用移動式白板しかないの、教員、学生とも答えにくい。善処したい。
後期	401	こどもの音楽	島長恵美	いずれの項目も学内平均を下回っていて、とても残念です。この授業では11月の大きな行事に向けての準備のために、ともすれば教員のほうが気持ちが先走ってしまった面があるのかもしれない。	「学内平均」は昨年度とほぼ同じような結果が出ているようですが、「学生評価」は、今年度はぐっと低くなっているようです。問8は、板書が「不適切」であったということではなく、授業の性質上、板書をする必要性・機会が少ないということもあります。	自由記述は、ひと言程度の短いものが大半でしたが、学生の自由な意見が聞けるので良いのではないかと考えています。	11月の行事を終えた段階では、学生から「良い経験になった。卒業後も現場で生かしていきたい」という声を聞いています。それが半年間の授業全体の感想となるよう、さらに努力していきたいと思っています。
後期	401	子どもの音楽	向山裕子	全設問で学内平均を下回る厳しい評価でした。特に3、どちらでもないという評価が最も多かった事、受講者が61名にもかかわらず有効回答者が34名と約半数の学生で合った事等、関心の低さが感じられます。	この授業は後期の初旬に大きな行事がある為、一時期に個々への学生への対応が不十分になったのではないかと考えられます。担当者自身は丁寧に、大きな声で、熱意をもって授業を行うよう心がけていたにもかかわらず、学生の評価は自己評価を下回っています。	学生の「生」の声を聞く事が出来てよかったと思います。	実習等でも役立ち、即戦力になりえるようにと考えて授業を進めてきたつもりではありますが、授業内容の理解度、難易度、進行速度、満足度等学生の反応とのズレを感じました。これを反省点とし、尚一層工夫し改善していきたいと思っています。
後期	401	子どもの音楽	早川未紗	全体的に学生評価が学内平均、自己評価より下回っている。	学生評価は自己評価を下回っており、こちらの授業に対する思いと、学生の評価との差が気になります。	学生の率直な意見を聞くことができるので、アンケートより、今後の参考になり、とても良いと思います。	自由記述での学生の意見も参考にしながら、保育の現場で適応できるように、充実した授業になるように、工夫していきたいと思っています。
後期	402	子どもの美術	木村 和熙	特に無い。	学生の能力を親でそれなりの方法を選び実施することが普通、当然のことであり、教師が4とか5の評価点で自分を評価することに疑問を感じる。	授業時間を割いてアンケートを採り、さらに記述までも求めるのは、授業時間を無駄にすることにはならないか。授業を妨害することにも通じるのでは？	問15で設備について問われているが、設備の改善を前提としないのであれば、この設問は不要では？
後期	403	英会話B	井上泰子	必修の英語で、2クラスずつの合併授業で、学生の反応から、ほぼ予想どおりの結果であったと思う。半数以上の学生が満足している反面、不満に思う学生も数パーセントいるので、英語に関心のない学生をどう惹きつけていくかが今後の課題である。	昨年度の後期にも同じ内容の授業を行ったが、クラス単位であったため、よくまとまって授業がやりやすかったように思われる。クラス差はあるが、出席率低下の傾向があり、学生の質の多様化が感じられた。	中学校から苦手だった英語が、保育に関する内容であったので、楽しく学習できた。英語の童謡を取り入れたのがよかった等の感想が多かった。一方、毎時間プリントの提出を求めたので、書き取るのが大変だったという学生もあり、私語を注意されて、不満をぶつける学生もあった。	定期テストの結果からも、真面目に努力すれば、かなり優秀な成績が期待できることが分かった。できるだけ学生が興味を持って授業に参加できるように工夫すること、内容を精査して定着を図ること、緩みがちな時期には、厳しく反省を求めると等が肝要ではないかと実感した。
後期	404	英語Ⅱ(リーディング)	井上泰子	通年の選択授業で、12名の受講者であった。前期が5限で、後期が1限という時間割であったが、おおむね真面目に取り組んでくれたと思う。基礎学力の格差が大きく、学力の低い学生には、ついてくるのが大変だったと思われる。学生の評価にもその差があらわれている。	昨年度は1名のみの受講であったので、比較が難しい。前期に学生から要望のあった点については、できる限り改善に努めたので、ある程度、満足度がアップしているように思われる。3分の2の学生は、自分の予想より満足度が高かったのではないかとと思われる。	毎時間丁寧な注釈プリントを用意して、できるだけ小説を楽しめるように努めた点を評価してもらえたようである。1年次に「保育の英会話」を教えたので、英文講読の授業とは思わず、英会話の授業であると誤解していた学生もいた。英語の歌は楽しかったという感想もあった。	上位の学生はかなりの実力を持つが、下位の学生は、語彙力や文法の基礎力に欠ける。学力差に対応しながら、どのようにやる気を高めていくかが課題である。保育の専門家として、今後英語とどうかわっていくのか、継続的な学習への動機付けとなる中身と教授法の工夫が大切であると思う。
後期	405	スポーツⅡ	黒石久昭	学生評価は昨年(4.3)より0.6ポイント低い3.7であった。今年度の学生の評価が昨年度よりも厳しいのは、相対的に学力が落ちていることもあるであろうが、それなりの工夫が今後必要と考えられる。	学内平均を下回っているのが今後、内容の精選が必要と考えられる。	授業の進め方が早く、板書が追いつかないという意見が少数あった。今後は、進め方の配慮が必要かと考えられる。	授業の理解度が悪いので、内容を基礎的なものに変更し、理解度アップに努める。
後期	406	スポーツⅡ	鎧 功	学生の平均値がすべてにおいて4以上あり良かったと思う。今後はそう思わないが0%に近づけるように努力したい。	昨年度と比べ大きな差はないように思うが、そうは思わないが0%の項目が少ない様に思う。	体を動かす授業なので楽しかったという意見が多かった。	特になし。

後期	407	保育者基礎演習B	淡路和子	平均値と同値、又は上回る回答が多かったのは喜ばしい。進度・板書・興味・学生の満足度の項目では自己評価より学生評価が思ったより上回っていた。	4.5の回答計が平均で69.8%と思った以上に高い評価を頂いた。	学生が壇上で発表する機会を多く設定したが、学生自由記述で「準備が大変な上、人前で話すのは緊張したが、実習などを控え勇気が出た。役に立った。」等のコメントがあった。次年度にも是非取り入れたいと考えている。	
後期	407	保育者基礎演習B	工藤真由美	内容もすすめ方も異なる2つの授業を一つにしているため、学生からも評価がしにくいという声が上がっていた。	昨年とは教員の組み方も異なっているため単純にはひかてできないが、学生のニーズ(学生が意識してなくても、社会的には求められている)にさらに応えていきたい。		一教科複数担当制ではどの教員のどの内容に焦点付けて評価してよいか、学生自身が戸惑っているようである。今後の改善を期待すると共に、自分自身としては、さらにわかりやすい授業を工夫したいと思う。
後期	408	言葉と表現Ⅱ	工藤真由美	非常に高い評価を頂き嬉しく思っている。学生自身も非常に熱心に授業に取り組んでいたと思われる。	さらにわかりやすく学生が集中できる授業を工夫していきたい。		学生が楽しいと感じ、主体的にテーマに沿って学習する姿勢を教員が追及することで、授業満足度はさらにアップすると思われるので、さらに精進していきたい。
後期	409	音楽Ⅰ	吉岡紀子	多くの学生が授業に満足して取り組み、技能を習得し、授業の内容を理解できたと考えているようだ。しかしその中で“どちらでもない”という項目を選んでいるものも目立つ。	教員が求める内容の理解、実技の習得に、学生の意識が随分近づいてきているように思う。しかし、“どちらでもない”という項目では、学生も教員もどういった意図で選んだかという所で疑問が残る。	ある一部の学生の記述の中に“課題に取り組むための時間が足りない”とあった。実技の授業は、授業以外の時間の準備(練習)が重要であるということを確認できていない様子である。実技に対する意識の再確認が必要ようだ。	後期には実技の課題も増え、学生の負担も多くなっているが、それに取り組む時間や内容も学生自身の意識の向上に繋がってきているように思う。音楽Ⅱにつなげていけるよう、前期からもういろいろなるものを視野に入れて指導していきたい。
後期	409	音楽Ⅰ	金香観	時間もかけて補講の回数をたくさん増やしましたが学生の立場からは不満だったようです。それと比例して成績の方も難しい結果となりました。			どれだけ学生からやる気を引き出せるかが今後の課題です。
後期	409	音楽Ⅰ	牧田さやか	問5.6について、前期は、「そうは思わない」と答えた学生が多かったが、今回は「そう思う」という回答が多かったことから、学生が授業に対して、関心、意欲を持ってきていると感じる。	どの結果も、学生より教員の方が上回っているのが残念であるが、やはり問5.6の結果からは、学生にとっては満足のものであったのではないかとと思う。		ピアノが苦手な学生も多いが、保育士になるためには欠かせないことなので、それを十分理解させた上で指導していきたい。
後期	409	音楽Ⅰ	杉田清子	学生評価が学年平均を全体にやや上回っている。進度の速い方ではなかったが授業に対して積極的に取り組んだ学生が多かった結果だと思う。	全体に自己評価が学生評価を上回っている。授業を受けやすいように努力したつもりでもまだまだ足りない結果であろう。教員数が多い授業なので教員全体で授業環境を向上させる努力も必要である。	「ピアノを弾く時間ももっとほしかった」と記述した学生が目立った。授業には限りがあるので個人練習と授業をもっとうまく結びつかせ、向上させる努力が必要だ。	まったくのピアノ初心者にとって、練習の習慣を身に付けさせるのは容易ではない。いかに普段の練習が重要であるかということ、また技術を身に付ける喜びを伝えられるように努めたい。
後期	409	音楽Ⅰ	森脇由紀	熱意をこめて、の項目が、学生評価と開きがあった点反省しなければならない。	いつも項目によって学生評価と開きがあるのは、反省しなければならない。		学生が求めているものは何か敏感に感じ取り、耳を傾けて常に取り入れていかなければいけない。
後期	409	音楽Ⅰ	井後和恵	学生からは学内平均を上回る評価を頂いたが、課題に取り組む時間が少ないと感じている学生が多い事に留意し、課題を与えるタイミング等、再検討したい。	課題の量が少ないと感じている。教員に対し、多いと感じている学生が多いように思われる。		課題の量、取り組む時間等、学生との意見の隔たりを認識し、授業外の自習の大切さも含めて、学生が意欲的に取り組めるよう指導していきたい。
後期	409	音楽Ⅰ	大森由美子	学生達は熱心に授業に取り組む実技・技術の向上に役だっただと感じているようだ。	昨年度の評価を踏まえ授業内容を改善した点がよい結果を生んだと考える。		授業形態・課題量など検討し学生の技術向上に役立つ授業内容にしなければならない。
後期	409	音楽Ⅰ	谷本尚子	全体的に学生の評価は高い。学内平均にほぼ達している。	ほぼ比例しているように思います。昨年度よりもこの音楽Ⅰの授業に前向きに取り組む生徒が増えたように思いました。	「自由記述」は普段聞くことのできない学生の声を聞くことができ、授業内容の向上に役立つと思います。	今年度から少し授業の進め方を変えたことにより、学生の音楽に対する取り組み方も変わったように思う。今までは、授業の進行速度が速く、ついていけないという声もありましたが、今年度は少し改善されたように思います。
後期	409	音楽Ⅰ	藤本紀子	出席率もよく、まじめに取り組んでいるこのクラスにとっても過大なこなす時間が少ないと感じていることがわかる。	教員との結果の差が少なく、全体的には信頼関係を保って授業が行われていると思う。課題量、取り組む時間に対する感じ方がずれているのが気になる。		生徒自身に目標を持って授業に取り組む、自らそのための時間を作り出せるような指導をしていきたい。

後期	410	音楽 I	佐藤久美子	全体的に学生評価よりも教員の自己評価が上回っている。教員の熱意が学生に伝わりにくいように感じられる。	実技アンケートの結果について、昨年度と同様に学生と教員の思いに多少ズレがある。特に問18、19の「課題の量」については、最もズレが生じているが、課題の量に関しては、必要最小限の量であると思う。	生徒の素直な意見が聞けてよかった。	実技授業のため個人差がある事を把握し、丁寧な指導をしていかなければならない。
後期	410	音楽 I	吉川陽子				
後期	410	音楽 I	麴谷さつき	課題の量、取り組み時間についての問いは今回も低い評価だった。しかし、授業を行ってみて初心者の学生でも、真面目に取り組めば可能な量であったので、評価を参考に授業の進め方を考えたい。	全体的に教員より学生の評価の方が低く、やはり課題の量や取り組み時間に対する問いはさらに低い。		学生のレベルも様々なので、それに対応した、課題の量、取り組み時間、その必要性も含め、指導できればと思う。
後期	410	音楽 I	岡田麻耶子	全体的に高い評価を得られたと思う	今年度より勤務しているのわかりません	学生から歌の試験がないので全部ピアノのレッスンにしてほしいとあったが、歌も大切な授業であることを伝えきれなかった。同時に、試験のためだけに練習するという姿勢を残念に思う	問19の課題に取り組む時間について多くの学生が十分でなかったと感じているようだが、その理由としてアルバイト等自分次第でどうにかできるのと感じる理由が多い。アルバイトを優先する学生には、練習の大切さを伝えきれなかったことが反省であり今後の課題である。
後期	410	音楽 I	河津春奈	どの結果を見ても、学内平均より学生評価が下回っている。とても残念に思う。問18、問19が極端に低いが、あまり理解できない。	学生評価が自己評価を全て下回っている。自己満足にならないような授業運営をしなければならない。		問18の課題の量が適切であったかという間であるが、きわめて学生評価が低い。こちらとしては最低限の課題しかだせていないので自己評価が低いが、学生にとっては課題が多いと感じ、評価が低くなったものだと思う。課題に取り組む時間も十分にあったはずなので、来年からはしっかりと努力し、課題に取り組んでもらいたい。
後期	410	音楽 I	久保雅世	学生評価と、自己評価に大きな差がある項目が目立つように思う。特に、課題の量や、それに取り組む時間についての項目では、学生評価が、学内平均、自己評価を大きく下回る結果となっていた。	内容の理解度や、習得度については、ある程度の評価を得ている面もあるが、一方でどちらでもないと言う評価が目立った。個々のレベルにあわせた授業内での個人レッスンや、バイエルの学生対象の時間外レッスンが、学生の理解につながるよう、さらなる努力をしたい。	アンケートでは得られない、具体的な意見が聞けて、参考になった。	短期大学に入って初めてピアノを始める学生も多いため、2年の間に保育の現場で通用する技術を習得するためには、相当な努力が必要であると感じる。個人レッスンという形態をいかし、個々のレベルにあった指導、また、学生が意欲的に取り組めるレッスンを心がけたい。
後期	410	音楽 I	淡路和子	全項目の平均値で4.5の回答計が46.7%で憂慮すべきではないと思うが、全ての項目で学生評価が教員評価・学内平均を下回っている。ピアノは授業時間外の自己研修が不可欠。説明に時間が必要か？	ピアノの初心者が多数なので、読譜力・テクニックの基礎力アップのための教材を作成、採用している。教材を「生きた教材」にするため、教員間で再認識したい。(複数担当)	複数担当の授業で、個人に対する意見が全担当者に公表されるのはつらいものがある。	ピアノなどの技術習得の面で、「努力はしたくないが技術は習得したい」と矛盾した希望を持つ学生に、今後どのように対処していくか、教員間で共通認識し善処したい。
後期	410	音楽 I	森脇由紀	想像していたより全体的に高い評価をもらったように思う。熱意をこめて、の項目が、学生評価と開きがあった点反省しなければならない。	他の音 I クラスより厳しい評価になっている。		学生が求めているものは何か敏感に感じ取り、耳を傾けて常に取り入れていかなければいけない。
後期	410	音楽 I	井後和恵	学生から学内平均を下回る評価を得たことを真摯に受け止め、音楽2を受講する学生に対しては、接し方から見直して指導していきたい。			教員の熱意がそのまま伝わらないということをしかり自覚して、学生の立場に立つことも忘れず授業を進めたい。
後期	410	音楽 I	中谷孝平	どの問に対しても中庸な値を選んでいて、積極的に答えて欲しかった。	活力のない雰囲気のあるクラスはその授業を実用的に活かして行うとする意識が希薄である。		保育学科の学生が自らこの授業の重要性に気づいてくれるよう心掛けたい。
後期	411	音楽 I	佐藤久美子	学生評価が平均して「3、4」が多いので、少し残念に思う。教員の熱意が学生に伝わっていませんように思う。	昨年度とあまり大差はないが、全体的にすべて今年度の方が下回っている事が目立つ。授業内容をもう一度改めて工夫していかなければならないように思う。		実技(ピアノ)が苦手な学生に対しては、興味を持てるような課題と指導を心がけていくべきだと思う。
後期	411	音楽 I	角野美穂	全般にわたって、学生評価が学内平均を下回っている。授業で課された課題の量が多く、課題に取り組む時間が足りないと感じているようだ。	自己評価に比べて学生評価がかなり下回っている。これまでの結果と比べるとかなり評価が低くなっている。		ピアノは、ある程度の課題の量をこなさないと実力がつかないので、うまく時間を作って課題をこなしてほしいと思う。なるべく効率よく練習に励めるようにテキスト等見直したい。

後期	411	音楽 I	金香帆	学生自身の理想や希望とは裏腹に課題をこなせなかったり、なかなか習得するのに時間がかかってしまうと学校側の責任とを感じる学生もいるかもしれないと思いました。	こちらが時間をかけて何度補講をしても、学生自身にやる気や意欲がなければ伸びるはずはありません。実技の前にしっかりと自覚を持ってもらえるような指導の方法を考えなければなりませんと感じました。		考えたり、行動したり、練習したりするのは結局一人のことです。学校側ではその後押しや補助的なものでしかないと思います。卒業したらすぐ教える立場になるという一人の大人としての責任をしっかりと持ってもらえるようにしたいと感じました。
後期	411	音楽 I	久保雅世	学生評価と学内平均は、ほぼ一致していたが、自己評価とは、大きな開きがある項目もあった。特に、課題の量や、それに取り組む時間についての項目では、学生評価が、学内平均を大きく下回る結果となっていた。	後期は前期と比べ、課題の量が増えた為、負担と感じた学生が多かったと思うが、課題が増えたことにより、ピアノに向き合う時間が増え、授業以外の時間に練習に来ている学生の姿も多く見受けられた。練習する習慣を身に付けることが、ピアノの技術の向上につながることを、伝えていきたい。	授業の中で、ピアノの時間が少ないと言う意見があったが、授業がスムーズに進むよう、学生たちに最低限できる授業の準備を徹底するように、心がけて指導していかねばならないと感じた。	今回、たくさんの課題に向き合うことで、今までよりも努力してピアノに向き合う学生の姿が多く見受けられたように感じる。練習する習慣を身に付けることは、やればできるという自信や意欲につながると思う。技術を身に付けるためには、練習することが不可欠である。学生たちひとりひとりが、個々で楽譜をよみ、意欲的に練習する力を身に付けていけるよう、一層の指導を心掛けた。
後期	411	音楽 I	岡田麻耶子	全体的に学生の評価が自己評価より低いのが気になりました。	今年度より勤務しているのだからありません。	無記名なので普段直接言いにくいことも書いてあり、参考になりました。	授業に対する熱意が学生と教員とは差があり、こちらの思いが学生に伝わっていないのかと思うと残念です。お互いのコミュニケーション不足も理由の一つだと思うので、今後改善していきたい。
後期	411	音楽 I	島長恵美	いずれの項目も学内平均を下まわっていて、とても残念です。学生評価の中でも、特に問18が低いようです。学生にとっては、課題の量が多すぎるということなのでしょうが、現場で通用する力をつけることを考えると、まだ足りないぐらいではないかと思えます。	昨年度後期分の音楽 I の集計結果を頂いていないので、比較することはむずかしいです。	自由記述は、ひと程度程度の短いものが大半でしたが、学生の自由な意見が聞けるので良いのではないかと考えています。	全体的に学生評価が学内評価を下まわっていますが、その中では問9の学生評価が一番高いことが励みになります。ピアノについては初心者に近い学生が大半で、2年間のうちに現場で通用する力をつけるということは大変なのですが、私たちの熱意は学生に理解してもらえているということを感じ、これからも地道に指導していきたいと思えます。
後期	411	音楽 I	森脇由紀	問1, 2, 4, 9, 10で自己と学生で評価に差があるのは、自覚が足りなかったと思う。	多くの項目で学生評価と差があるのは、反省すべき点であると思う。		学生が求めているものは何か敏感に感じ取り、耳を傾けて常に取り入れていかなければいけない。
後期	411	音楽 I	向山裕子	問18,19の評価が特に低く、課題の量とそれに取り組む時間が適切でないと感じている学生が多いようです。	課題の量とそれに取り組む時間が不足は昨年も問題になった点であり、改善することが出来ていませんでした。	ピアノの必要性を感じているようです。	一年間で就職試験に対応できるまでの実力がつくようにと考えての課題量ではありませんが、ピアノ初心者の学生にとっては負担に感じているようです。今後課題の多さを感じさせない指導法を考えたいと思います。
後期	411	音楽 I	藤本紀子	授業に対する教員の熱意は伝わっているようだが、それに反し自分自身はなかなか習得できない、難しい教科だと感じているようだ。	課題量は昨年とほぼ変わらないのに、昨年より難しいと捉える生徒が多いようだ。		教員はなぜこれらの実技課題が必要なのか伝え、意欲を引き出し自分で時間をつけて学ぶように指導したい。課題そのものの指導だけでは十分ではないのかもしれない。
後期	411	音楽 I	野間路代	平均して「どちらでもない」という回答が一番多いように見えるが、このクラスは、自分が担当している他のクラスの評価に比べて、実技に関する質問で「そうは思わない」と回答している学生が多いが目立つ。	すべての設問に対して、自己評価が学生評価よりも上回っている。	ほとんどの学生が記入していなかったため、特に参考にできなかった。	授業の進行速度が適切かどうかや、実技系の設問(課題の量や取り組む時間が充分にあったか)に「そうは思わない」の回答が多いということ踏まえて、課題を見直したい。また、今年度は課題を出すタイミングも少し遅かったこともあるので、来年度はもっと早くから準備するようにしたい。
後期	412	音楽 I (ライフ)	佐藤久美子	全体的に教員の評価より学生の評価が高いが目立つ。学生評価「5」で100%の回答がいくつか見受けられたのは非常に嬉しく思う。	昨年度と比較して、今年度はとても評価が上がっているのので、授業内容は学生にとって良いもので展開されているように思う。		学生の意欲を向上させるように、明確な指導を心がけた。
後期	412	音楽 I (ライフ)	杉田清子	どの項目を見ても学生評価は非常に高い。この授業は受講生が少数だったため、一人一人に充分な指導ができ、学生は充分な成果を実感したのだと思う。	学生の満足度に比べて自己評価は全体的に低い。問5や問6の結果より、もう少し難易度を上げ課題を増やし、学生の中身を向上させる努力が必要だったと感じる。	一度単位を落とした学生が、再履修でピアノに対して興味を持って、弾けるようになる喜びを感じたようで、大変嬉しく思う。	授業の進度をもう少し進めたかったが、学生は現状の進度に満足している。学生を納得させながら、更にレベルの向上を図りたい。
後期	412	音楽 I (ライフ)	中東愛子	ほとんどの項目が、学内平均より上回っているという予想以上のよい評価を頂いた。	学生評価が全体的に自己評価を上回っていた。	学生の率直な意見を知ることができてよかった。	個人授業なので個人差があることを認識し、生徒一人ひとりに応じた指導をしていきたい。
後期	412	音楽 I (ライフ)	大森由美子	学生からは予想以上によい評価を頂いた。	学生評価が全体的に自己評価を上回っていた。		

後期	412	音楽Ⅰ(ライブ)	中谷孝平	全般的に高評価である。	各問に対して学生と教員が近い結果を出しており、加えて述べるなら、学生の値が教員のそれを上回っており、学生のこの授業への積極的な参加の姿勢が見れるのではないかと。		学生評価がどの設問に対してもほぼ同じ値を選んでいる為、教員はこの結果を手放して喜んでよいものかという疑問が残るが、今回は素直にこの結果を喜びたい。もう少し時間的に余裕のあるところで実施しては如何か。
後期	412	音楽Ⅰ(ライブ)	吉岡紀子	ほとんどの項目で4や5を選んでいる。授業内容とその意味を理解し、熱心に取り組めたようである。	それぞれの項目に対して教員側は、実技の授業として適した回答を見出せないまま、もしくは、違和感を感じながら回答しているため、数字を見るかぎり学生よりも評価が低い。	受講者が4人。うち、回答者は3人という少人数のため、自由記述の方がそれぞれの感じたこと、意見や要望を感じ取り易い。じっくり授業に取り組めたようだ。	実技科目の授業評価調査方法について、見直す必要がある。授業自体は、少人数に対し時間を充分にかけ、通常授業ではできない事を試みる事もできた。
後期	413	音楽Ⅱ	佐藤久美子	教員の評価と学生の評価に大きな差があるのが残念だ。あまり学生には、熱意が伝わっていないように思う。	昨年度よりも学生の評価は低い。教員も工夫する点は沢山あるが、学生自身ももっと熱意を持たなければ、実技レッスンなので向上が望めないように思う。		実技(ピアノ)の苦手な学生には、より丁寧に解りやすく指導を工夫する必要がある。
後期	413	音楽Ⅱ	久保雅世	全体的に、学生評価が、学内平均、自己評価を下回っている。どちらでもない、と回答している項目が多かった。	与えられた課題に取り組む時間についての項目が、特に低い評価であった。2年次の課題は、各担当教員が個々に応じて課題を決めているが、レッスンの中で、やらなければならない課題を明確に伝え、課題の数をこなしていく必要性を、学生に十分に説明して、指導していかなければならないと感じる。	定期演奏会が近付くと、授業ではその練習が主となるが、就職試験を控えた学生には、個々の担当教員が責任をもって学生の指導に対応していることが評価されていて、良かったと思う。	2年次は、就職を目前に控えた時期である為、実際の現場で通用する力をつけていけるよう、指導していきたいと感じる。自分で楽譜をよみ、自分で弾ける力をつけるためには、日々の練習や努力が不可欠である。その習慣をつける重要性を指導していきたい。
後期	413	音楽Ⅱ	島長恵美	いずれの項目も学内平均を下まわっていて、とても残念です。最も評価が低かったのが問19の「課題に取り組む時間が足りない」ですが、「時間は自分で作るもの」という気もします。	「学内平均」は昨年度とほぼ同じような結果が出ているようですが、「学生評価」は、今年度はぐっと低くなっているようです。問8は、板書が「不適切」であったということではなく、授業の性質上、板書をする必要性・機会が少ないということもあります。	自由記述は、ひと言程度の短いものが大半でしたが、学生の自由な意見が聞けるので良いのではないかと考えています。	卒業後、保育士として現場に出た時に役立つよう、いろいろな課題を提示し、高い水準を目指して指導しているつもりですが、「学生」の視点からすると、なかなかそれが現実感を伴わない面があるのかもしれない。それらの点を、根気よく指導していきたいと思えます。
後期	413	音楽Ⅱ	岡田麻耶子	全体的に自己評価と学生評価との差が大きいのが気になる。こちらは熱意を込めて授業を行っているが、授業の満足度は3なので残念に思う。	今年度より勤務しているのだから。	定期演奏会の練習のため、普段練習する時間がなかったとあり、どちらも重要な練習なので、この様な意見は今後の難しい課題になると思う。	2年生になると就職活動、定期演奏会と1年に比べさらに忙しくなり、弾き歌いのレパートリーを増やす時間はもてないと思う。授業外でも補講を積極的に行う必要があると感じた。
後期	413	音楽Ⅱ	中東愛子	自己評価より学生評価が下回っている。あまり学生には伝わってないように思う。	自分の指導が学生に伝わっていないのがとても残念だと思う。	学生からの評価を確認できるということは大変いいことだと思う。	社会に出てから役にたてるような指導を心がけたい。
後期	413	音楽Ⅱ	中谷孝平	概して、学内平均を下回っており、残念である。但し、この調査の実施時期が定期演奏会の準備期間であった為、学生が本来のこの授業の内容を鑑みて書いたものかどうか疑問が残る。	教員側の熱意が学生にはあまり伝わらないのは残念なことである。		この授業は実業訓練の面を色濃く持っている部分がある。そのため、自ら努力する学生へとモチベーションを上げて欲しい。
後期	413	音楽Ⅱ	向山裕子	全ての設問で学内平均を下回る厳しい評価でした。特に問18,19の評価が低く、課題量、時間不足に困っている学生が多かったようです。受講者数が23名にもかかわらず有効回答者数が11名と半数以下だったのが残念です。	複数教員で担当しているのでその平均かと思われます。問1,2,9,10,11について、日頃から全力で授業により組んでいます。学生評価との間にギャップが見られます。		卒業後の現場での事を考えるとどうしても課題が増えがちになります。それぞれの進捗に応じたより効率的な学習方法を工夫し、自主的に練習が出来るように指導していく必要があると思えます。
後期	413	音楽Ⅱ	谷本尚子	全てにおいて評価が低く、学内平均を下回っている。	教員の評価は全体的に高い。学生と教員の授業に対する感じ方が違うように思う。あまり熱意が伝わらなかったと。	学生の生の声を聞くことができ、授業内容の向上に役立つと思います。	音楽Ⅱは毎年あまり学生評価が低いように思います。授業の進め方、難易度にも問題があるのかもしれない。今後「自由記述」からの意見も取り入れ、授業内容を見直す必要があると思えます。
後期	413	音楽Ⅱ	木谷祐子	学生評価がどの項目においても、学内平均・自己評価よりも低い結果でした。	学生評価と自己評価の間に開きがあるのは反省すべき点です。「課題に取り組む時間」の項目については例年になく低い評価でした。	良い試みだと思いますが、実技指導の貴重な授業時間の中で、記述に十分な時間を取れていないように思います。	同じように指導しているつもりでも、クラスによって評価に大きな差が出ていました。ピアノの苦手な学生に対して、やる気を持たせられるように、工夫をサポートしていきたいと思えます。
後期	414	音楽Ⅱ	中谷孝平	ほとんどの学生が授業内容とその意味を理解し、熱心にとりくんでいるように感じる。特にこちらの熱意や目標・ねらいは汲んでくれている。	学生の評価に対して教員の自己評価は低めである。それは自分の反省であったり、質問への疑問であったり、さまざまであると思う。昨年とグラフの形が似通っている。	素直に心からこの授業を楽しみ、それぞれ技術の向上や内容の理解を高めているように感じた。	学生の授業評価の回答や自由記述にあるとおり、学生・教員ともにより関係で授業をすすめることができたように思う。更なる意識の向上をめざし、現場につながるよう導いていかなければならない。

後期	414	音楽Ⅱ	吉岡紀子	ほとんどの学生が授業内容とその意味を理解し、熱心にとりくんでいるように感じる。特にこちらの熱意や目標・ねらいは汲んでくれている。	学生の評価に対して教員の自己評価は低めである。それは自分の反省であったり、質問への疑問であったり、さまざまであると思う。昨年とグラフの形が似通っている。	素直に心からこの授業を楽しみ、それぞれ技術の向上や内容の理解を高めているように感じた。	学生の授業評価の回答や自由記述にあるとおり、学生・教員ともにより関係で授業をすすめることができたように思う。更なる意識の向上をめざし、現場につながるよう導いていかねばならない。
後期	414	音楽Ⅱ	吉川陽子				
後期	414	音楽Ⅱ	牧田さやか	学生からは予想以上によい評価を頂いた。学生にとって充実した授業内容を行えたと思う。	全体的に学生からの評価は自己評価を上回っていた。定期演奏会に向けて練習に取り組む中、ピアノにも力を入れた事は良かったと思う。		学生一人一人に、熱意を持って指導する事が大切だと思う。
後期	414	音楽Ⅱ	河津春奈	全体的に学生評価が上回っており、うれしく思う。	有難い事に自己評価より学生評価のほうが上回っている。特に問9は、こちらに熱意が伝わっているようでうれしく思う。		問8に関しては、個人レッスンなので板書することが無いため、評価しにくい問であった。
後期	414	音楽Ⅱ	久保雅世	すべての項目において、学生平均が、学内評価、自己評価を上回り、高い評価を頂いた。	後期の授業では、定期演奏会の練習が主になるが、一方で、学生たちに実践力がつくよう、通常授業にも力を入れた。個人レッスンを通じての細かな指導が、学生の技術習得や、理解につながったと感じる。	定期演奏会に関して、意欲的な意見が多く見られた。定期演奏会に対する、学生たちの熱意を感じた。	後期の授業は、定期演奏会の練習が中心だったため、学生たちは各分野で(声楽・ピアノ・器楽)、人に聴かせる音楽として、より専門的な指導を受け、演奏会に臨んでいったと思う。2年間の集大成として、演奏会を通して、学生たちひとりひとりに、大きな成長があったと感じる。
後期	414	音楽Ⅱ	中東愛子	ほとんどの項目が、学内平均より上回っているという予想以上のよい評価を頂いた。	自己評価と学生評価の差があまりなかったのがよかった。	一人ひとりの学生の思いが伝わるのでとてもいいと思う。	生徒とコミュニケーションをとりながら多くのことを学んでもらいたい。
後期	414	音楽Ⅱ	藤本紀子	技術や実技の向上に役立ったと満足しているようだ。就職試験など、具体的な場面に役立ったことによるだろう。	就職試験に授業の必要性を強く感じる為か、毎年熱心に取り組む様子が伺え、また、教員との信頼関係も十分に取れている。		就職試験に対することにとどまらず、卒業後、実際に仕事に就いた時に活用ができるような実技指導にさらに努めていきたい。
後期	414	音楽Ⅱ	早川未紗	学生は全体的に積極的で、授業に満足してくれているように思います。	全体的に良い評価をしてきていると思います。こちらの目的、考えをよく理解し、授業に取り組んでくれている。	学生の率直な意見を聞くことができるので、アンケートより、今後の参考になり、とても良いと思います。	一人ひとりのレベルが違うので、個々に合わせた指導を心がけながら、技術が向上するように指導方法を工夫していきたいと思っています。
後期	415	音楽Ⅱ	吉岡紀子	全体的に、意欲的に目標をもってこの授業に取り組んでいたように感じた。難易度や進行速度、課題の量とそれに取り組むための時間に関しては、それぞれの感じ方によらつきがあるようだ。	学生・教員ともに評価の値が似通っている。といっても同じように感じて、とは言えず質問の内容に疑問が残る。課題に関してのこちらの想いと学生の感想ではずれを感じる。	記述が極端に少なく、内容もあまり参考にできるものはない。ここからは実技に対する率直な意見を取り入れることはできなかった。	課題だけに関わらず技術の向上のためには、授業内の時間だけでなく、普段の自分の時間を割いて常に継続しなければならぬこの授業が、学生にとって重荷にならないよう、それらの積み重ねが自身にとっていかに必要か大切かの意識をもってもらえたいと思う。
後期	415	音楽Ⅱ	牧田さやか	全体的に、高い評価を頂いた。学生にとって充実した授業になったと思う。	昨年に比べ、よい回答が多かった。学生の雰囲気も、全体的に前向きで、よかったと思う。		こちらから、熱意を持って指導を行い、これからも意欲的に授業にとりくんでくれるように、気を配っていきたい。
後期	415	音楽Ⅱ	河津春奈	だいたいどの評価も同じぐらいの評価である。	学生が自発的に学習するような授業運営しなければならぬ。		学生にしっかり内容が伝わるような授業運営にしなければならぬ。問8に関しては、個人レッスンなので板書することが無いため、評価しにくい問であった。
後期	415	音楽Ⅱ	杉田清子	学内平均と比較するとすべての項目において学生評価が上回っている。また、詳細を見ても1や2のそうは思わないと感じた学生が極めて少ない。意欲のある学生が全体を引っ張ってより良い授業環境が生まれた結果だと思う。	学生が昨年度受講していた音楽Ⅰの評価と比較すると、授業内容(難易度や進度など)に関する意識が高まり、適切と感じているのに対し、自己評価は難しすぎたのではないかと懸念した結果が見える。	この授業の集大成でもある定期演奏会前の授業評価であったにも関わらず、それに向けての練習が非常に大きなものであると感じた学生が多く、学生の秘めたエネルギーが伝わってきた。	授業の半分が個人レッスンであるこの授業では学生一人一人をよく見つけ可能性を引き出せるようにしたい。熱心な授業を行い、それを伝えていけるよう、自分自身が前向きに技術の向上に努めたい。
後期	415	音楽Ⅱ	井後和恵	選択科目ということもあるせいか、学内平均を上回る評価を頂いた。今年度も引き熱意を持って指導したい。	昨年同様、いい評価をいただけだが、課題をもっとこなせるよう指導していきたい。		
後期	415	音楽Ⅱ	中東愛子	学生評価が思った以上に高かったため、この授業に満足してくれていたようだ。	教員の熱意が生徒に伝わるような指導をしたい。	学生一人ひとりの気持ちがかかっていいと思う。	自由記述の学生の意見を参考に授業を工夫していきたい。
後期	415	音楽Ⅱ	中谷孝平	凡そ、4以上の評価で、この授業に対する学生の意気込みが感じられる。	各問の教員側の値と学生側の値が似たものになっており、目的を同じく出来た感がある。		学生の満足度と実践で活かせる力が相互とも上がって欲しい。

後期	415	音楽Ⅱ	野間路代	ほとんどの設問で、半分以上の学生が「そう思う」と回答しており、大半の学生が高い評価を出している。	何問かについては自己評価よりも学生評価のほうが上回っている設問もあり、よかった。実技系の設問で、学生評価と自己評価があまりかわらないこともよかったと思う。	ほとんどの学生が記入していなかったため、特に参考にできなかった。	問18や問19の結果が、教員側が思っていたよりも学生の評価が高いところから見ると、もう少し課題を出してもよかったかもしれない。しかし、問1や問9の結果を見ると、教員側が授業に臨む体制も考えなければいけない。
後期	415	音楽Ⅱ	木谷祐子	学生評価は思ったより高く、評価の詳細を見ても、5の評価率が高いです。	全体的に学生評価が高く、自己評価を上回っている項目も半数以上あります。卒業までに、できるだけレパートリーを増やすよう働きかけて指導したのが良かったと思います。	良い試みだと思いますが、実技指導の貴重な授業時間の中で、記述に十分な時間を取れていないように思います。	就職試験に向けての指導、内定後の指導等、個人レッスンの良さを生かして、充実させていきたいと思っています。
後期	416	音楽Ⅱ	佐藤久美子	学生評価の平均が「3.4」が多かった事は残念に思う。「どちらでもない」という回答が多いという結果は学生の、授業に対する意欲が薄いとと思う。	昨年度よりも学生の評価は低い。教員も工夫する点は沢山あるが、学生自身ももっと熱意を持たなければ、実技レッスンなので向上が望めないように思う。		学生の意欲を向上させるように、明確な指導を心がけたい。
後期	416	音楽Ⅱ	角野美穂	授業内容は実技の向上には役立ったが、難しく進行速度が速いと思っているようだ。	授業は熱意を込めて真剣に行ったと自己評価しているが、学生はもっとわかりやすい説明を望んでいるようだ。こちらも常に時間に追われてレッスンしていた。		もっと学生が授業内容をよく理解できるように、基本的な事柄を学生の納得いくまで丁寧に説明していきたい。
後期	416	音楽Ⅱ	金香勲	2年は定期演奏会の関係で、あまり個人レッスンの時間が持てませんでしたので、深く理解してもらうのは困難でした。課題もそれほど多く習得できなかったのが学生の評価ももっともだと思う。			どれだけ学生からやる気を引き出せるかが今後の課題です。
後期	416	音楽Ⅱ	吉川陽子				
後期	416	音楽Ⅱ	麴谷さつき	全体的に教員より学生の評価の方が低く、問5について「そう思わない」との回答が14%あるのが気になった。	やはり課題の量や取り組み時間に対する問い直し評価が低い。常に考えないといけない問題点でもある。		幼稚園・保育園での実際の活動や就職後のことも考え、課題の量、その必要性も含め、指導できればと思う。
後期	416	音楽Ⅱ	岡田麻耶子	ほとんどの結果が③、④の中間であった。問20の項目は④を超えてうれしく思った。	今年度より勤務しているのだから	ピアノの時間を増やしたいが、学生から歌の時間が足りないとあり、双方を同じ進度で同時に向上させていかなければいけないことに気づいた	行事が重なり、忙しい中かきに学生に曲数のレパートリーを増やしていくのが今後の課題だと思った。学生たちが「練習をしなければならぬ」と思うような説得力のある指導をしていかなければならぬと思った。
後期	416	音楽Ⅱ	中東愛子	学生評価が思った以上に低くて残念だった。	教員の熱意だけではだめなんだと自覚させられた。	学生の率直な意見を知ることができてよかった。	課題の量を考え、学生一人ひとりにあった授業を心がけていきたい。
後期	416	音楽Ⅱ	大森由美子	4の回答が多かった。授業の難易度のレベルや授業進度評価が低くなっていた。	昨年に比べ学生評価が全体的に低くなっている。授業内容や難易度・進行速度に関して検討しなければならない。		技術の習得に個人差があるので教材や課題に取り組む時間について考えなければならない。
後期	416	音楽Ⅱ	中谷孝平	全問において学内平均を下回り、残念。	教員と学生の意識の相違が見られ、残念。		全問で学生評価が教員の評価を上回るよう努めたい。
後期	417	図工Ⅱ(1,2組)	香月欣浩	学生からはよい評価をいただいていた。学生は良くついてくれたと思っている。	自分は全力で授業してきた。今後も厳しく自分を評価していきたい。また学生の声に耳を傾けていきたい。	今後も適切なアドバイスと指導ができるように、学生をしっかり見ていきたいと思っています。	授業の進行計画をを再度確認し、それに沿って進められるよう改善していきます。
後期	418	図工Ⅱ(1,2組)	中路規夫	比較的早い時期にアンケートを実施したので、生徒たちはまだ版画というものが何なのか理解せず答えている。従ってこの時期としては仕方のない評価かもしれない。	授業の最終日あたりにアンケートを実施すべきであった。	多くの生徒から、楽しかった、版画をやった良かった、絵が好きになった、また版画をやりたいとうれしい記述を得た。	本年度より一方的に版画の授業がなくなる。なぜなのか。明確な説明もない。絵を描くだけでなく版を通じて絵を作り上げる作業は大切な授業だと確信している。版画の授業は復活させるべきと考える。
後期	419	図工Ⅱ(3,4組)	城三和子	教えきれなかったところや自分にとっての課題が残ったところもあったが、学生からの評価の高さは、先生という職を初めて受け持った私にとってはうれしかった。	なにぶん初めてだったので、十分授業ベースを考えていても、それが甘かったことに気づかされました。授業をこなすことを優先して、版画に関する情報を学生に伝えきれなかった。しかし、ともに楽しみながら授業ができて良かった。楽しんでやると言うことを学んでくれればよいです。	学生の生の声を聞くことができますが、絶対提出するものではないので、書かない学生が多く見られました。	授業ベースに余裕をもち、空いた時間に授業内容や美術に関すること、子供でもできるアートなど、教えられることを伝えたい。
後期	420	図工Ⅱ(3,4組)	香月欣浩	予想以下の評価だった。学内平均以下で驚いた。	自分は全力で授業してきたのでほぼ満点をつけたが、学生はそれほど感じていない。学生と指導側の感じ方の違いを客観的に捉え改善していこうと思います。	適切なアドバイスと指導ができていなかったのではないかと？もう1度検討していきます	学生の授業評価を満点にしないまでも、授業を受けてよかったと思うように内容と指導を再検討していきたい。

後期	421	図工Ⅱ(5,6組)	中路 規夫	14週目に実施。生徒たちは版を通して絵を作る楽しさ喜びを知り、この様な好評価をいただいたと言える。	100%ではないが昨年度より好評価してもらっていると思う。版画の技術はしっかり伝えたいが、絵づくりは生徒の自主性を尊重した。	多くの生徒から、楽しかった、版画をやった良かった、絵が好きになった、また版画をやりたいという嬉しい記述を得た。	本年度より一方的に版画の授業がなくなる。なぜなのか。明確な説明もない。絵を描くだけでなく版を通じて絵を作り上げる作業は大切な授業だと確信している。版画の授業は復活させるべきと考える。
後期	422	図工Ⅱ(5,6組)	元木 昭治				
後期	423	幼児体育Ⅱ	籙 功	学生評価の平均が、学内平均を上回り、よかったと思う。	昨年と比べ、大きな差はないように思うが、そう思わないのが0%の問いが1つもないのが残念に思う。	冬場の体育館が寒いという意見が多かった。	幼稚園で実際に行われている内容を多くしたが、学生にはもっと関心を持ってもらえるよう努力したい。
後期	424	保育者論	川越佳子	午後からの授業で眠くなることも予想されるので、自分としては工夫しながら精一杯授業に取り組んだつもりであったが、殆どの学生はまじめに受講していたものの、日によっては1/4近くの学生の受講態度が気になった。その割には授業を理解してくれているようなのでほっとしている。		学生は講義より実技に大きな興味関心を示すことがわかった。客観的に自分の授業を振り返ることが出来て良かったと思う。	大学の設備に不慣れであった為、素晴らしい機器を有効に利用することが出来なかった。今後は事前チェックを丁寧にやっておこうと思う。授業中いちいち板書する時間が勿体ないと思っていたが、受講者がノートと取り易いようにもう少し詳しく書いてみようと思った。
後期	425	教育原理	今井貴代子	学生の評価が良く、満足いく授業を展開できて良かった。しかし、一部授業の難易度について指摘があった。	授業をする方としては、広く学生と距離のある教室の構造に悩んでいたが、学生は適切と思っていたことは意外であった。思った以上に興味を持って熱心に取り組んでいたようで、そうした学生の存在にも授業の中に活用していく必要があると思った。学生からの評価を授業後ではなく、途中の段階で知ることができれば、改善を素早くできると思う。		学生からの評価を授業後ではなく、途中の段階で知ることができれば、改善を素早くできると思う。
後期	426	保育学原論Ⅱ	山田秀江	例年のごとく難易度と進行速度の点で平均より下回っていた。	昨年度のようなパワーポイントを用いた授業では、書くのに追いつかないという学生が多かったため、板書にしたが見にくかったようである。	難しいが大切だと思うという意見があり、授業内容の重要性は感じてくれているようである。	保育職に就くにあたり重要な内容であるので、それを分かりやすく楽しい授業にするため、実践的で具体的な事例などを取り入れ進めていきたい。
後期	427	教育心理学	鈴木智子	全体的に学内平均と同様の評価であった。ただ学生評価詳細を見てみると、問8の板書の適切さと問11の学生に対する注意において2(どちらかと言えばそうは思わない)、3(どちらでもない)と回答した学生のパーセンテージが高かった。これらは来年度の改善目標としたいと考えている。しかし、質問項目間の差が小さく、授業の改善点や評価点が明確ではなかった。個人内での各質問項目に対する評価がどのように分布していたのか(例えば全質問項目の評価が同じレベルなのか、項目ごとにきちんと評価されていたのか)が若干疑問である。	全体的には学生評価が自己評価を上回っていた。自己評価が項目ごとに評価が異なっていたのに対し、学生評価では項目間平均値に大きな差は認められなかった。	「グループ学習がためになった」「講義の方が集中できた」などグループ学習に関しては、相反する回答が寄せられた。学習者自身のディスカッションへの姿勢や経験等個人差によるところもあると考えられるが、今後はさらにそれぞれの学習方法の意義や目的についてより詳しく説明し、授業に取り組みやすい環境を整えていきたいと考えている。また、毎回授業後にコメントを記入してもらったことに関して「毎回コメントを書くことで勉強した内容を振り返ることができた」「学生の意見を取り入れてくれ、コメントに書いた意見を次の授業で取り入れてくれたのがよかったと思う」「始めは板書がしづらかったが、だんだん改善された。学生の意見を聞いて改善されたと思う」など好評価であったので来年度も引き続き行いたい。	今年度は本校での講義が初めてであったこともあり、毎回授業後に行った学生のコメントをもとに、学習内容や伝達方法を改善しながら授業に望んだ。とはいうものの、前半の学生のコメントには「内容が難しかった」という主旨の感想が多かったため、来年度は今年度の学生の感想をもとにより理解しやすい授業内容・方法を工夫していきたい。特に授業方法としては今回のアンケートで指摘された板書の方法、授業環境の整え方などを中心に改善していきたいと考えている。
後期	428	発達心理学Ⅱ	近藤淑子	選択授業なので本当に関心のある学生であったので、授業評価の得点が高いことは当然であろう。シラバスとはかけ離れた授業になってしまったが、これは受講生の関心のある内容に変更したためである。	教室が人数の割に広すぎたことがやりにくかった。学生がほぼ満足してくれたという評価であったが、時にはレベルの高い内容であったことを反省している。	ほぼ満足している内容が多かった。	演習の一斉授業と研究的な授業を組み合わせさせたが、研究的な授業に熱心に取り組んでいた。研究発表ではpower point等を使い、自分達で工夫をしていた。今後も自主性を大切にした授業をとり入れていきたい。
後期	429	小児保健	吉田和重	学生評価が全ての項目において学年平均を上回っている。	一昨年度とほぼ同じ評価である。	授業は楽しく受けることができ、技術の習得ができたことと記述している学生が多くあり、学習効果が期待できたと思う。	
後期	430	小児保健実習	吉田和重	参考にしたいと思います。	特になし。		

後期	431	小児栄養Ⅱ	石村哲代	学生評価の平均値は4.43であり、全項目において学内平均を上回る結果であった。従来の授業評価の反省を踏まえて授業内容を減らしたこと、ゆとりとした授業を心掛けたこと、板書を多くしたことなどの結果と理解している。しかしその分授業内容を大幅に削らざるを得なかった。今後は授業内容の充実に向けてさらなる工夫を図りたい。	教員は常に100%の熱意をもって授業に取り組んでいるつもりであるし、また熱意ある学生のために学習しやすい環境を整えることに最善を尽くすことは当然と考えている。それ故、自己評価を5.0とした。学生の評価は5.0に及ばないまでもそれに近い評価をしていく。教員の熱意と努力は必ず伝わるものと信じて今後もさらなる努力をしていきたい。	例年のことながら、無記名による本音を聴かせて欲しいという試みは必ずしも成功しているとはいえない。1、2程度感想が綴られているケースが大半である。しかし中には、学習環境について静かに聴けてよかったとか、学生に迎合して注意をしてくれない先生がいる、といった本音を漏らしてくれる学生もいる。趣旨をしっかりと説明して、有効な意見を少しでも引き出すことができるように努力したい。	この科目は2/3を実習が占めている。学生は身体を動かす実習が好きで嬉々として取り組む。これまで未知であった体験を重ねることに喜びを感じ、それを率直に表現してくれるのが保育の学生の良いところである。まさに指導のし甲斐を感じさせてくれる。今後とも、理論を補うための実習授業をできるだけ多く取り入れていく。
後期	432	小児栄養Ⅱ	奥田玲子	どの項目も、評価点がほぼ4.0前後と学内平均をやや下回る結果となった。今年度は最初4回が連続休講となったため、後半は補講により、毎週水曜日と土曜日135分授業と、かなりハードであったことも一因ではなにかと思う。また、実技は課題量が多く、取り組む時間が十分でなかったとあるが、1クラスの受講生が36名と実習可能人数を超えていたことも原因と考えられる。	学生評価が自己評価をやや上回る項目が多かった。この結果を謙虚に受け止め次年度の授業に有効に活かしていきたい。	実習が今後の生活や仕事に役立つと考える記述が多くみられた。	次年度は授業時間と回数につき、変更を行なう予定である。内容の理解の後、それについての実習を行う形式をとり、適切な授業(特に適切な時間配分)を心がけ、より理解度、満足度アップに努める。
後期	433	障害児保育	曾和信一	総合評価として、学生の評価は高いが、教員の自己評価が低いという大きいという結果になっている。また、授業内容への学生の理解についても相対的に評価が低くなっており、真に必要なスキルの向上に努めていきたいものである。	教員による自己点検評価について、昨年度と比べて、その目標や内容に沿って授業を行ったと考えている。今後とも可能なかぎりシラバスに示された目標の達成をめざして努めていきたいものである。	パワーポイントを用いた授業と手話を織り込んだ授業への肯定的な評価が見られた一方で、授業の内容が多すぎて理解が難しかったという意見も少数ながら見られた。授業内容の精選に心がけていきたいと思う。	授業におけるスキルの習得への評価及び設備環境面を問う質問項目への評価が低いといえる。授業の質を高めつつ、将来の保育者としての基礎的資質を培える授業をしていきたいものである。
後期	434	人権保育	北田睦夫	授業評価の個々についてはしっかりと受け止め、次年度の授業に生かしたい。問11に関しては、今年度初めてのことで、授業態度の悪い一部の学生への注意が足りなかった。	今年度からのことで、昨年度との比較はできない。授業評価の低かった項目については、しっかりと反省し、学生のニーズを知った上で授業に臨みたい。	一人一人の授業に対する考え方が具体的に記述されていて参考になった。授業がおもしろく楽しいという記述がほとんどであった。	短大での授業は今年度からで、現代の学生気質がはっきりつかめていない中で授業であった。今年度の授業を反省し、その上につけて学生の興味関心のよくなるような場面のある授業内容を創造していきたい。「教育」は、「共育」であることを痛感した。
後期	435	乳児保育	福岡貞子	毎回平均点が高すぎる。人気のある教員にはすべて4、5をつけていると思われ、適切な評価ではない。	学生の評価が低いので自分の授業評価を少し低くした。注意したことをただ指導するので学生にとっては苦手な教員だと考える。	全く無責任な記述であるが、学生の不平不満のはけ口であると思う。授業中も同じ事を言っている。前期と異なり実習に役立ったという意見が増えた。	特になし。
後期	436	在宅保育	福岡貞子	低い評価に驚く。いろいろ資料など工夫して用意するが、授業態度を注意されることの反発のようである。	初めての担当のため分析なし。	受講して良かったが多かった。	特にありません。
後期	437	社会福祉援助技術	川出 朋子	毎年思うことですが、自己評価と学生評価との差は予測不可能です。	昨年度より評価はよい。しかしながら自分の講義スタイルが代わったわけではない。学生とのコミュニケーションや人間関係が評価に大きく影響を及ぼしているような気がして真の授業評価ととって良いか少し考慮しなければならぬ。	自由記述は無記名だから正直な学生の感想が聞けて、マークシート方式よりも良い。	授業内容の難易度等、常に学生とのコミュニケーションを持ちながら、学生の視点で授業内容を考慮しわかりやすい授業を心がけた。
後期	438	養護原理	安部行照	学生評価と自己評価の差異に驚く。問3、問11の回答には理解できない。	昨年度授業なし、比較できない。	板書をもう少し丁寧に。	字の練習。
後期	439	養護内容	合田 誠	学生からの評価は学内平均を上回っており、担当者としてはある程度満足した。しかしながら、昨年度と比較すれば、昨年度の平均が「4.34」で、今年度は「4.08」と下がっている。なぜ、平均点が下がった原因を今後、分析してみたい。また、項目の中で「授業の難易度」に関しては「4」に届かなかった点などに以前から継続した課題があるといえる。	昨年度は「聞き取りやすい声」、「丁寧な説明」、「熱意をこめた授業」、「授業に集中できる静かな環境づくり」の4項目に関して「5」の評価を付けたが、今年度は「聞き取りやすい声」と「熱意をこめた授業」の2項目のみ「5」にした。これは担当者としての反省となるのだが、例年通りに授業内容は丁寧な説明をしたつもりだが、学生の反応が今までとは異なり、内容理解に至っていない学生が多いたい感触があった。同様に「授業に集中できる静かな環境づくり」に関しても、これも昨年度までとは異なり、注意がなかなか届かない学生が散見された結果として「5」は付けられなかった。授業の説明のあり方や注意の方法に関して、今後の課題となった。	自由記述に関しては「施設についてよく理解できたので実習に安心して臨めた。」という内容が代表意見であった。保育実習ⅠAの時間が限られているため、補完的にこの授業を関連させた意図を十分に汲み取ってくれた学生の意見が書かれてあったことは担当者として満足している。	毎年、書いている「養護内容」の授業は、いわゆる施設実習が終了した後に開講されるが、学生の理解も進心と感じている。「授業のねらい」は施設における日常生活の援助やその他、対象児・者に対する関わりを考察することを目的としているため、施設実習へ行く前の授業として開講するのは厳しいものがある。理想的なのは2年生の前期開講科目が理想となろう。時間割編成の変更がなされる際に提案したいと考えている。

後期	440	教育課程総論	馬場耕一郎	大変高い評価をいただき恐縮しています。	自己評価とかけ離れたところがあるので、次回はしっかりと説明責任を果たしていかなければならないと感じた。	導入で行っていた絵本の読み聞かせが楽しかったようで、授業に対して意欲的に取り組める環境づくりを継続して考えていきたい。	テキストの使用の回数が極端に少なかったため、来年度はもう少し使うように改善したい。3
後期	441	保育計画論	曾和信一	保育学科の授業科目の中で数少ない選択科目であり、有効回答数も14と少ない。そのことを前提に学生評価では、学生の質問や発言に適切に対応したかどうかを問う項目への評価が最も低いという結果になっている。学生の質問にきめ細かく応えていきたいものである。	授業はシラバスに示された目標や内容に沿って行ったかどうかを問う項目への自己評価が最も低い。それに対して、学生の評価は自己評価ほどには低くないといった結果になっている。そのギャップを埋めるべく精進していきたいと考えている。	学生の自由記述について、4名の回答ということで誰も記述しておらず、コメントすることが困難である。	今後の改善点として、シラバスに示された目標や内容に沿った授業を行っていくことで、授業の改善に努めていきたいと考える。
後期	442	保育内容健康	黒石久昭	学生評価は昨年度3.8であったが、今年は3.7と0.1ポイント低い評価であった。内容的に少し難しい面があるのでその辺を考慮する必要があると考える。	授業内容に関して難易度では、学生が私よりも易しいと感じているのは、何よりの救いである。	資料が多いので、少し不満があるかもしれないので、資料の精選が今後の課題となるであろう。	授業の難易度が高いので、どのように理解させるか、指導法を研究してみたい。
後期	443	保育内容環境	森宇多子	前期同様、30名以内のクラス人員の為、学生にとって受けやすい授業になったと思う。	授業内容方法は終える度に次の授業につなげた。また、必ず一人ずつ話してもらうこととしたことで意欲を高めたのではないかと。	学生に園見学は良い体験のようだった。	より学生が意見、考えることを発表できる授業を工夫していきたい。
後期	444	保育内容総合表現	杉田清子	子ども劇場での発表は非常に良い出来であった。しかし、学生評価が学内平均をすべて下回っている。発表はもちろんだが、そこへ至る中身が重要であるにも関わらず満足している学生が少ないことに自己の能力不足を感じる。	学生評価が1以上の差をつけて下回った問1, 2, 9, 11の自己評価について、自己満足に終わっていないか振り返って反省したい。	授業内に行った自由記述ではほとんど意見がなかったが、子ども劇場発表後に行った記述では、辛い大変な授業を仲間と一緒に乗り越えた達成感や満足感を味わった喜びの記述が多かった。	自分を含め誰もがそうだと思うが、本番前に達成感や満足感を味わうことはない。逆に苦勞や努力がなければ本番の達成感はありません。誰もがやれば出来る可能性を持ちながら努力を嫌う傾向が目立つ。そういう学生をいかに引っ張っていくかよく考え工夫した授業を行いたい。
後期	444	保育内容総合表現	早川未紗	全体的に学生評価が学内平均、自己評価より下回っている。	授業内容や進行など、考え努力しているつもりだったが、学生には伝わってなかったようです。しかし、子どもげきじょうの発表後にアンケートをとっていたら、違う結果になっていたと思います。	学生の率直な意見を聞くことができるので、アンケートより、今後の参考になり、とても良いと思います。	自由記述での学生の意見も参考にしながら、そのクラスに応じた授業、指導ができるように、工夫していきたいと思います。アンケートをとる時期も考える必要があると思います。
後期	445	保育内容総合表現	吉岡紀子	多くの学生が熱心に授業に取り組む、目標に向かって前向きに進んでいる。評価の内容も半数以上が5を選びよい結果となっている。	意欲のある学生に対してこちらの準備が追いついていないことがあったため、一部教員側で低い評価のものがある。昨年と違い、最終授業でアンケートをとったため双方ではっきりとした回答がみられてわかりやすい。	こちらの意図やねらいをよく理解し、自分なりによく考えて授業を受け、練習や準備、本番に取り組んでいるのがわかる。	このクラスを担当していて、改めて気付かされる事や新しい発見、感銘を受ける事が多く、いろいろ考えさせられることとなった。お互いよい関係で本番に気持ちよく挑めた。
後期	445	保育内容総合表現	野間路代	ほとんどすべての設問で70%以上の学生が「そう思う」と回答しており、学生評価はかなり高いものとなっている。	他の授業評価と大きく違うのは、学生評価が自己評価を大きく上回っている設問が多いことだ。	半分ぐらいの学生が意見を書いてくれた。悪い意見はないが、もっと詳しく書いてくれるともっとよい。	大きく反省すべき点は授業準備の点だと思う。2の結果から見て、教員側に足りない部分が多かったと思う。この結果を来年度に生かしたい。
後期	446	保育内容総合表現	角野美穂	ほぼ全般にわたって学内平均を上回っている。よかったと思う。	自己評価がかなり高い。学生も自主的に頑張っていたのでよかった。	ほぼ全般にわたって意見を書いてくれた。悪い意見はないが、もっと詳しく書いてくれるともっとよい。	授業が終わってから「子どもげきじょう」本番までの自主練習の期間に、学生がとても積極的に練習していた。授業の初回からそれ位頑張れるように、更に工夫したい。
後期	446	保育内容総合表現	向山裕子	全体的に4以上の高い評価でした。1,2の評価がほとんど無く、多くの学生が積極的に取り組んでいたようです。	今年度は学生の自主性を重んじ、出来るだけ学生の意見、アイデアを尊重して授業を進めていったのが良い結果につながったようです。	ほとんどの学生が感想程度で、授業時間内で自由記述を記入することは無理があると思います。学生がゆっくり意見をまとめられるよう、他の時間に記入するようにしては如何でしょうか。	発表会に向けて1つの演目を作り上げていく上で、授業時間外での取り組みも必要であり、クラスのみならず大切で、本来の目的を見失うことなく、学生の秘めた力を引き出せるよう努めたいと思います。又この授業で体験したことが現場で生かされるような充実した授業になるようさらに工夫したいと思います。
後期	447	保育内容総合表現	大森由美子	3の回答が多かった。このアンケートを実施した時点で、授業の内容・目標が学生に伝わっていなかった事が残念。	全ての設問で、自己評価より学生評価が下回っていた。		半期と言う限られた時間の中で完成度の高い作品を創りあげていけるよう、さらに工夫したい。

後期	447	保育内容総合表現	木谷祐子	全体的に学生評価はそれほど高くありませんが、「授業を受けて満足しているかどうか」の項目は、割と高い評価が出ています。	自己評価の方が高く、思いだけ先行して、それがうまく伝わっていないところがあるように思いますが、改善したいと思っています。学生評価の結果は、アンケートの時期が追いつき前の試行錯誤の時期であったことも影響しているかもしれません。	この授業ならではの大きさ、不満等、様々な意見が書かれていました。発表を終えた時点からの方がプラスの意見だったと思いますが、製作段階で一度意見を聞いたのは良かったと思います。	この授業は学生にとって非常にエネルギーを使う授業です。製作途中と発表後では、学生の思いや満足度に大きな違いがあると思いますので、発表後アンケートを行えば結果も少し違ったかもしれません。ですが、自己評価との間に開きがあった項目については、振り返って見直したいと思います。
後期	448	保育内容総合表現	香月欣浩	学生からはよい評価をいただいているが、まだまだ改善できる点がありますので、その辺を来年度から行っていこうと思っています。	自分は全力で授業してきたのでほぼ満点をつけたが、学生はそうは感じていない。学生の声に耳を傾けて改善できることは改善していきたい。	今後も適切なアドバイスと指導ができるように、学生をしっかり見ていきたいと思っています。	授業の目的を再度確認し、それに向かっていけるよう助言や指導を変えるところも必要だと思います。
後期	449	保育内容総合表現	谷玲子	ミュージカルの台本を作り、音楽、配役、舞台の出入り、動き、小道具、大道具とすべての事を学生達で作るという授業であります。総合表現は、音楽、身体、美術の3分野からなり、教員自信も専門ではない事柄までを総合的にアドバイスしていく授業であるため、とても難しいですが、自分の持っている経験を生かし、精一杯取り組んでいるつもりです。 学生の若い発想力には、乾杯しますが、2月の保育祭に向けての取り組みである事を認識させ、完成に向けてのやる気を引き出す方法が、少し足りないように思います。 3月に反省会があり、今後の取り組み方につきましても、3分野の先生方と話し合い、より分かりやすい授業を展開できるよう努力をしていきたいと思います。	問い3の授業は、シラバスに示された目標や無い様に沿って・・との回答ですが、クラスにより、演目も違い、シラバスに沿った内容や速度も違い、シラバスどおりには進まなかったと思っています。特に今年は、身体分野での表現方法やダンスに関する完成度がかなり低く、学生評価3.8とはかけ離れたと思われませんが、学生自信はそんなに感じてはいなかったように思われます。 また、問い7のテキストやプリントにつきましても、今年は意識し、保育における表現分野の資料を配布しました。視聴覚教材などの提示がほとんど出来なかったのですが、学生の評価は3.73となっており、こちらに関しても私が思うほどの低い評価は感じられませんでした。	3分野の教員が、それぞれ意見やアドバイスをしていますが、その方向が違うとの意見が出ています。作品に関しては、これが良いとの決定した事項がありませんので、年代も違い、専門も違う教員では、アドバイスもかなり異なると思います。それをうまく組み入れた作品作りが望まれますが、その意見の違いにやる気を無くしたとの記述がある半面、教員のアドバイスにより、より良い作品が出来上がったとの意見があり、大学生としての授業の受け止め方の相違に戸惑います。 授業はじめには、上述については、かなり説明をしますが、それでも説明が足りないと感じました。 次年度は、それらをふまえて、より詳しく学生に説明をする必要があると感じました。	2月の保育祭に向けての取り組みとなりますが、授業外に活動する時間数が、あまりにも多く、一部の学生に、過大な負担がかかる授業になります。そのあたりを改善できれば、つまり、学生の取り組む姿勢を早く芽生えさせ、授業内での活動で作品作りができるよう、授業を進めていく必要があると感じます。少なくとも、身体表現につきましては、早く作品作りが出来るように、進めていきたいと思います。 また、ビデオなどの視聴覚教材があれば、授業内でフィードバックできることもあるかと思うので、その教材の購入を先日の反省会の時にお願した次第です。 今後は、購入願えたら、ビデオ教材もフルに活用し、学生の意識付けの芽生えをより早く、強化できるよう努力していきたいと思っています。 また、授業内容や技術は、保育現場では、すぐに役立つものではないかもしれませんが、1年に1回必ずといって良いと思いますが、どの園でも開催される「発表会」の準備には、大いに役立つ内容だと考えます。卒業した学生からは、総合表現が役立っているとの意見も聞き及んでいますので、学生方も目先にとらわれず、表現と創作力をつけて卒業できると確信していますので、その点につきましても、しっかり説明をしていかなければと感じます。
後期	450	指導法の研究	山田秀江	全体的に平均を大きく上回っていた。	自分では反省すべき点が多かったのだが、昨年度よりもよい評価をいただいた。	指導案作成、模擬保育を行ったのが良かったという意見が多かった。	今後もより実践的な内容で指導方法を考える授業をしていきたい。
後期	451	情報機器演習	守屋誠司	予想した以上に良い評価であった。前期の全員必修と違い、選択であったので学生自身も自分で練習しなければならぬという自覚のある学生だったと思われる。	昨年に比べ、学生が練習できる時間を多く確保できた。	説明が早くて付いていけないという意見があった。	聞き漏らしたところを教科書で補うなど、学生自身による復習が大切であることを強調し、自主学習を促したい。また、席が後ろの者は、映像が見えにくい、説明が聞きにくいことがあるので、席替え等の工夫をしたい。
後期	452	情報機器演習	渡邊伸樹	学生からは予想以上によい評価を頂いた。	学生評価が全体的に学内平均及び自己評価を上回っていた。	特にございません。	さらに学生より、よい評価が得られるような授業に改善するのはもちろんのことながら、授業の困難度の質は落とさないように心がける必要があると考える。
後期	453	幼児臨床心理学	近藤淑子	学生の評価はほぼ期待している通りであった。ただ、難易度のレベルの回答で1段階の学生がいたことについては今後の授業で考えていく必要がある。また、板書についての評価の低さは毎年指摘されるところであるが、来年度は是非修正したいと思う。	授業への教員の取り組みに関する項目では学生に比べて自己評価の方が高かったが、学生の満足度などを見ると学生からもそれなりの評価が得られていたといえる。	クラスによって授業の雰囲気の違い、それによって私の授業への取り組みの意識の違いがあったように思われた。	難易度レベルが高いという学生がいなくなるような授業内容になるように工夫したい。
後期	454	総合演習	曾和信一	全体的に見て、学生評価は低くないといえるが、板書の適切さを問う質問項目、授業内容への理解を問う項目への評価が低いという結果になっている。もっとも、複数の教員をシャッフルしたものであるという結果であり、コメントするには微妙なものを感じることは否めないところがある。	学生評価と教員による自己評価の開きが最も多い項目として、授業への難易度を問う項目及び授業内容への理解を問う項目などが低いという結果になっている。その乖離を埋めていくべく毎回の授業に心がけていきたいものである。	学生の要望について、ビデオ鑑賞への高い評価は見受けられたが、内容理解の困難さへの問題提起の記述があった。平易な表現に留意しつつ授業内容のレベルを高めるように努めていきたいと考える。	今後の改善点の問題というよりも、四人の教員によるオムニバス方式の総合演習という授業のあり方を変えてもよい時期に差しかかっているのではないかと考える。

後期	455	教育実習A	田主義行	授業は教員と学生との総合作用によるが、学生からは4程度と、どちらかといえば高い評価であった。今後も互いの信頼関係を大切にしなければならないと思う。	授業への興味や取り組み姿勢について、学生の授業評価は可なり高いようであるが、学習意欲・授業態度はそれほど高いとは思えない。ズレを感じる。もっと誠実に学んでほしいと思うのですが・・・	昨年同様「幼稚園の子ども達の話、半日の観察実習は大変役に立った」といった記述が多かった。今年は「教室が広すぎる」という記述もかなり目立った。	保育者を目指す者として、幼児の心、発達を知ることは大切です。学習意欲を高めるためにも、学園附属幼稚園との連携を図り、加害の活動も含め少しでも多く教育現場を体験できる機会を持てるよう考えたい。教室の広さについては受講生の数にもよるが、もう少し狭い方が望ましいと考えます。
後期	456	保育実習 I A	合田 誠	学生の評価はすべての項目にわたり、「4」以上の評価を得て大変満足している。しかし、昨年度の平均値は「4.36」であったが、今年度は「4.22」と若干低下した。項目別としては「授業の難易度」、「授業の進行速度」及び「授業に関する関心」の3項目が最も低い項目である。限られた時間内での取り組みのため例年悪戦苦闘状況が続くが、なかなか克服できていない課題である。	今年度は担当者としての評価数値は、昨年度と比べて全体的に低く評価している。例年ならばもう少し、高い評価点を付けるのだが、正直なところ今年度の関しては、高い数値を付けがたいのが本音である。つまり、例年と違って授業を通じて受ける手応えが弱いという印象が拭えないからである。	「回数が限られて、1回、1回の授業内容を理解するのに苦労した。」というのがひとつの代表的意見となる。確かに例えば「記録の取り方」に関しての説明と解説は1度きりであり、それだけで理解できるかは疑問である。しかし、そうとは認識しながらも次の内容に入らなければならないのが実情である。	これも例年、書いているが願わくば授業回数がもう少し増えれば展開が変わるであろうが、保育学科の全体授業数から見れば過密授業の中でこれ以上、授業回数を増やすのが容易ではないことも十分に痛感しており、この課題は袋小路に入っている感である。

付表2 教員による自己点検報告書(ライフデザイン総合学科)

前期・後期	授業コード	科目名	担当者	1. 学生による授業評価調査の集計結果について	2. 教員による自己点検評価から見た集計結果について -昨年度の結果と比較して-	3. 学生の自由記述についてご意見があればご記載下さい	4. 2と3の結果より今後の改善点について
前期	201	日本語表現法	石川 承紀	学生の表はきわめて悪い。自分自身の授業については、昨年度とほぼ同じであると思うが、学生にうまく通じなかった点が多いと思われる。質問カードを作って「学生の希望・質問」を集めようとしたが十分には機能しなかった。	自分自身については、もっと個別指導を行うべきだったという反省がある。自分としては相当の時間をかけたが、赤ペンを握って文章校正をする回数が足りなかった。	特に記載することはございません。	漢字に学習などは小学校以来の蓄積が大きな意味を持つ教科である。小学校では、仮名交じり文で良いとしている。(例「実施」を「実し」とかく)中学校で「実施」と書けるようになるのだが、本学の相当数の学生は「実し」のままでとどまっており、このため「実習ノート」等で強い叱りを受けることが多い。それを就職試験等に合格するレベルまで、また、実習に際して、きちんと漢字を使うところまで持って行くとしたが無理であった。(作文等の指導は、高校でも各教員が一クラスずつ持つようにしている。次年度でもし可能であるなら、日本語表現法の一教員あたりの一つの時期の担当学生数を減らすことができれば、文章表現についてよりきめ細かい指導ができる。
前期	202	英語 (英会話A) (英会話B) い	井上泰子	必修で、週二回の授業であったので、退屈させないように毎時間できる限りの準備をして臨んだ。学力的にも、意欲的にも優れたクラスであったので、期待していた以上の反応が得られたと思う。	昨年度と同じレベルのクラスを担当したが、負いすぎて生徒の実態に合っていなかったのではないかと反省した。本年度は教科書の選定、プリントの工夫、授業の進め方にかんがりの改善を加えたと思うので、ある程度、その成果があったのではないかと考える。	楽しく、分かりやすい授業であったと大部分の学生から感想をもらった。自分も英語を話せるようになりたいと思うようになってくれたのは担当者としても嬉しい。毎回90分きっちり授業するので、早く終わってほしいという学生もいた。	ライフデザイン総合学科のよき伝統を引き継いでくれるクラスだと思うので、意欲を高め、新しいことへのチャレンジ精神を喚起したい。学生の関心のあるトピックを通じて、できる限り学生参加型の授業を工夫したい。
前期	203	英語 (英会話A) (英会話B) ろ	奥田 純	今年の「ろ」のクラスは欠席が多く、学生の評価は悪いものと予想していたが、予想に反する良好な評価を得た。授業内容への関心についても、こちらの思う以上に興味を示してくれた。	こちらが5と自己評価した5項目以外はすべて学生評価が自己評価を上回った。昨年度学生評価の厳しかった静かな環境作りは今年は改善された。	授業の進め方は丁度良いとのコメントが複数あり、英語が苦手だが説明がわかりやすかったとの意見もよく見られた。	昨年と比べ教科書はより平易な、会話主体のものを用い、ゆっくりしたペースで進めたことが良かったものと思う。英語嫌いを減らす工夫とさらに英語への興味を増す授業作りを目指したい。
前期	204	英語 (英会話A) (英会話B) は	奥田 純	「ろ」のクラスと同じ教材を用い、ほぼ同じ教え方をしたが、学生の評価は「ろ」よりかなり低く、学内平均前後の結果となった。出席は「は」のクラスは良好だったので、やや意外の感がある。	授業の進行速度や説明の仕方はまずまずの学生評価であったが、授業内容への興味や理解という点で自己評価に比べ学生は全体的にいま一つという評価であった。	分かりやすかったとのコメントが多かった。(左記の授業内容の理解についての評価と矛盾しているが)ただ、退屈だったと同義のコメントも散見された。	学生の英語への関心、英語の力により、受け止め方が異なる傾向が「は」のクラスでは顕著であったと思われる。英語の嫌いな学生を減らす工夫が必要。
前期	205	英語 (英会話A) (英会話B) に	井上泰子	英語の苦手な学生のクラスで週二回の英会話の授業は学生にとってもかなり負担であったが、心配していたほどの評価ではなかった。クラスの中での学力差や意欲の違いが大きく、3分の1程度の学生が非常に高く評価してくれているのが救いである。	英語の基礎学力に欠けている学生に、英語に興味を持たせ、基礎的な知識をどう定着させるかが課題であった。教科書は基本的な部分に絞り、様々なトピックに渡るように努めた。毎時間、前回の復習をテスト形式で行い、プリントでの作業を習慣づけた。	楽しかった、知識が身についたという学生も何人かいた。(に)のクラスなのに難しく感じるという学生の意見もあった。	英語が嫌いでたまらないという学生の多いクラスで、週二回の90分授業をどう持たせるのか、学生とのコミュニケーションの大切さを痛感した。嫌いだと言っている学生には、分かりたいという気持ちがあるようなので、その気持ちを汲み取り、教材、授業の進め方にさらに工夫を加えたいと思う。
前期	206	情報基礎	畑野清司	学生にとって難しい授業のトップに位置する内容だと思う。しかし、大いに頑張っており、授業の進行速度は昨年と比べて若干遅くして丁寧な説明に心がけた。	昨年度に比べて、評価は若干上がった。16項目中13項目で学生の評価が教員の評価を上回った。あまり肩に力を入れず、学生の理解を少しでも高めるよう柔軟な授業の展開に心がけた。	授業の進行速度については、早すぎる人、遅すぎる人、丁度良い人がそれぞれ同じくらいの数で意見を述べている。声は大きく聞き取りやすい。しかし授業内容は数学みたいで難しかった。	2進法や8進法や16進法が理解できるように、今後も一層努力したい。
前期	207	パフォーマンス演習	村井、畑野、中川、北村	「学生評価」の平均値(1~16)は「3.71」である。この数字から判断して、学生のこの授業に対する評価は「可もなく不可もなく」というところである。しかし、当該平均値を少なくとも「4」に近づける努力が必要である。	担当教員の「自己評価」は、すべて「4」とした。一方、学生評価は「3.71」であるので、担当教員の自己評価と学生評価は近似している。昨年度はその差が「1.44」と大きかった。差が縮まったのはよい傾向だと思う。	ほとんどの学生から、授業内容・方法等についての好ましい反響・意見を頂いている。ただ、本年度も「板書」をもう少し見やすく、また書き取りやすくしてほしいという要望が1,2あったので、この点への配慮が必要と思う。	「学生評価」については、合格点が得られているので、現時点では授業内容や方法を大幅に変更する必要がないと思うが、なお一層の工夫を加えて、さらに充実した授業にしていける所存である。
前期	208	モチベーション演習	村井、石川、畑野、新田、中川、奥田(玲)、奥田(純)、井上、北村	「学生評価」の平均値(1~16)は「3.84」である。この数字から判断して、学生のこの授業に対する評価は「可もなく不可もなく」というところである。しかし、当該平均値を少なくとも「4」以上に上げる努力が必要である。	担当教員の「自己評価」は、すべて「4」とした。一方、自己評価の平均値は「3.84」なので、両者の評価は接近している。昨年度は、その差が「1.46」と大きかったが、この点が改善されたと思う。	ほとんどの学生から、授業内容・方法等についての好ましい反響・意見を頂いている。特に、「私語」が少なく授業の雰囲気良かったという記述が多かった。	「学生評価」については、ほぼ合格点が得られているので、現時点では授業内容や方法を大幅に変更する必要がないと思うが、なお一層の工夫を加えて、さらに充実した授業にしていける所存である。

前期	209	ライフデザイン原論	村井、中川、奥田(玲)、黒石	「学生評価」の平均値(1~16)は「3.67」である。この数字から判断して、学生のこの授業に対する評価は「可もなく不可もなく」だが、当該平均値を少なくとも「4」以上にする努力が必要である。	担当教員の「自己評価」は、すべて「4」とした。一方、「学生評価」は「3.67」であるので、その差は「0.33」である。昨年度の結果と比較して、教員による自己点検評価と学生評価の差が著しく縮まった。	ほとんどの学生から、授業内容・方法等についての好ましい反響・意見を頂いている。特に、「私語」が少なく授業の雰囲気良かったという記述が多くあった。	「学生評価」については、ほぼ合格点が得られているので、現時点では授業内容や方法を大幅に変更する必要がないと思うが、なお一層の工夫を加えて、さらに充実した授業にしていく所存である。
前期	210	世界の文学	石川 承紀	特別に気がついたことはない。	今の授業の形で良いと思う。	世界の古典作品をビデオで鑑賞できて良かったという評価が多かった。但し、授業の性質上、板書等はできず、プリントで補ったので、板書に不満があったと思える。	学生が多すぎた。一般教室にあるテレビでは20人までが限度である。
前期	211	日本の歴史	村井良介	有効回答数が3なので、データとして参考にできないが、授業の構成や進め方についてはおおむねよかったと思う。	これも有効回答数が少なく参考にできないが、おおむね自己評価と傾向は一致していた。内容がやや難しいかと思ったが、適切であるという回答であった。	高校までで習った歴史とは違うという回答が3人のうち2人あったが、そのような目新しいという印象を与えることができたと思えば、授業のねらいとしては成功であると思う。受講者が少なかったという意見も2人からあった。初回以降まったく出席しない学生と、ほぼ毎回出席する学生に分かれていた。	初回授業でできるだけ興味を引く努力をして、初回以降ほとんど出席がないという学生を減らすようにしたい。
前期	212	文化と人権	曾和信一	学生からは、授業への難易度を問う項目を除く質問項目で、4以上の平均値の評価となっている。	授業への満足度を問う項目について、教員による低い自己点検評価に比べて、学生による授業評価が高くなっているというように評価への乖離が顕著になっている。	授業内容がやや難しく、授業についていくことができなかったこともあるといった苦情を複数学生から寄せられた。	授業の性格上、授業への難易度が高くなるという傾向にあることとはやむを得ない側面がある。しかし、授業の質を高めつつ、表現は平易にすることに配慮していきたいと考える。
前期	213	自分探しの心理学	北村瑞穂	大人数の授業にしては、高評価だったと思う。ほとんどの項目が学内平均を上回っていた。	ほとんどの項目で学生評価が教員の自己評価を上回っていた。こちらが思っている以上に学生は授業を理解したと感じているようだ。実際に試験の点数も全体的に高かったように思う。	一部の学生がうるさいという意見があった。真面目な学生が授業を受けにくい環境であったかもしれない。	大人数の授業であるため、なかなか私語を減らすことができなかった。今後は減点などのペナルティを科すなど、対策を考えたい。
前期	214	くらしと社会	中川博	2年生への配当科目で、受講者もわずか9名と少なく、いささか活気にかげましたが学生の評価はまずまずと思います。	特に差違なし。	特になし。	特になし。
前期	215	くらしとパソコン	飯田慈子	学生諸君からの評価が、多くの項目で学内平均レベルであったこととても驚いているとともに、大失敗を反省した授業であったため、多少なりとも学生の理解が得られていたことに、とても安堵している。 今回、学園についてまったく知らない中での授業担当であり、新田先生や前担任からの情報をどう活用して行っていいのかかわからないことも多く、すべてが手探りであった。その手探り中、授業がかなり進行したころ、内容が高レベルすぎるという意味合いを含むご指摘を助手さんからいただき、授業があきらかに失敗であったと痛感することがあった。私としては、実施したレベルで、できる学生が皆無であれば変更を試みたのであるが、課題の100%をこなす学生諸君がいて、できない学生諸君も、課題の50%程度は、完了できていたので、高等教育機関の授業として、100%の成功を言うわけにはいかないが、大失敗でもないという認識があった。しかし、できない諸君が50%程度できれば、精一杯褒めて一歩前進したことに喜びを感じるように工夫すれば良いという考えは、学園の目指すところとは隔たりがあるという意味合いの内容で、助手さんからコメントをいただき、大失敗したことに気づいた次第である。その後、レベル設定の再考を試みたが、授業もずいぶん終わってからのことであり、後のまっすりとなってしまった。次期に担当をいただくことがあれば、今度は、学生諸君のレベル、また、授業のターゲットレベルをどの位置に設定するべきかについて、学園ならではのポリシーに合わせて考えて実施したいと考えている。	こちらが、精一杯考えても、よく理解してくれる諸君と、そうでない諸君の評価が相殺され、教員の自己評価を下回ることが多いものである。今回は、前項目にも記述したとおり、なにもかもが手探り状態だったこともあり、他学でうける評価より大きな幅で下回っているという印象を受ける項目があった。授業を失敗したと後に気づく授業であり、私の努力のベクトルが学生諸君の学びのベクトルとは異なる方向を向いたものであったため、当然の結果だと考えられる。次回、担当させて頂ける機会があれば、学生諸君の学びのベクトルをよく把握した上での、授業設計と工夫を心がけたいと考えている。	自由記述があった数は、数えるほどであったが、少々早かったけれど、授業が楽しかったと書いてくれたものが多かったのは、とてもうれしかった。これは、手探りの中で、教材の題材として使うものを学生諸君の身近なテーマを探し取り組んだ点が評価されたものと考えられる。今後も、学生諸君の身近なテーマを日ごろからチェックしておき、授業に活用していきたいと考えている。	今回の担当で、学園のポリシーや、学生諸君の学力レベルが良く把握できたため、今後は把握した状況とともに綿密な授業計画、細かなフォローをする姿勢を持ちたいと思っている。一斉授業であるため、仕方がないことではあるのだが、理解度に大きなレベル差が見られたので、今後は、この点を教材を増やすなどでフォローを心がけたい。
前期	216	くらしとパソコン	鈴木正彦	学生からは予想以上に厳しい評価がかえって来た。特に、授業内容のレベルが高く、進度も速いと判断された。	学生の評価は全体的に自己評価を下回っていた。	授業内容のレベルが高い、とする記述があった。	学生の理解力に大きなバラツキがあった。何とか、大学生に相応しい力量をつけようとした。しかし、この授業評価を踏まえる限り、基礎・基本的な内容に限定せざるを得ないと考える。
前期	217	くらしとパソコン	渡邊伸樹	ほとんど学内評価からは高かったが、まだ伸びる余地があるので、改善の余地があると考えられる。	学生評価が全体的に自己評価を上回っていた。	とくにありません。	授業の内容(課題)の変更により、より改善する必要があると考える。

前期	218	くらしとパソコン	小谷美記子	特に言うことはない。基準が曖昧なので、すべてにおいて相対的な見方しかできないし、各個人が絶対評価をしているのか相対評価をしているのかわからないし、こちらとしてはデータの数値をただ受け取るのみ。しかし、それ自体は自己反省に役立つ。	昨年度は担当していないので不明。しかし、おおむねこちらが予想したとおりの評価。問1、2のみややギャップが激しいと感じた。すべての設問で差がないので、あまり印象的な授業ではなかった(評価に困る)のかなとも思う。	最後にあわたくしまとめて白紙が多い状態よりは、逐メールなどで反応を聞けるようにしておけば良かった。ただ、学生の生の声を聴く機会が貴重なもので、こういったフリースタイルのものは歓迎する。	全く初めて授業を行ったためとまどうことが多かった。学生のニーズもレベルも全く不明だったため、ギャップが開いたところも大きい。次回があれば、データも参考にしつつ、特に教材面でより学生にとって実りあるものを提供したい。
前期	219	くらしと環境	汐見信行	私の意図するところが十分理解できていないのではないかと感じる。同じ事を何度も繰り返しているが、無頓着なようだ。シラバスすら読まない学生がいる。私の丁寧さは理解できても、内容が理解できていない点は反省点。	昨年度の方が熱心に受講する学生が多かった。私語、居眠りの学生が多いのでそちらに当り照準を合わせていたが授業後半は比較的真面目な学生を照準にした。難しいものである。	あまり意見はなかったが、書いてある限りは「勉強になった」と記述している。本当かな？	私語、居眠り対策は座席指定などでは解決しない。とにかく誠意を込めて講義をする当然の事を繰り返したい(甘い?)。講義内容は少し減らしてみたい。
前期	220	スポーツ I	黒石久昭	少人数の実技種目で、個別に指導でき、技術の向上が認められたからこのような高得点になったものと考えられる。	少人数のため、一人一人に実技指導ができ、学生もそれなりに、うまくいったと感じられたのが良かったのではないかと。	楽しくできたとの感想であり、満足している。	今後とも、一人一人に応じた実技指導ができればと考えている。
前期	221	ファッションコーディネート演習	本山光子	授業内容の理解、難易度、板書の仕方、内容の理解については、予想以上に良い結果を頂いた。しかし授業の進行度については学内平均を大きく下回った。	多くの項目では自己評価と学生の評価はほぼ同程度であったが、話し方、進行速度、設備、課題量などについて学生の評価と自己評価に差が出た。		授業の内容は良く理解できたと感じているようだが、難易度については満足できていないように感じられる。また話し方、テキスト、プリントの使い方についても、自己評価を下回っていたので、もう少し細かく学生の状況を判断しながらすすめていくことが必要と感じた。
前期	222	ファッション販売 I	本山光子	全体的に学内の平均値と比べると高い評価を頂いた。自己評価に比べて学生の評価が下回っている項目もあるが、総合的にみてこの授業に満足している学生が多かったので安心。	話し方の速度、説明の丁寧さ、難易度、進行度の点で学生の評価が自己評価を下回っていた。昨年の結果を踏まえながら、これらの点は注意しながら取り組んだが、結果的にはまだ充分ではなかったと考えられる。		ファッションの売場、販売について知ることが出来た、興味が高まったと言う意見も頂いたので、もっと個々の学生の集中度、理解度に注意しながら、内容を授業内に詰め込みすぎないよう、テキストの活用の仕方を工夫した進め方を検討して行きたい。
前期	223	トータルビューティ演習	千住真智子	学習状況を見て、シラバスの進行及び内容を多少前後させて行った部分があるが、学生にとっては、その判断がマイナスに働いていなかったことが何れも安心している。	教師側の求めている学生に到達してもらいたいところと、学生の意欲、取り組みの姿勢はまだまだ一致していないところがある。さらに授業内容、進行計画に検討していかなければならないと考えている。	特になし。とても多くの意見感想を書いてくれていて、励まされることが多かった。	2.のとおり
前期	224	メイクアップ (ネイルアート・演習含む)	西澤有香	少数ではありますが、「どちらでもない」や「どちらかといえばそう思わない」という意見があがってきたのは残念に思います。授業中の私語や携帯電話の使用、時には飲食をしている生徒に対し、注意を促す事に時間を取られ、熱心に授業を受けている生徒に十分な授業ができなかった所に原因があるのではないかと考えます。	今回は授業の環境に関するところは厳しく自己分析しました。昨年度に比べるといい環境を提供できなかったのではないかと、思うところがあります。生徒全員が授業にいい形で取り組めるように、そして出席日数が足りなくて失格になる生徒を出さないよう、もっと価値のある授業にしていきたいです。	特にありません。	授業に集中できる環境づくりと興味を深めてもらえるような授業にしていきたいので、今まで以上に内容に工夫をしていこうと思います。
前期	225	色彩の基礎 1	吉真和恵	今回の特徴は、授業の難易度が高かった、進行速度が速かった→内容がよく理解できなかったという評価が色濃くみられること。いつもより詳しい内容にしたいと学習内容を増やしたことで、かえって難しい印象を与えてしまった。	自己評価はそれほど大きく学生と違っているとは思わないが、自分として力を入れた部分には正直に高い判定をつけた。提出物の状況から判断して、学生が思っているほど難易度が高いとは思わなかった。その違いが多少表れた。	今回は2時限目、3時限目と同じ科目を二つ担当した。2限目は静かな環境、3限目はいつも騒がしかった。そういった授業の内容以前の教室の環境に関する意見も見られた。カラーカードを貼る作業への意見は人によって様々だった。	授業の内容、分量、速度を調節し、もっと解り易いプログラムに変える必要がある。視覚教材を増やし、言葉による解説をへらして、初めて色彩の基礎を学ぶ人が楽しく取り組めるような授業を目指したい。
前期	226	シルクスクリーン演習	中路規夫	なるほどと納得できる結果である。	昨年度と同じく高い得点を得ているが、授業の難易度のレベルが少し問題か。専門的な実技なので、体得するまでが難しいのに、せっかく体得した頃には授業は終わってしまう。	楽しかったという意見が一番。	ゆったり流れる川のように、長い時間が必要。実技を体得してからの制作の時間となる。半期のみでは難しい。できれば通年で、そして2年間続けられるような授業にしたい。
前期	227	食生活と健康	奥田玲子	全ての項目で4.0を上回る高い評価を頂いた。学生評価の4と5(「どちらかといえば」を含めて肯定的な評価)の占める割合では、難易度、理解度にやや問題があることを示す結果であった。また、全ての項目の評価点が非常に近似していた。	全ての項目で学生の評価が自己評価を上回っていた。	食の大切さに改めて気付いた、わかりやすく、ためになったという喜びが伝わる記述が多く見られた。	今年度は、最近の食育への関心の高まりを受けて、新しい内容を取り入れたが理解度にはばつきがみられた。次年度は、実生活に取り入れ、活用しやすい内容の授業へと改善する。また新しいテキストの導入を検討する。

前期	228	食の歴史と文化	中山伊紗子	話すスピード、板書の評価が低かった。板書は、書き写すことに小中高とその訓練を受けていないことを気づいた。写す時間にかかなりのゆとりが必要である。授業態度の悪い学生がかなりいて、初めのうちは注意したが、それが徹底しなくて、後半は無視したため、まじめな学生の批判を買ったと思う。ビデオは肯定的なものどそうでないものに分かれた。	ビデオ教材をかなり分かりやすいものに変えて授業展開をしたので評価は改善された。ただ、学生の理解をさらにあげるためには、まだまだ平易な教材探しが必要である。	かなりゆとりしゃべっているつもりだが、「早口だ」との批判を受けた。	最近の学生は、黒板の文字を写すことに抵抗を感じるものが多く、先生がプリントを配布することが多いと聞く。教科書中心に授業を進めるにあたって、購入していないもの、字が読めないものがかなりいて、さらにわかりやすくかみ砕いた授業展開が求められる。
前期	229	食の安全性	坂口守彦	人間の記憶は手で書き、目で読むことによって強化される。授業に際しては声を大きく、内容を丁寧に板書することとしている。本科目は、比較的教授しやすく、学生の評価はやや学内平均をうまわる程度である。それでも授業内容が十分に理解されているとはいいがたい。	昨年度と同様に、授業に際して、できる限りの準備をし、工夫をこらしたにもかかわらず、学生にこちらの熱意が十分に伝わっていないところがある。学生はいいところを評価しているのか検討の余地がある。	説明は丁寧でわかりやすいという学生の評価であったが、板書の字が読みにくい、ノートに書きとるのが追いつかないなどの苦情がよせられた。自由記述の中には、自身で気づかない癖や舌ざこハツとさせられることも少なくない。自由記述は好ましい試みであり、今後も継続することがのぞましい。	授業は主として板所によって進めたが、ときおりカラー写真、図表などを提示し、プリントを配布した。これらは学生の理解を助けるために不可欠である。板書、説明、補助教材などをくまひあわせて授業内容をこれまで以上によく理解させる。
前期	230	食品材料の基礎知識	坂口守彦	授業開始前に想像したよりも良好な評価を得た。昨年度と授業内容、方法などはあまり違いはないが、授業に臨んでリラックスして実施したこと、新学舎で気分が一新したこと、毎回定刻よりもいぶん早めに授業を終了したことなどが好結果を生んだものと思われる。	全般に学生による評価と自己評価は傾向が類似していた。昨年度のみならずその前年も教材(プリント)や図鑑の使い方に問題があることを指摘されていたので、今回はこの点に改良を加えた。自己点検評価よりも学生による評価点が高い場合も見られた。	授業内容が難解だ、授業に関心をもたせる話し方ではない、授業内容のポイントが明確ではないなどの指摘がみられた。とはいえ、自由記述させるのは好ましいといえる。	今年度はプリントなどの補助教材を多用する方向で授業をすすめたが、これがどの程度学生の理解度増加につながったのか明確ではないので、次年度も継続して実施し効果を確認する。
前期	231	食空間のデザインと演出	潘龍詔	学内平均評価値よりは低いですが普通レベルの【3】よりは幾分高いので、好と解釈します。各問いに関する細かい回答について思うところはいろいろ有るには有るのですが…。	一昨年同様、自分が思っている評価と学生の評価が意外に食い違っている。過去の経験から出来るだけそういう事のないよう、改善したり、工夫しているつもりだが、単なる独り相撲なのか…。	過去の記述では、2行程度のメッセージしか書かれていなかった。今年度は少なくとも5行は書くよう、しかも何でもいいから書きなさいと指示したにもかかわらず、結局2～3行で、なら自立するような評価は得なかった。不思議なのは評価調査では難しいとの評価があった割には、解りやすかった。よく理解できたと記述されており、学生の気ままさを感じるような気がする。	非現実的なものではなく日常生活で見たり触れたり実生活で体験していることを再確認しているような、叱られそうな講義なので(中学生や高校生でも解る内容)学生がいくらか理解出来ないといってもこれ以下のレベルの講義は考えられない。と言うよりありえない。
前期	232	フードマネージメントとメニュープランニング	潘龍詔	学内平均評価値よりは低いですが普通レベルの【3】よりは幾分高いので、好と解釈します。各問いに関する細かい回答について思うところはいろいろ有るには有るのですが…。	同上。かなり自分を殺して、学生の声を反映したつもりだが、まだまだ意に副わないようだ。	やはり建設的な意見はあまり記述はされておらず、殆どが2～3行程度の「楽しかったです」「わかりやすかったです」のようなメッセージ。講義中によくシラバスとは関係なく黙やマナーについて延々話すことがあるので、嫌味っぽいという回答が一つあった。だが食に関わる仕事をするにあたってお行儀は最も重要なことだと自負しているため、その事を学生に解って貰いたいし、今後はその事を理解して貰った上で話、その感想を記述してもらいたいものだ。	社会経験が無いのに関しても理解出来ないのは当たり前かもしれないと、後期からは少しレベルを下げようかと思う。ただシラバスどおりに進行出来ないかもしれない懸念は有る。
前期	233	テーブルコーディネート実習	乾 博子	全体的に高評価で安心しました。	昨年は板書に関する評価が少しポイントが低かったので、今回は少し減らしました。時間に余裕を持てるようにしたところポイントは高かったです。今回は授業態度、注意に関するポイントが少し低いので対策します。	「楽しかった」という意見をたくさんもらいました。また、「生活に取り入れたい」の意見もあり、学生達が今後役に立ててくれたらうれしいです。	グループを作るときに授業に集中でき、なおかつ自発的に実習に参加できるように考えて、グループを組ませたいと思います。
前期	234	調理の基礎と科学	石村 哲代	全項目について40以上の評価が得られた。この授業は、石村と潘先生のオムニバス授業で、学生には、正規の授業時間外の土曜日にホテルの厨房見学をさせるなど、負担を強いることになったにも関わらずこのような高い評価が得られたのは、内容自体に興味をもって取り組んでくれた結果と評価している。	当該授業の教室は第4講義室で、学生を隔列に着席させることができ、私語も少なく好環境で授業ができたことに教員は満足であったが、学生評価は教員評価に比べて低かった。その理由としては、土曜日のホテルの厨房見学等に不満を持った学生がいるためではないかと推察している。正規の授業時間内に見学ができることが望ましいが、時間割上今後とも無理な状況が予想される。事前に受講者の理解を得るための丁寧な説明が必要であると反省している。	「授業態度の悪い学生に注意してくれた」、「静かな環境で授業に集中できた」という意見がある一方で、「先生はいつもどりびりしている、緊張する」といった意見も見られた。また「厨房見学が楽しかった」との意見も複数見られた。	昨年度の反省を踏まえて板書を丁寧にし、スピードも落として授業をした結果、評価は高くなったが、その一方で授業内容がかなり狭まってしまったことは否めない。しかし速く進んでも、学生が興味をもってくれなければ意味がないことなので、当分の間はこのレベルと速度で授業展開をするつもりである。
前期	235	製菓材料の基礎知識	中山伊紗子	平均値に届かない点数であった。18人くらいの学生では、評価にばらつきがあるのは当然かもしれない。問16で、山が二つになったことから、授業についてこれない学生とそうでない学生がいることが解る。	昨年より多少は上がっているのではないと思う。授業の形態をかなり変えたこと、内容もかなり平易にしたので、まじめに取り組めばわかりやすかったはずの授業展開をした。	興味を持って受講してくれた学生の評価は高く好意的であったがそうでない意見もあった。	わかりやすい授業を展開したにもかかわらず、授業中におしゃべり居眠りあるいはトイレなど中座する学生がいて授業を乱す学生がいた。しつけの面で私の指導ができなかった事を反省している。

前期	236	調理実習 I	奥田玲子	全ての項目で4.0を上回る高い評価を頂き、学生全員が授業に興味をもって熱心に取り組んでくれたこと、総合的に受講に満足していることが実感される結果であった。 また、実技でも高い評価を頂き、9割以上の学生が調理技術や実技の向上につながったと感じていた。	全体的に学生による評価が自己点検評価を上回っていた。昨年度は理解度にやや問題があったため、本年度はわかりやすい説明に重点をおき、献立ごとに説明と実技の進め方を変えるなどの改善を試みた。それにより学生の理解度、興味、熱意が昨年度より高められ、改善の効果がみられた。	楽しく興味をもって学生が受講していることが感じ取れた。実生活への活用へと意欲ある記述も見受けられた。	引き続き学生の調理技術や実技の向上を図るとともに、食に関する興味を高められるような指導を盛り込む。
前期	237	調理実習 I	中山伊紗子	非常に高い評価を得られて驚いている。学生数が少ない分一人一人に質問その他に対応できたことによるものと思う。また、熱心な学生が多かった事による。	授業内容は少し変更したが、ほとんど代わっていないのに、昨年度は平均値がもう少し低かったように思う。人数、班編制などが微妙に影響しているのかもしれない。	実習授業なので興味を持つ学生の受講であった。単位だけを目的にした学生は途中放棄したので、自由記述は好意的なものばかりだった。	学生の実技の力量差はいかんともしがたく、班編制に苦慮した。良くできる学生にできない学生の面倒をみさせながらその努力を認めてあげるなど。様々な工夫が必要。
前期	238	製菓・ラッピング実習 I	清郷洋子	全ての項目が4.5以上と学生からは毎回予想以上の高い評価を貰っていますが、今回はシラバス通りではなく学生の希望を少し取り入れたのが良かったのではないかと思われます。今後も要望があれば、今話題のものを一部取り入れ、授業を進めたいと思います。	やはり前回同様、問16の「学生は総合的にみて、この授業を受けて満足していると思う。」と問20の「授業の内容は技術や実技の向上に役立ったと思う。」の評価が高かったが、新しい技術や原材料が毎年開発されており、私自身が絶えず学び研究し、さらに高い評価を得られるよう努力したいと思います。	学生からは「授業がとても楽しかったし、美味しかった。」「色々な事が学べて良かった。」「作れないと思っていたお菓子が作れて良かった。」等の記述ばかりで、前回同様に授業内容の改善や要望等の建設的な意見が殆ど無くその点が残念に思っています。	楽しみながら自然に学んで貰えば良いのではと思っていますが、さらに解りやすく楽しく、実社会で役立つ授業を心掛けたいと思います。又、ラッピングの授業を通して日本の文化である「風呂敷」や「水引」、「和紙」についても日本の礼法に基づいて指導したいと思います。
前期	239	リハビリ概論	鈴木康三	学内平均より下回っているが、医系の科目・講義の難しさから見て妥当なところかという感想を持つ	授業の難易度や授業進行の上で化粧をしている者、態度の悪さなど多数の目に余る事項についてうるさく指導を繰り返したのでそういう学生教育にかける熱意がうさがるされているなどという評価結果が随所に見取れるが(昨年よりもひどい)、この姿勢は継続していくつもりです。	普段の授業を受ける姿勢・態度と記述されていることに大きなギャップがあることに戸惑いを感じている。	学生への普段の指導を学科としてもっとしていただきたいと感じています。外部講師としてその時間内で指導するには時間が足りません。
前期	239	リハビリ概論	森永敏博	学生評価平均値で最も低かったのは難易度に関する問い(問5)であった。専門用語の使い方やその解説に配慮すべきであった。内容を基礎的なものに集約し、理解度を確認しながら授業を進めると良かった。	自己評価に対する学生評価は概して低かった。専門用語に対する学生の持つ違和感や教科に対する興味の持ち方が必ずしも一様でないため授業がやり辛かった。	特に目立った意見はなかった。身近にリハビリテーションや介護保険に関係した家族を抱えた学生には興味を持って授業に参加していただけたようである。	今後の改善点として1)内容を平易にする。2)理解度を確認しながら授業を進める。3)授業時間を通じて興味を持続させるためには視聴覚教材等を挿入すべきである。
前期	240	社会福祉概論	保科和久	学生からは、厳しく学内平均を下回っており、反省・改善に努力したいと思います。	学生の評価と自己評価に、若干の差がある点は、今後の参考にしたい。	残念ながら、参考になる意見は、特になかった。	少し、授業の進行や話の早さに、工夫をし、学生の理解度を高めていきたい。
前期	241	介護概論	井上敏機		毎回同様であるが、学生の授業評価そのものが、学生迎合主義に陥る危惧を有する。授業に積極的に参加するためには、学生自身の十分な学習が前提となる。	授業内容が難しいという意見が少数ではあるが、ある。国語力が弱すぎるのではないかと、いう疑問が残る。具体的な事例については、授業を聞く姿勢が見られるが、単に面白い話として聞いているという印象が残る。	
前期	242	公衆衛生学	植村興	ほぼ予想通りの評価を受けた。重点的に取り組んだ点には期待通りの評価を受けている。熱意(3.71→4.05)、満足度(3.71→3.94)、昨年度最悪であった理解度(3.0→3.81)。		食の安全・安心問題や昨今の社会現象における「心」の問題も取り上げたが、理解度と関心の強さに二極化を示す意見をいただいた。	講義内容が多岐にわたること、学生の基礎学力並びに興味対象に差異がある中で、全員から満足を得るのはむづかしいが、授業にもう一段の工夫をこらして教室を活性化したい。
前期	243	医療事務総論	倉戸啓子	これまでと同様、授業の難易度、進行速度、理解度の点で評価が低くなっています。	難易度、理解度の評価は低いのですが、それでも教員の評価より学生の評価が少し高いのは救われます。	授業時間の延長について、毎回の終わる時間がわかるようにしてほしいという意見があったので、目安を示せるようにしたいと思います。	講義の中では説明の後に課題を与え、個別に質問を受ける時間を設けていますが、よりきめ細かく対応できるようにしたいと思います。また授業時間の延長による対応には限界があるので、今後は学生の理解度に合わせて内容を削減し、より基礎的なものにする必要もあるかと思っています。
前期	244	医療事務演習	倉戸啓子	内容が難しいと感じている学生が多いのは事実ですが、「授業に熱心に取り組んだ」の項目で4.5の評価をつけた人が4割以上、また5割以上の人が授業の満足度で4.5の評価をつけてくれているという点で、真剣に取り組んでくれた人は達成感を感じてくれたのではないかと思います。	特にありません	「難しかったが、頑張った。」「勉強になった。」「きめ細かく教えてもらったので良かった。」という感想をいただきました。	学生の理解度に合わせてもう少し内容をより基礎的なものにする必要もあるかと思っています。

前期	245	解剖生理学	奥田喜一	最も低い問13については、問14、5も同様に低いと点から考慮すると、科目自身の内容そのものによるものと考えられる。問8については前回アンケートと同じで、今期授業ではある程度改善に努めたのだが。	昨年の結果をふまえ改善に努力した。問11、7である程度成果が見られた。	半数以上が白紙でもう少し記入率を上げてほしい。	科目そのものの難易度をどう理解しやすくするか、同時に内容量の問題もある。ある程度の内容量は確保したい。
前期	246	薬理学	大西義博	大学レベルでの講義を行ったが、学生によっては授業の難易度がやや高いと感じており、さらに授業内容が理解できない学生がいたようだ。	今年度からの初めての講義なので、昨年度との比較は出来ない。	講義内容が難しいという学生の意見に対して、授業内容のレベルダウンを考えたい。	前期は教科書全体を講義したため、学生の理解度が低かったため、次回からは授業内容をより基礎的なものに変更し、理解度の向上に努めようと思う。
前期	247	医療秘書実務	東野園子	残念ながら、予想より評価であった。問11と問15は関連しており、教室の狭く、結果授業態度の悪い学生がいたのが評価にひびいたのではいかかと思われる。	問10学生の質問や発言に適切に対応したという項目は特に気を配っていたので、学生野評価が自己評価を上回っており、安心をした。	特になし	今年度は、教科書の入荷が遅れたり、教室が狭かったり、遅刻者が多く、思い通りの授業展開にならず大変苦労をした。思い切ったシラバスにこだわらず、ポイントを絞って授業を行った方が、学生にとっては結果的に良かったのではないかと、今後の課題である。
前期	248	病院実習	高橋要	学内平均と比べて悪い結果。今回はもう少しUPさせることに努力する。	板書について注意したつもりだが昨年と比べあまり改善されていない。反省している。今年も静かな環境作りがうまくできなかった。50名以上は多いのではないかと。来年は試験も考慮に入れる必要がありそうだ。		授業ごとに感想レポート提出を義務づけることにより集中させる等……
前期	249	診療報酬請求事務演習	倉戸啓子	学外の資格試験の受験のための科目なのですが、受験をしない学生も受講しているため、内容のレベルをどのあたりにおろかが難しいところです。	特にありません	少人数だったので質問しやすく、ていねいに答えてもらえたという感想をいただいた。	特にありません
前期	250	医療事務コンピュータⅡ	倉戸啓子	特にありません	特にありません	「授業時間が短く感じた」「楽しかった」「質問したり、友達との間で教えあいをすることでよくわかった」などの感想があった。入力内容の自己チェックのための解答プリントが少ないという意見があったので、考慮したい。	講義に関してではないのですが、コンピュータ教室使用上の規則について、単に「〇〇は禁止」ではなく、なぜ禁止なのか学生が納得できるようにきちんと理由を示すことと、これを非常勤の教員も含めて共有できるように周知していただけないかと思えます。
前期	251	臨床医学概論Ⅰ	小泉雅子	今回は一人辛辣な意見の生徒がおり、さらに白紙の自由記述も多かったため、相当な低評価も覚悟してしたが、授業内容のレベルや理解、総合評価は思ったより悪くはなかった。しかし、負の意見は真摯に受け止め、次の授業に反映させたい。	昨年は初の授業でもあり、生徒の資質や教える難しさがわからないまま自分のやり遂げた感ばかりにとらわれて、冷静な評価ができてなかったが、今年は理想と限界を思い知った部分もあって幾分冷静にはなれたものの、依然、思った程学生には伝わらないのだということを痛感している。	授業態度の悪いものに限って教師に意見する風潮が顕著であるのは誠に残念。授業の進行に関しては再三「わかるかどうかの問いかけ」をしているが、授業内では何の意見も述べず、アンケートで「実は…」的私見を知らされても対処が遅れてしまうのは避けられない事実。私は病院で働きながらの非常勤講師であるが、最近、現場になじめず心因性の疾患で中途退職する新卒者が増え、後任が育たずに激務で倒れる中堅が続出する根本原因を「ここに見た」感で一杯である。	授業内でいかに生徒の本音を聞きだし、授業に反映させるかが今後の課題であると思われる。
前期	252	診療情報管理論Ⅰ	富永 純子	1年生にとって専門的な知識で内容が理解がたいのではと思いましたが、「④どちらかといえば」という評価が一番多かったため何とか理解してくれていると思い安心しました。	難度から言って学生評かが低いのではないと思ひ、自己点検評価を低くしておりましたが、学生評かがそれを上回っていたので良かったです。	もう少し文章力を付けてほしいと思ひますし、白紙提出がほとんどで、記入されているも「難しかった」、「楽しかった」など一行程度です。もう少し授業内容の感想を書いてほしい。	授業内容が専門知識を持ってしても難しい科目です。もう少し難度を考慮して学生の興味をもつて授業を受けられるようにしてゆきたいと思ひます。
前期	253	診療情報管理論Ⅱ	富永 純子	2年生ですので理解力と業務内容については理解できていると思いましたが、学生評価が学内、自己評価より下回っていたので、進行度や資料、内容に問題はなかったかと再度授業内容の点検をしたいと思ひます。	自己評価と学生評価との間に差があり、内心驚きました。授業中に堂々と寝ていたり、私語を交わしたりして注意しても聞き入れないこともあり、気持ちの上でも多少の行き違いがあったこともあり、その結果であると考えます。	ほとんど提出は白紙でした。	私語、化粧、寝る学生に対しての対処法と興味を持って授業に集中できるようになるためにはどうすれば良いかと言う点に焦点をおいて行くべきと考えます。
前期	254	ICDコーディング実務演習Ⅰ	富永 純子	自己評価より低かったのなぜかという疑問が残りますが結果です。人数も多く時間内で全員に目が届かなかったのかと思ひます。私は出来る限り回って学生の疑問に対応したつもりです。	自己評価より学生評価が下回っている原因は何かと思ひます。	白紙提出がほとんどで、「コーディングおもしろい」、「楽しかった」、「コーディングをやる仕事に就きたい」など一行程度の記入でしたが、数名の学生が記述していました。	人数的なことがあろうかと思ひます。演習時には一人一人回って質問に答えたいと思ひます。

前期	255	アロマセラピー(演習含む)	倉津三夜子	学生評価平均値4.90という高い評価を受け、今後の励みとして努力していきたい。	学生が自己表現できる機会が少なく、積極的に表現する姿勢を引き出せなかった為もあり、内在する興味や熱意を十分に把握できなかった。それが学生評価と自己評価のギャップに現れたと思う。	単文であったが、各々満足し、楽しんで受講していたことを知りよかったと思う。ただ、興味の実習に偏りがちで、知識理解の面にも少し気持ちを向けられるような促しができたらさらに良かったと考えた。	プロジェクトなどを活用し、植物の写真や資料を映像として見る機会を作ると良いのかもしれない。フレッシュリーフに触れられるとなお良いだろう。香りは目に見えず、捉えがたいものかと思うので、視覚や触覚を通じて情緒を深められるように指導していきたい。そのための教材準備をする必要を感じている。
前期	256	リハビリメイク演習Ⅱ	志村美代子	5点に満たなかったとはいえ、平均値が4.83と高かったことで、満足度はあったが、5点は問2のみであった。他の項目で5点に届くよう改善したい	2007年度と比較すると学生評価の5点が減っている。人数が増えたことで細かなフォローができていなかったことが考えられる	まじめに授業に取り組み、自分自身の感じたことを授業内容を通じて記述している学生が多かった。(授業を受ける前後の違いなど)	後期については受講人数により(今回は4倍だったので)きちんとフォローできるように内容等わかりやすく変更できる部分を改善努力したいです。
前期	257	心理学研究法	近藤淑子	内容が難しいにもかかわらず、とても熱心な態度で銃魚に参加していました。やはり、授業への評価も妥当なものと思えました。	この授業は選択なので受講者の雰囲気が大きく授業に影響します。昨年度に比べ受講者が非常にまじめで、熱心だったので、昨年以上のことができました。	難しい課題にも結構楽しめた、という内容が多いでした。	この授業を履修する学生は概してまじめで熱心な学生が多いです。ただ、編入学生がいると授業内容ももっと高度にしなければならぬと思っています。
前期	258	人間関係論	北村瑞穂	2年生対象の科目であり、人数も多くないため、真面目に講義を聞くかと思ったが、予想外のモチベーションの低さで、苦戦した。評価も学内平均を下回った。	授業に関する関心の高さを高めつつもだったが、学生はそのようには受け取らなかったようである。	特記すべきものはなかった。	人間関係論というテーマ自体はとも面白いので、今後はより現実世界に近い例をあげ、学生の興味関心を高めたい。
前期	259	カウンセリング概論	鍛冶谷静	7割の学生にほぼ満足との回答をもらい、安堵した。教室の大きさや設備の評価は、座席指定されることで感じる窮屈さも影響しているかもしれない。	去年と比較して一番改善の効果があつたのは、学期末に全体を振り返る復習の時間をとつたことでこれが学生の満足度向上につながったように思える。学生が理解しにくかった部分をもう一度解説するだけではなく、学生が興味をもった部分についてもさらに関心を深めてもらえるよう、関連した話題を提供した。興味を持てる内容には、熱心に傾聴する学生の姿を見て、あらためて学生のモチベーションを上げる授業構成は不可欠と感じた。	特にありません。	学生が私語なく熱心に聴講できているなら、必ずしも座席指定しなくてもいいのでは。講師が伝えたいこと、学生が知りたいこと(学びたいこと)はつねに一致するわけではないが、学生の「知りたい」という意欲にそって伝え方を工夫することは可能だろう。いろいろ知恵をしぼっていききたい。
前期	260	臨床心理学	奥村和弘	授業中に感じていたことが反映された結果となった。各回の講義内容のテーマにより学生の気持ちの入りこみがみられた。	昨年度の反省を踏まえ授業に取り組んだが、学生が授業に対して熱心に参加している印象を受けた。しかし、ノートは取れるのだが、説明・解説を聞かない、聞けない学生に対してどのようにアプローチするかが課題と考える。	特にありません。	毎回受講生は多いが、学生1人々々のつながりを大切にしながら、学生が自らの選択によって授業に参加出来るように心掛けた。
前期	261	子どもの生活と文化	生駒幸子	良い学びができたと言う評価で正直なところうれしい。	学生にとって学びやすい教材や興味を持てることを考慮して講義を進めたが、教科についても理論的な内容を取り込みたかったと言う思いもある。ただ、子どもにきちんと向き合える大人になってもらうために一番大切だと思うことを興味を持って方法で伝えられたのではないかなと思う。		この科目は子どもという対象と一人一人の大人がいかに向き合っるとともに生きていくかと言うところが最終の学習目標なので、子どものことを知りたいた、もっと学びたいと言うモチベーションの段階が一番重要である。実技的な学習方法も取り入れつつ、理論的な裏付けをいかに伝えるかが担当者としての課題である。
前期	262	情報活用演習Ⅰ	新田眞一	学生は総合的に満足してくれていることで良かったと思う。ただ、大きな声で内容を伝えようとしたが学生評価は3.55と思ったより低いことが気になる。	全体的に評価はほんのわずかであるが低くなっている。	授業の進め方が早い、という意見が複数ある。かねてからの指摘であるので、気をつけているのだが、ついつい早くなってしまふ。	一度の説明で分かる学生、2度・3度と何回も繰り返す必要のある学生、と多様である。個別対応が必要であるようだ。
前期	263	情報活用演習Ⅱ	新田眞一	総合的評価・授業内容の理解・関心の深まり具合など学生の評価が良かった、ことで一息ついた。内容が難しかった学生が20%ほどいることがきにかかる。	昨年と比べて、総合的満足は良くなっている。もっとも、今期は機器の入れ替えのため、2年次生だけの受講であって、受講人数も少なかった。	授業の進め方が早い、という意見が複数ある。かねてからの指摘であるので、気をつけているのだが、ついつい早くなってしまふ。	一度の説明で分かる学生、2度・4度と何回も繰り返す必要のある学生、と多様である。個別対応が必要であるようだ。Excelを利用するは数学的基礎知識が必要であることとして授業することが必要である。
前期	264	情報活用演習Ⅲ	新田眞一	思うような授業ができず、学生の理解度を心配したが、思ったより学生の評価は良かった。ただ、授業の進行速度や難易度については困難さを感じた学生が少なからずいたようだ。	昨年と比べて総合的満足度はほぼおなじであるが、全体的には、ほんのわずかであるが評価が低くなっている。	この授業はワードの発展内容であるが、より深い興味を持った学生もいたが、授業の進度が速い、もうすこしゆっくりという要望があった。	授業の進度を遅くすると内容が深められない。しかし、消化不良になってはいけない。となると、個別対応の時間を増やすしかないかな?と考えています。

前期	265	マルチメディア表現及び技術	眞下 義和	総じて学内平均値を上回っていた。	授業内容を少し変更したことが評価向上につながった可能性が高い。	1,2の意見をのぞいて、おおよそは好意的な感想であった。批判意見も今後の授業に生かしたい。	今期の学生は積極的に課題に取り組む姿勢が強く、同時に教員(私)とも信頼関係を結ぶ空気が存在した。今後は学生達にそういう姿勢が乏しくても授業の雰囲気の良い者にする流れを作っていきたい。
前期	266	情報倫理	大野 麻子	全体的には予想していたほど悪くありませんでしたが、学内平均と比較まだ改善すべき点が多々あると思いました。	本年度から採用していただいたので昨年度との比較はできませんが、自己評価が学生評価より高いところ、低いところは第三者的視点が欠けている点であると思われるので、参考にさせていただきます。	学生から直接聞いた意見とほぼ同内容でしたが、無記名だからその率直な意見を得られる重要な情報源であり今後も活用させていただきたいと思えます。	板書を減らし教科書へのアンダーラインなどで代替しようと思えます。
前期	267	インターネット演習	大野 麻子	全体的には予想していたほど悪くありませんでしたが、学内平均と比較まだ改善すべき点が多々あると思いました。	本年度から採用していただいたので昨年度との比較はできませんが、自己評価が学生評価より高いところ、低いところは第三者的視点が欠けている点であると思われるので、参考にさせていただきます。	学生から直接聞いた意見とほぼ同内容でしたが、無記名だからその率直な意見を得られる重要な情報源であり今後も活用させていただきたいと思えます。	
前期	268	情報システム論	大野 麻子	全体的には予想していたほど悪くありませんでしたが、学内平均と比較まだ改善すべき点が多々あると思いました。	本年度から採用していただいたので昨年度との比較はできませんが、自己評価が学生評価より高いところ、低いところは第三者的視点が欠けている点であると思われるので、参考にさせていただきます。	学生から直接聞いた意見とほぼ同内容でしたが、無記名だからその率直な意見を得られる重要な情報源であり今後も活用させていただきたいと思えます。	難易度について「全くそう思わない」という回答がありましたので、次回はもう少し平易にし、必要最小限の情報を時間をかけてより解りやすいようにしたいと思えます。
前期	269	情報数学	新田眞一	授業の進行速度が速かったことが、はっきりうかがわれる。難易度のレベルが適切でないとする学生も案外いることがうかがわれる。他の問については良しとできる。	昨年度と比べると、今年度は全ての問いについて学生の満足度はあがっている。	集中授業であった為か、「1日にする量が多すぎる」との指摘があった。	2,3年前は感じなかったが、昨年今年と集中授業では学生がついてこれないようだ。次年度より集中でない通常授業として開講する。
前期	270	プレゼンテーション概論	畑野清司	学生は、この授業に興味を持って熱心に取り組んでくれたと思う。授業の進行速度が速すぎないかと危惧していたが、アンケート結果はまったく問題が無いようである。	16項目中14項目で教員の自己評価を学生が上回った。昨年度に比べて数値は大きく改善された。	授業は難しかったり楽しかったり、その評価は二分する。しかし概ね学生が前向きに授業に取り組んでくれて、授業の雰囲気は良好であった。	更に授業に工夫と改善を加えて、楽しんで身につく授業を展開していきたい。
前期	271	プレゼンテーション演習 I	福井愛美	全体に良い評価を頂き、満足度も高かったので、引き続きプレゼン演習Ⅱへとつなげたいと思う。	前回の反省から、板書の工夫や、授業に集中できる静かな環境づくり等も気を配ったせいか、学生評価は、平均4.56と自己評価を大きく上回っており、まずは安堵か。	授業の最初の頃は人前で話すのは緊張するし恥ずかしく苦手である消極的であったが、しだいに授業が楽しくなってきた、もっと上手にスピーチできるようになりたい、など、積極的な意見が16名中12名ありプレゼンの楽しさを少し感じてもらえた気がする。	今回は全体に評価がよく、学生も積極的に授業に参加してくれたが、そのわりには受講生が少なく取付きの悪い科目のようである。今後は科目としてのプレゼンも必要かと感じたしいである。
前期	272	マスコミ論	中川博	まずまずと考えています。	顕著な差違なし。	特になし。	マスコミの中でも新聞に関心を持たない学生が増えている。新聞を読む大切さを授業で強調したい。
前期	273	事務機器演習	藤原寛平	学生平均値のヒストグラムほぼバランスしている。問5教科難易度が高く問1,6,13,14の評価に影響するが、ある程度の基礎と馴れが必要な教科なので、注意していくつもり。全体のレベルは落としたい。学期開始時学生のレベル差が大きく、ギャップを狭める工夫は必要。	よく理解する、関心を高めるなど、ギャップが大きい、いずれも習熟度と一対であり、操作に集中している時、聞き慣れない言葉が飛び込んでくることの多い演習の性格から、聞き逃すことも多いと思うので、一層の説明に注意を払いたい。だがスピードは落としたい。	無記入の人もありすべての意見ではないが、平均的なアンケート集計には出ない、授業中には集められない率直な意見も知ることができ継続がよい。エクセルを知ることができ、良かった。細かい所まで分り、勉強になった。分り易かったなどの意見も聞けてよかったと思う。	説明の仕方、スクリーンでのビジュアルな見やすい説明、間の取り方など基本的なポイントの工夫を全体レベルを落とさないように一層考えたい。
前期	274	事務文書管理	仁平征次	難易度のレベルに比し、理解度が低い。実際には理解よりも興味の問題が大きいと思われる。	自己評価と学生の評価の間で逆転している事項は、反省の必要がある。	好意的評価が多かったが板書と内容が理解できないとの意見が1点あった。板書に関しては、工夫を検討したい。」	昨年後期の評価に比し、同じ内容ながら理解度や成果大きく後退している。興味を持たせるとともに、内容をしぼり理解度アップを図りたい。
前期	275	オフィスマネジメント(経営学を含む)	仁平征次	全ての項目で大きく平均点を下回った。特に理解度と授業の成果の項目が低いことは、反省したい。	この科目はの担当は今回が初めてであるが、予想以上に学生との乖離に驚いている。	会社の制度が分ったという好意的評価と教材の使用が不適切との意見があった。テキスト多く使うよう改めたい。	事務文書管理と重複する部分が多く、分離して授業を進める予定であったが、両方を受ける学生が少なく中途半端になった。学生にとり興味がわかない分野であるので、受講生の関心事や構成を見ながら改善を図りたい。

前期	276	ビジネス実務概論	畑野清司	学生はこの授業を受けてほぼ期待通りの満足感を得ている。しかし、ビジネス現場ですぐ役立つ程の知識や考え方を身につけるには、まだ若干の距離があるようである。	16項目中12の項目で教員の自己評価を学生の評価が上回った。今後も授業には十分な準備と工夫をして望む所存である。	コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力の必要性を授業を通して実感してもらうのが狙いであるが、ヒトと話すのが苦手、人前で発表するのが苦手の学生が多く、「嫌だったけど、繰り返しているうちに慣れた。」の感想が多く見られた。	今後も授業内容を充実させて多くの苦手な学生を少しでも進歩させるよう努力を続けたい。
前期	277	ビジネス実務演習	福井愛美	今期から担当させていただいた科目であり、学生評価平均点が3.96と学内平均とほぼ同程度であった。	今期は自己評価を少し厳しくつけた項目もあったが問11の授業に集中できる環境づくりや問13の理解度の項目がやや低くなっている点に注目し今後の参考になりたい。	就職に役立つ、社会人になってから役立つ、敬語が難しかった、などの意見のほかに少し授業のスピードが速すぎると言う少数意見もあり、今後の参考になりたい。	2と3の内容から、授業スピードがやや早かったため理解度のポイントが低かったのではないかと分析し、今後はもう少し進度をゆっくり設定して授業を進めていきたいと思う。
前期	278	現代社会論	中川博	授業評価が1週間に集中したため、学生はまたかと思いいい加減な評価をしたのではないかと考えます。	私の自己点検より学生の評価の方が厳しいのに驚きました。	特になし。	年々板書をノートしない、レジメに書かない学生が増える傾向にあります。ノートないレジメを授業の最終回に提出させようと考えています。
前期	279	比較文化論	村井隆之	問1、問2、問7で学生の評価が「4」を上回っており、また問14を除くほとんどすべての項目において「4」に近い評価をいただいた。学生からは予想以上に良い評価を頂いたと思う。	学生評価の平均値が「3.93」であり、学生からはほぼ合格点をいただいたと思う。しかし、問14の評価が「3.56」であるのが今後の改善点であると思う。	ほとんどの学生から、授業内容・方法等についての好ましい反響・意見を頂いている。ただ、本年度も「板書」をもう少し見やすく、また書き取りやすくしてほしいという要望が1、2あったので、この点への配慮が必要と思う。	「学生評価」については、ほぼ満足すべき評価が得られているので、現時点では授業内容や方法を変更する必要はないと思うが、なお一層の工夫を加えて、さらに充実した授業にしたい所存である。
前期	280	プライダル総論Ⅰ	小野清和	学校平均値とほぼ同じ様な状況です。学生の興味がある分野であり一度誰もが経験する内容だけに期待度は大きいと思います。受講数が多いために真剣に勉学をしたい学生には少し騒がしいかと思えます。授業の楽しさは現状の状況を面白く話したので内容的にはより一層の興味を持って頂いたと思えます。	私が思っていた採点基準と学生基準がほぼ同じです。理解が出来る速さで話したつもりが少し話し方が早かった箇所と熱意を込めて話したつもりが受講生が多かった為に少し聞きづらかった事が上げられ、授業に集中出来る静かな環境づくりが今後の課題です。授業内容のより一層の興味深さを引き出し集中力を高める方法を今後の改善策に考量したいと思えます。	真剣にプライダルを学びたい。将来プライダル関係の仕事に付きたいと言う意見が多かった。今後はこの学生の希望をかなえられる様に企業との取り組みにも力を入れていきたい。	学生の興味がある分野だけにプライダルアシスタントコーディネーター(ABC検定)資格修得科目として、後期には過去の問題を取り入れながらより一層理解度を高め、受験者全員が資格認定を修得出来るように育て上げたい。
前期	281	旅行業務演習	西川博	学生の状況をみながら、授業の創意工夫をしていかねばならぬと感じるところが多かったです。	昨年度に比べ改善すべき点は改善したと思いますが、より一層工夫が必要だと感じました。	国内の観光地についての知識を身につけてもらえたことでより楽しい旅行についての知識を習得してもらったと感じました。	更に授業を改善すべく努力していきたいと思えます。
前期	282	観光関連法規演習	西川博	法律や約款など具体的事例などを取り入れてわかりやすく説明することにおおむね努力する必要があると感じました。板書でもそのことをこころがけていく必要があると感じました。	昨年度に比べ改善すべき点は改善したと思いますが、より一層工夫が必要だと感じました。	旅行業界、旅行の申し込みに関してのさまざまな決まりや約束事について理解してもらえた感じました。	更に授業を改善すべく努力していきたいと思えます。
前期	283	中国語会話Ⅰ	沈揚	学生からは予想以上に良い評価を頂いた。	学生評価が全体的に自己評価と学内平均を上回っていた。自己評価は学内平均を下回っていた。	特になし	特になし
前期	284	日本語表現法AⅠ	工藤真由美	すべての項目で5か其れに達する点数をいただいて大変驚いている。受講人数が少ないことも、ばらつきのない大いに関係していると思われる。	受講人数が少なく、一人ひとりと対話形式で、弱点を指導できたのが満足度につながっていると思う。特に添削を要するような本授業では、受講人数は大いに評価に関わると思われる。一人ひとりの到達度やニーズ(進路)に合った論述のあり方など、指導できたのが今回の結果につながっている。	受講数が少ないので却って記述しにくいというデメリットもあるのではないかとと思われる。(良い点しか記述できないのではないか。)	受講者の規模が大きくなったときに、このような高い評価を維持できるのかどうか、今後の課題である。
前期	285	色彩検定	吉真和恵	すべての項目で学内平均を超える評価を得られた。今回は社会人リフレッシュ教育講座の受講者の方も含まれており、緊張感がある静かな環境で授業を行うことができた。	色彩検定直前の全7回という講座のため、中盤を過ぎた頃から「時間が足りない。もっと回数を増やしてほしい」という意見が多かった。短時間で多くの内容を扱ったので、難易度、進行速度について受講者の負担が大きくなったことが評価の数値からも窺える。	社会人の受講者から、授業数を増やしてほしいという意見や、久しぶりに勉強して楽しかったという感想を頂いた。短大の学生の意見は、解り易かった、難しかったと二分した。	色彩検定の扱った範囲はかなり広いので、7回の授業ではポイントの整理や練習問題が中心となる。授業で要点をつかみ、自分の学習に役立ててもらえるように導く必要がある。合格まであと一歩というところにある受講者も多く、得点力を高める教材作りが必至である。
後期	501	日本語表現法	益田昭子	学生からは予想以上に良い評価をいただいた。人数が少ないから。しかも一度単位を落とした学生ばかりだったので、何とか理解させ、合格させたいの思いが強かったため、学生もその思いをくんでくれたのかかなりの学生ががんばってくれ、理解してくれたことをうれしく思う。	なし	特になし。	なし

後期	502	くらしと社会	中川 博	問13の2.63を筆頭に3を割った項目が5つありショックを受けています。	一昨年の結果に比べて大幅なダウンをしました。他の授業では3を割る項目がないのどうしたことかと悩みます。	特になし。	特になし。
後期	503	くらしと経済	中川 博	授業評価の平均値が3.53でありまずまずの評価とと思っています	教員の自己点検が5点満点が5つもあるにもかかわらず、学生との隔たりに驚く次第です	特になし。	特になし。
後期	504	くらしと数理	新田真一	どちらかといえば、満足していると受け止められる。	学生・教員による評価は両者共に昨年度のほうがよい。昨年度は毎回出席していた学生が75.0%、今年度は28.6%であった。この点が評価を下けていると考えられる。	内容はむづかしいという指摘が2.3人からあったが、授業は楽しかったとの記述が多かった。どうも内容より雰囲気といったところだろうか。	「くらしと数理」は次年度より開講されないが、他の授業で出席の奨励をより大事にしたい。
後期	505	くらしとパソコン	鈴木正彦	学生からは予想以上にいい評価を得た。しかし、受講生が少ないので統計学的考察はできない。	学生評価が全体的に自己評価を上回っていた。	特記事項なし。	授業内容を基礎的なものに限定すれば学生はある程度に理解できる。このことを基本に応用力をつけるようにしたい。
後期	506	日本国憲法	沼口智則	全体として大きな問題はありませんが、こちらの自己評価と学生評価が問1から4まで少し開きがありました。	自己評価と学生評価の食い違いは、問1から4で言えば声や説明やシラバスどおりかや準備と工夫などであるが学生平均が4であるのに対し自己評価が5と言うことで、自分が考えているほどには充分評価されていなかった。もう少し謙虚に反省し学生の側に立った工夫や準備をしたい。	特になし。	こちらの情熱や熱意や準備や工夫が100%伝わらないとすれば、伝える努力や工夫をこれまで以上にやる必要を感じます。
後期	507	スポーツⅡ	黒石久昭	学生評価は昨年度同様4.7と非常に高い評価もらったが、昨年同様、11名という小人数のため、毎時間学生とのコミュニケーションがこのような評価につながったと考える。	評価が高いのも小人数で学生の意見を主体的に取り入れたためと考えられる。	今後とも、学生とのコミュニケーションを大切にしていかなければと考えている。	バドミントン・バレーボール等は、学生にとって比較的なじみやすいスポーツ種目と考えられるので今後とも継続していきたい。
後期	508	生活の科学	緑川知子	出席回数が少ない学生が、評価をすることができるアンケート項目とできない項目があると思う。が、学生は私が思う以上に授業を受けて満足しているようで良かった。	昨年に比べて、入学者の学力レベルの幅が広がったためか、基礎知識がない学生にあわせて基礎から講義すると、すでに基礎知識を有し大学での講義を期待している学生の満足を得ることが難しくなった。	私は毎時間授業の感想や質問できなかったことを書いてもらっていて、次の授業の時に補ったり、改善したりしている。最終講義の時に行われるアンケート結果は、記述者には生かすことができないし、次年度の学生にすべてが活用できるわけではない。	受講届け締切までの期間は欠席を許されると解釈して休む学生に対して、受講届け締切後に再度シラバスを説明して、単位を取るためだけに出席する学生や、期待した講義と違うという学生の受講を減らしたい。
後期	509	衣服と生活	緑川知子	出席回数が少ない学生が、評価をすることができるアンケート項目とできない項目があると思う。が、学生は私が思う以上に授業を受けて満足しているようで良かった。	昨年に比べて、入学者の学力レベルの幅が広がったためか、基礎知識がない学生にあわせて基礎から講義すると、すでに基礎知識を有し大学での講義を期待している学生の満足を得ることが難しくなった。	私は毎時間授業の感想や質問できなかったことを書いてもらっていて、次の授業の時に補ったり、改善したりしている。最終講義の時に行われるアンケート結果は、記述者には生かすことができないし、次年度の学生にすべてが活用できるわけではない。	受講届け締切までの期間は欠席を許されると解釈して休む学生に対して、受講届け締切後に再度シラバスを説明して、単位を取るためだけに出席する学生や、期待した講義と違うという学生の受講を減らしたい。
後期	510	住生活と快適空間	小倉育代	人数が少ないこともあってそれぞれの学生の状況が全て把握できた。思いの外理解度が好ましくない状況の学生が多かったため、スピードダウンさせて対応したので、予定していた内容よりも少しずつ減らして対応した。	全体的に自己評価を学生評価の方が上回ったものの、熱意が伝わらなかった部分があるようで、寂しい気がした。速度・レベルともに自己評価の方が学生より全体的に高かった。昨年より、学生には真面目さがみられ、内容的には向上した。	後ろ2/3程度の内容を作業を含んだ課題とした。前半の講義形式の内容より取り組みやすかったようである。図面を読み取り、図面で考えを表現していくことも教科目標の1つとしているので、次年度も組み込んでいきたい。	住宅についての知識が全くない中での授業展開となる。最初難解に感じるらしい。講義形式の部分を日常とどう関わり合わせるかが大きな課題だと感じている。
後期	511	結婚と家族	中川 博	問11の3.19を筆頭に学生の授業評価の低さに驚きます	学生による授業評価は一昨年に比べて大幅にダウンしました	特になし。	特になし。
後期	512	ファッションマーケティング	本山光子	学生からは全体的に予想以上に良い結果を頂いた。また全体を通して学内平均より上回った。	自己評価を低く過ぎたのか、学生の意識としては、授業内容をよく理解できたという結果が得られている。昨年と比べて授業のポイントを絞って、スピードを少し緩くしたのが良かったのかもしれない。		自己評価が低かったのは、授業目標に対しての、達成度という点で、完全なものになっていなかったという点が反省されたからだが、学生の評価を見て、内容を絞った方が、学生の理解も深まることわかり、今後はポイントは絞りながらも、もう少し内容の充実をはかっていきたい。
後期	513	ファッション販売Ⅱ	本山光子	有効回答数が1ということで、今回のアンケートの結果は正確な判断の対象にはできないと考える	検定を対象とした授業ということで、検定日までの時間の不足から、自己評価としては、十分な指導がしきれなかったと反省した。	アンケートの集計結果は有効なものがあったが、自由記述では、検定対象授業でありながら、自由記述ではファッションの販売そのものへの興味を高くした、知識が深まったという意見が多く見られたので、今後事例などを多く用いてより興味の持てる授業展開をしたい。	検定対象のため日程と内容がどうしても変則的になるが、もう少しポイントを絞りながら解説し、より今以上に興味を持てるよう視聴覚教材を積極的に使って授業展開していきたい。

後期	514	メイクアップ(ネイルアート演習含む)	西澤有香	学内平均より上回るいい評価だったと思います。毎回授業を楽しみにされていました。	自己評価よりも上回る評価が多かったです。授業内容に興味を持って出席していました。	ペアでのメイク実践は難しかったという意見がありました。全体的に仕上がりは良かったと思います。	更に興味を持ってもらえるよう流行など最新の情報なども取り入れて授業内容を考えていこうと思います。
後期	515	色彩の心理	吉真和恵	平均値が4.0を超えていた昨年より、評価が下がっていた。多くのアンケート項目の数値結果は学生の要望や改善すべき点を深刻に反映しているが、最後の「総合的にこの授業を受けて満足かどうか」の問いでは学生評価が学内平均を上回っていたのは興味深い。	昨年度までと比較して、本年度に自己評価を上げた項目が増えている。それは、これまでの内容を「写真や文字データ」として改めて編集直した教材に関する自己評価を高くしたものの、学生とは評価の目線が違う結果となった。	一部の色彩心理に深く関心をもっている学生から、「これからの人生でずっと活かしていきたい内容」「もっと勉強したい」というコメントがあり、まさにこの講義の目的を感じ取ってもらえ色彩講師として嬉しく、今後も色彩の分野に関心を持って生活してもらいたいと願っています。	前期の授業の反省点から、今回は「視覚教材」を多く使用した。情報が多すぎることで「一人ひとりの理解度」という点では細やかに対応しきれなかったが、パワーポイントを導入した新しい講義はこれまでより多面的に情報を提供するのに役立った。
後期	516	色彩の基礎Ⅱ	吉真和恵	問6の「授業の進行速度」に関する項目のみ4.0を下回ったが、他はすべて上回っていた。自分が力を入れていた部分が学生にも伝わっていたことが確認できた。	前期の「色彩の基礎Ⅰ」の延長線上の授業として、今年度からスタートした「色彩の基礎Ⅱ」。基礎Ⅰの内容を復習すること、応用力をつける演習など新しい試みも加えながら検討の余り、自己評価の数値にも表れていると思う。	楽しんで作品を作っていた学生が多いことが実感できた。	この授業を受講していた人は色彩関連科目を殆どすべて受講している。色彩検定にも興味を持っている皆さん、2008年度には小松先生の「色彩検定」支援の講義を受けて、これまでの努力を活かせるよう繰り返し学習しぜひ合格を目指して下さい！
後期	517	食の歴史と文化	坂口守彦	本科目のような人文系科目を担当したのははじめてであったが、授業開始前に想像したよりも良好な評価を得た。授業に臨んでリラックスして実施することを心がけ、プリントを配布し、カラー写真やビデオを示して授業を実施したことなどが好結果を生んだものと思われる。	授業に際して、できる限りの準備をしたので、学生にこちらの熱意が十分に伝わったものと考えている。教える側からの自己点検評価よりも学生の評価の方が上回っているものもあった。ただ、学期末の定期試験結果からみて、学生は講義の内容をどこまで理解しているのか、手放して喜ぶべき問題ではない。	一般常識として、あるいは高校の歴史の教科ですでに学習したところまで教授しているという指摘を受けた。このような指摘は教える側にとつて、きわめて貴重なものであるから、今後とも自由記述は実施してほしいものである。	授業評価アンケートで好評であっても、期末試験の結果がこれに見合うものだけならば意味がない。今期はشوートテストを実施しなかったが、来年度はこれを試みて授業の理解度を深めたい。
後期	518	食の安全性	坂口守彦	本科目は比較的教授しやすく、学生の評価は学内平均を上回っていたが、本年度後期は前期に比べて、受講者数が少なく評価も学内平均にほぼ同じか、やや下回る程度となった。熱意をこめて授業に努めたが、内容が十分に理解されているとはいえない。	昨年度と同様に授業に際して、できる限りの準備をし、工夫をこらしたにもかかわらず、学生にこちらの熱意が十分に伝わっていないところがある。学生はどこを評価しているのか検討の余地があるものの、講義の時間帯が5時間目にあつたということも問題があると考え。	自由記述は好ましい試みであり、今後も継続することがのぞましい。しかし、積極的な意見の陳述は寡少であるから、ここにも設問の項目を置くなど工夫が必要であろう。	今期から授業は主としてプリントを配布して進めたが、ときおりカラー写真、図表などを提示した。これらは学生の理解を助けるために不可欠である。プリントの説明、補助教材などを組み合わせることで授業の要点を明示し、これまで以上に理解させることに努めたい。
前期	519	食品材料の基礎知識	坂口守彦	授業開始前に想像したよりも良好な評価を得たが、これまで学生の評価ががんばしいとはいえない。昨年度と授業内容、方法などはあまり違いはないが、授業に臨んでリラックスして実施することを心がけ、毎回定期よりもいぶん早めに授業を終了したことなどが評価されたと理解している。	全般に学生による評価と自己評価は傾向が類似していた。昨年度のみならずその前年も教材(プリント)や図鑑の使い方に問題があることを指摘されていたので、今回はこの点に改良を加えたが、かならずしも良好な結果を生んだわけではない。	科目の性格上基礎的な部分が多く、学生の興味をつなぎにくいところがある。授業内容が難解だ、授業内容のポイントが明確ではないなどの指摘がみられた。自由記述させるのは好ましいので、積極的な意見を陳述させるために設問の項目を置くなど工夫が必要であろう。	今年度はプリントなどの補助教材を多用し、学生の興味をつなぎとめる方向で授業をすすめたが、これがどの程度学生の理解度増加につながったのか明確ではないので、次年度も継続して実施し効果を確認したい。
後期	520	食空間のデザインと演出	潘龍諾	自分の評価とあまり変らない評価なので、双方の思いは一緒だったんだなあと思うものの、今更後戻りも出来ず、悔やまれてならない。	自分が良くないと感じた部分は学生達も同じように感じており、それらが昨年度より多くなっているのは(???)自分の怠慢さかと反省。	相変わらずI~2行の何の変哲も無いメッセージ。それに輪をかけて多いのが白紙。昨年まではそんなこと無かったのに…。	自分ではお気に入りの科目で、食空間に興味を持って受講してくれて方ならばきっと喜んでもらえる科目かと自信を持っていましたし、今までの感想もそうだったのに、今回の評価は悪く、白紙が多いってことは…。正直何を改善してよいのか(???)です。
後期	521	フードマネジメントとメニュープランニング	潘龍諾	上下の差のほとんど無い平均値4.14には驚きです。それだけ満足してもらえたのか?それとも早期のアンケートで面倒くさくて4.44とチェックしたのか?学生の本意は…。	昨年同様学生達はあまり表情や態度に表さないで、理解していない、或いは不満なのかと思っていたが、さしに有らず。昨年一昨年の反省も踏まえて解りやすいレヴェルで講義したのが、実際に効を成したのか。	同上。何回も大きな字でも好いので10行以上で記述するよう促したが、結局1~2行のメッセージばかり。	本当に彼らは何を考えているのかと、講義そのものの心配ではなく、違う気遣いが生じます。とりあえず次年度も今年度と同じような解りやすいレヴェルで進めてみようと思います。
後期	522	テーブルコーディネート実習	乾 博子	総合的に楽しく学んでくれたと感じています。また、新しい知識も増やしてくれたと実感しています。	今年度は人数も少なかったため、個々の指導がより深くできよかった。そのため学生の評価も昨年度より良かったと思います。	学生から楽しかった、興味を持ったなどうれしいメッセージをたくさんもらい、来期の学生にもそのように感じてもらえるよう努力したい。	今まで通り全力を尽くしたいと思えます。
後期	523	製菓材料の基礎知識	林真千子	総合的に見て、満足している学生が多かったこと、そして、本教科の学生評価と学内平均がほぼ同じくらいであったことについて安心致しました。	ほとんど自己評価と学生評価が同様に近かったのですが、その中で差が大きく、改善の必要があると思われたのが、板書の適切性と内容の理解度でした。	多くの学生から、製菓材料の科学的知識が得られ、お菓子作りが楽しくなったという意見が得られたことを嬉しく感じました。今後も興味をもって授業に取り組んでもらえるよう、努めてまいりたいと思います。	今回の結果を分析した結果、今後改善すべき点は、どの学生にも興味ももて、内容的にも理解しやすいものになるような教材と視聴覚教材の利用、そして、より丁寧な説明にあると考えます。

後期	524	調理実習Ⅱ	奥田玲子	全ての項目で4.00を上回る高い評価を頂いた。特に授業の内容が技術や実技の向上に役立つと全員に評価されたことは良かったと思う。また、こちらの指導に対する熱意を学生が受け止め、熱心かつ積極的に実習に取り組んだ結果、内容、実技ともによく理解され、高い満足度につながったものと思われる。	全ての項目で学生評価が自己評価を上回った。課題量・課題の取り組み時間で改善が見られたのでやや前年より課題量を増したが、満足度に変化はみられず、概ね適切だったと思われる。	殆どの学生が楽しく実技に取り組んでおり、また、実習で学んだ技能や技術は今後の生活に役立つと感じていた。また、調理を学ぶことにより自身の食生活の改善を強く意識したとする記述も見られた。	今回の高い評価を次年度も維持できるよう取り組みたい。また、自由記述にもあったように、今後は、調理から広く食全般に関わる幅広い分野への興味も高める授業をめざしたい。
後期	525	調理実習Ⅱ	末吉明美	短期間に多くの事を知ってもらおうと、学生に課した課題が多すぎた日もあったように思いますが。自己点検評価と学生の授業評価に大差のある項目があるのは、自分が努力して指導したつもりでも、学生には、理解してもらえなかった点・反省すべき所があると思いました。		いつも捨てていたもの(野菜の皮・葉・トマトの種・出し昆布・かつお)が簡単な一品に変身した驚きと喜びを素直に書いてくれていて、食べ物を無駄なく使い切る大切さを理解してくれたと思います。	食育の大切さを伝えながら、毎回の献立でのポイントをしっかりとおさえて、学生の理解を確かめた上で、実習の基礎力の向上を旨としてがんばられるよう指導してまいります。
後期	526	製菓・ラッピング実習Ⅱ	清郷洋子	学生からは毎回自己評価及び学内平均に比べて良い結果を頂いています。その中で特に評価の高かったのが問17～問20でした。今までに無い新しい技術も次々開発されており、私自身も学びつつ実生活に役立つ基本と合わせて今後この点を重視した授業を行いたいと思います。	学生評価が自己評価に比べて全て上回っておりましたが、私としてはさらに分かりやすく満足して貰える授業を心掛け、原材料や包装資材、食品表示についてもさらに指導し、楽しみながら自然に学べる授業内容にしたいと思います。	学生から忌憚りの無い意見をいつも希望していますが、「いろいろな事が学べて良かった。」「授業が楽しかった。」「今まで作れないと思っていたお菓子が簡単に美味しく作れて良かった。」「残りものの材料からお菓子が作れ、ラッピングによりプレゼント包装が出来て良かった。」「等の記述が多く、こちらの希望する授業内容の改善や要望等の建設的な意見が無くてとても残念でした。	学生の評価及びノートを考慮し、最新の技術や理論を積極的に取り入れると共に、「今まで何も知らなかったのでもと勉強になりました。日本人として知らなければならぬと思いました。」等、日本の文化である風呂敷やしきたりを踏まえた礼法についても人気と感心が高かったのだからに充実させ分りやすく指導したいと思います。
後期	527	社会福祉概論	保科和久	学生からの評価は、可もなく不可もなくとい感じであった。	難易度・学生の理解度が自己評価とくいちがっている点をどの様に考えるべきか、難しい問題である。	板書について、より、具体的にわかりやすくという指摘があった。今後は細かく書いていきたいと思う。	学生の能力と希望に合わせた授業をめざし、努力していきたい。
後期	528	介護概論	井上敏	印象として授業態度と評価が異なるのが気になる。	前回同様学生との間にかんりの評価の差が認められる。特に授業に対する学生の姿勢の評価。		
後期	529	医療事務総論	倉戸啓子	授業の難易度、進行速度、理解度の点での満足度がやはりやや低くなっている。	教員の評価より学生の評価が高い項目が多かった。	授業時間の延長については、歓迎されていないようなので、今後は延長をしない。	実務に必要な一定の知識、技能を身につけるためには、内容の削減はあまり好ましくないが、今後は学生の理解度に合わせた内容を削減し、より基礎的なものにする事を考える。
後期	530	医療事務演習	倉戸啓子	内容が難しいと感じている学生が多い。	特にありません	「難しかったが、わからないところは丁寧に教えてもらえるのでよかった。」という感想をいただいた。	実務に必要な一定の知識、技能を身につけるためには、内容の削減はあまり好ましくないが、今後は学生の理解度に合わせた内容を削減し、より基礎的なものにする事を考える。
後期	531	解剖生理学	奥田喜一	授業の難易度、興味、理解に関する間において、評価が低かった。前回は同様だった。充分な準備と工夫という間では良好とする評価が出ていた。	学生評価が全体的に自己評価を下回っていた。	興味を持ったという学生が数人いた。内容の理解という点では個人差があると思われる。	「解剖生理学」はひとの病態を学ぶ上で基本的な学問であり、幅も広く奥も深い。15回の授業で学生の理解度をどれくらい深められるか、より現在以上授業の工夫が必要と感じている。
後期	532	薬理学	大西義博	学生からは学内平均を大幅に下回る厳しい評価を戴いた。	授業の難易度のレベルが適切と考えて授業を行ったが、学生評価ではそれは考えておらず、授業の難易度に付随した授業の理解度なども学生評価が極めて悪かった。	授業が難しかったとの意見が多かった。また、授業で学生に質問した方が学生の理解度を把握できるのではないかの意見があった。	大学生は単位取得に向けて自主的に授業に取り組むべきと考えていたので、一方的な授業をしてしまったため授業の理解度が極めて悪かったのかもしれない。今後、講義内容をより基礎的なものに変更し、理解度アップにつとめる。1コマの授業(90分)のうち3割程度(30分)を復習に当て、学生の理解度を高めるために質問して学生の理解度を把握するように努める。
後期	533	医療秘書実務	東野園子	問11の評価が悪かったのが気になった。人数が少なかったため、授業中によく発言をさせたり、質問をさせてたりして、時々脱線もしたが、活発な授業だと思っただけ、学生の側からすればそうは思わなかったようだ。	人数が少なく、逆に授業を進めにくかったが、わかり易く話す、熱意をこめて、また丁寧に教えてくれたか、という項目の評価が高かったためその点では良かったと思う。	ロールプレイを取り入れて楽しい授業を心がけたので、楽しかったという意見と、人数が少なかったため、質問がしやすかったという意見が出ていた。	今後も楽しい授業を心がけていきたいと思っています。
後期	534	診療報酬請求事務演習	倉戸啓子	少人数であったこともあり、良い評価をいただいたと思う。難易度のレベルや進行速度についても、資格試験のレベルが視野に入ると納得してもらえるのかと感じる。	特にありません	わからないところを直接質問できるのでよかったという感想をいただいた。	特にありません

後期	535	医療事務コンピュータ	倉戸啓子	予想していたより良い評価してもらったと思う	特にありません	医療事務総論のときからとても難しく、わからなくて、嫌気がさすことも多かったが、やり続けているとだんだんわかってきて、それがとてもうれしかった」という感想があった。	特にありません
後期	536	臨床医学概論	小泉雅子	2年生に比べ出席率が非常に悪く、授業がつまらなかったのかと反省していただけに、高評価だったのが意外。ただし、授業中態度は2年生に比べて非常によかったのを次回授業の出席率に反映させたい。	現役病院勤務である強みというのが、病院で実際に起きた問題をその対処方法とともに授業に織りませた時の生徒の良いつきは格段に良かった。	授業前や授業終わりに記述を求めても、あまり書いてくれないかったか、昼休みを記載時間にあてたら、非常に参考になる意見が多数得られた。	生徒の意見はどの授業にも共通項があるので、全ての意見を参考に、次回授業に反映させたい
後期	537	臨床医学概論	小泉雅子	医療用語と同じバターの授業展開に努めたつもりであるが、医療用語に比し、評価が高かった理由は何であったのか？	昨年比して格段に授業態度が良くなったのは、病院実習に行ったことで、各々が私の教えたことが身にしみたとすることは明白であったように思われる。実習報告を1人1人にさせたことが有意義だった。	良い意見も悪い意見も今後の授業には非常に参考になるものもある一方で、一部にとっても低劣な記述がある分については何とか今後指導していきたい(意見を述べる意味を根本からはき違えてる生徒がみられる)。	授業内容よりも、まず教わるという者の姿勢、であるとか、社会的常識を交えた授業展開を行う必要性をともに感じた。例えば、第1回目の授業で「何回まで休めるのか」というような、まず休むことありきの質問をするであるとか...
後期	538	医学 医療用語	小泉雅子	授業では積極的な質問が複数の生徒から得られ、自分なりに手応えを感じていたわりに評価がいま一つなのはがっかりした。あと、概論 を選択せず、用語のみを選択する生徒が、こちらとしては平等に教えているつもりでも、多少不利に感じているふしがあるので、学校側からは極力一緒に選択するよう指導していただければありがたい。	今期が初の授業だったので、他校などで行われている一般的な授業内容を聴取した上で行ったのだが、少々難解(多量)すぎたよつなので、次回かもう少し簡略化した授業を行うつもり。しかし、用語の性質上、数多く覚えなければ意味がないということとを、今一度生徒にも理解してもらいたいというのが率直な意見。	難しすぎたという不満と、難しけど楽しかった、役に立った、もっとちゃんと授業をづけるべきだったという前向きな意見とに二極化されていた。去年のアンケートに比べてしっかりと内容のものが多くてその点は嬉しく感じた。	授業内容よりも、まず教わるという者の姿勢、であるとか、社会的常識を交えた授業展開を行う必要性をともに感じた。例えば、ため口、遅刻・トイレで席を立つ際に無言で勝手に出入りするなど、社会人としておよそ通用しないことは伝えてはいるが...
後期	539	診療情報管理論	富永純子	診療情報管理論は病院内においても特殊な分野であり、より専門性を帯びているため、前期授業では学生にとり距離にある内容であったのではないかと考え、評価は低かったのですが、後期は学生自身も内容について理解でき慣れてきたせいもあると思います。前期より集計結果は高められています。	パワーポイント使用中に板書も併用したため照明の暗さや偏った場所に板書を行ったため、学生は見づらかった部分もありました。	無記入もたくさんあり、先生ありがとう、楽しかった。と書いてくれる学生もいて、私自身への学生の気持ち伝わってきてうれしく拝見しました。一行くくらいはなにもう少し長い文章で記述してもらいたいです。	板書については照明を明るくし、学生が見やすいようにパワーポイント使用中でも一旦中止し板書に集中してノートに写す時間を持てるように配慮していきたいと思います。
後期	540	ICDコーディング実務演習	富永純子	病院勤務(特に医事課)する時に将来必ず役にたつと考えますが、内容的に専門性が高く少し難しかったのではないかと思います。病名に関しては、普段あまり接触しない語句・漢字も多く、不慣れといった点もあったかと思えます。難しかったのかも知れません。	コーディングにかんしては、評価は学生と自己を比較して大体合致していました。演習前に説明しても聞いていない学生も多く、一人一人、同じ質問が何度も行われ、閉口することもありました。その都度丁寧に対応してきました。	白紙は数枚でした。、「楽しかった」、面白かった。」「寝てばかりいたけど先生ありがとう」など記入が多く、もう少し長文で記入してもらえたらよかったです。は、と思います。	病院では、一般の企業とは異なり、専門知識が必須です。学生はあまり専門的になると距離感を感じていたのではないかと思います。「こんなんはじめて聞いた」、病名の漢字が読めない」などと発言する学生もいました。演習前に説明と読みを教回してルビを振るよう指示しますが、同じ質問が繰り返されました。今後は、複数回繰り返し、学生の理解度を確認のうえ、演習に取り組みもうと思っています。繰り返し説明の必要があると考えます。
後期	541	アロマセラピー(演習含む)	倉津三夜子	全体的に高く評価してくれていて、手ごたえがあった。	大きな変化は見受けられないが、自己評価と学生評価の差が減少したように見える。アロマセラピーは個々の心身を扱うため、個別のコミュニケーションが必要になるが、1対1の要素を取り入れられる兼ね合いが大切。そのバランスが評価に表れるように、配慮すべき問題だと考える。	授業を楽しみにして、満足して受けていた様子が実感でき、とても励みになった。口頭ではあまり表現しない学生が実習で作ったものを自宅で使用した体験などを書いてくれて、実感や喜びが伝わってきた。	アロマを楽しめて、かつ安全に生活の中で活かせる実習を多彩に取り入れていきたい。またフレッシュなハーブに触れたり、画像を見たりする機会を作りたい。一方でテキストに沿って重要項目を伝える。両面のバランスを取る工夫をしいこうと考えている。
後期	542	リハビリメイク演習	志村美代子	授業を受けて満足という点では学生の満足度が高かったと思うが、授業内での質問等、社会人はかなりこだわりがあったようで、満足度がどうか心配でしたが、全体を通してでは良かったのだという結論だと感じました。	難易度のレベルに関して簡単であったのか、難しいと思ったのか、評価だけでは分からない点がある。学生と社会人との差があるのか、この点は不明です。	学生は素直な感想を記入され、社会人は広い視野で自分とメイクの授業のかかわりを記入されていました。観点が違うことが参考になりました。	学生と社会人が同じ教室で行うため(内容は同じ試験があるという点で社会人は負担に思っている。途中で受講されなくなった社会人も名目のため、最初の説明等受講内容を伝える時に工夫が必要だと思えます。
後期	543	性格の理解と把握	北村瑞穂	学内平均を全ての項目で上回っており、安心した。授業内容の理解だけが4に足りていなかった。心理テストやパーソナリティーの理解は少し難しいのがも知れない。	学生評価が全て自己評価を上回っていた。	「心理テストが面白かった」、心理テストで自分のことが少し分かった」というコメントがあり、嬉しく思った。	心理テストを増やしてほしいという意見が多かったので、来年度はもう少し数を増やそうと思う。エゴグラムを他の心理の授業でも実施している先生が多いらしい、別のテストに代えたほうがいいのか検討する。

後期	544	人間関係論	北村瑞穂	授業態度の悪い学生への注意と学習内容の理解度が平均を下回った。	授業の進行速度が、自己評価では適切だったのに、学生評価はそれを下回った。	「援助行動」が面白かったという意見があった。前期まではあまり入れていなかった範囲なので、取り入れてよかったと思う。	授業の進行速度が速いのか遅いのかの判断がつかないため、来年度は授業中に聞きながら進めたいと思う。
後期	545	社会心理学	田端拓哉	学生からは予想以上に良い評価をいただいた。前年度よりも図表を増やし、説明の難解さを軽減する試みがうまくいったのかもしれない。しかし、私が理想とする理解度に学生が到達したという実感はなく、実際、試験の解答についてもそのことが認められたため、さらなる改善を企図する。	前年度よりも図表を増やすなどして分かりやすさを増す努力を行ったためか、思った以上に高い、昨年度の評価を上回る、そして私の自己評価に近い評価をいただくことができた。来年度もこれ以上の評価をいただけるように努めたい。	毎講義、自主的に感想を書かせているためか、特に注目すべき内容は見られなかった。	前年度よりも図表を増やしたが、さらに分かりやすくするための変更を行う余地は残っていると思われるため、それを行いたい。言葉遣いも学生には依然として難しいと思われたため、その点も改善を行いたい。
後期	546	文化心理学	村井隆之	学生評価の平均値は4.16であり、教員による自己点検評価の平均値4.00を上回っている。	問12～14については、教員による自己点検評価の点数が学生評価を下回っている。これらの項目は、学生の授業に対する熟意や理解度や関心の度合いに関するものである。対前年度比でも学生評価がやや悪化傾向にある。	ほとんどの記述が授業の内容や進め方に対する肯定的内容となっている。	「2」の項目の問題点(問12～14)に関する今後の検討が必要であると考えている。
後期	547	発達心理学	北村瑞穂	学内平均を全ての項目で上回っており、安心した。授業態度の悪い学生への注意が一番評価が低く、今後は気をつけたいと思った。	学生評価が全て自己評価を上回っていた。昨年より評価が高いと思う。	「一部の2年生がうるさい」というコメントがあった。今後気をつけたい。「自分の子どもを育てるのに役立つと思う」というコメントがあり、嬉しく思った。	授業中の私語がうるさいという意見がいくつかあった。来年度は早い時期に学生の意見も聞いて授業をしたいと思う。
後期	548	カウンセリング演習	鍛冶谷静	演習なので学生の関心も高く授業運営は行いやすかったが、プリントの用い方などについてはもう工夫できたのではないかと反省している。	授業の難易度や内容の理解などこちらが思っていたよりも学生の評価が高かったのをうれしく思う。	特にありません。	事例検討では現在の自分の課題と重ねて考察するようなテーマに関心が高かったように思う。レポートの記述も回毎に充実してくるよう感じられるので、学生の成長に合わせた教材を提供していきたいと考えている。
後期	549	ピアヘルパー演習	近藤淑子	用紙が不足していたので授業評価はしていません			
後期	550	臨床心理学	奥村和弘	学生の雰囲気や態度など、授業中に感じていたものがそのまま反映された結果となった。こちらが伝えたかったことが十分に伝わるように努力したい。	昨年度と講義内容に大きな変更はなかったが、昨年度の学生による授業評価と多少の差が見られた。その学年毎の興味・関心を考慮しながら授業を組み立てたい。	後期、特に冬場の講義で教室の暖房が機能せず、寒さのあまり学生が授業に集中出来なかったのはとても残念である。	比較的学生の興味・関心が高かったテーマを広げながら講義内容を検討していきたい。
後期	551	家族心理学	森石加世子	全ての質問項目において、「そう思う」が高い得点であり、学生にとって得られるものの多い授業内容であったのではと思われる。	昨年度の結果と比較しても学生による授業評価は高くなっており、学生の学習の関心に合わせた授業内容となったと思われる。	具体的で分かりやすい反面、社会人となることを直前にひかえている学生にとって、匿名による記述は無責任性を助長すると考えられる。	今回の結果は、学生と授業内容の関係性が大きく影響していると考えられ、今後より学生に応じた授業内容となるよう努力する所存である。
後期	552	幼児音楽	金香叡	学生全員が精神的にとでも大人で、毎回の授業がスムーズにいき、学生自身も授業を楽しそうに受けていたのがよく分かったので、結果も良かったと思います。			就職する先は各々違いますが、どこかで必ず役に立つ授業だと思います。今回担当した学生は全員やる気があり、協力的で、こちらと一緒に充実した時間を過ごせました。
後期	552	幼児音楽	森脇由紀	高い評価を頂いて感謝しています。	少人数でチームワームの良いクラスだったので、まとまり良く楽しく授業出来た結果が、評価に表れていると思う。		さらに学生達の求めるものを探求し、よりよい授業にしていってほしいと思う。
後期	552	幼児音楽	谷本尚子	学生評価が殆ど「そう思う」の回答で、とてもうれしいです。	全体的に学生評価の方が高い。教員もとても工夫して授業に取り組んだが、それが生徒にも伝わっていることがよくわかり、とてもよかった。	「この授業は一番楽しかった」という声もあり、励まされました。	この授業は生徒数が少なく、出来る事が限られていたけれど、生徒とのコミュニケーションもとりやすく、本当に楽しく授業が進められました。
後期	553	通信・ネットワーク論	畑野清司	教科書に基づいて授業を進めているが、専門的で難しい部分もある。しかし今年の学生は堅実についてきてくれたおかげで予想以上の高い評価をいただいた。	準備と熱意を以って授業を展開し、期待以上の評価をいただいた。一部学生の熱心な授業態度が教室全体の緊張感を導き出したものと思われる。	29通の自由記述があった。内25名の学生が「授業内容は難しかったけど、先生の説明はわかり易く、たのしかった。」としている。4人の学生は「難しく大変だった。」「黒板消すのが早すぎた。」など不満があった。	この授業は、教科書に書いてあることを、より具体的に解説し理解を深めることが必要である。次年度もその努力を惜しまない。
後期	554	情報活用演習Ⅰ	新田眞一	すべての間について、学生評価平均が「4. どちらかといえば、そう思う」であった。	ほぼ一致している。昨年に比べると教員による評価はあがっている。	多くの学生が、「進む速度が速い」との指摘があった。ついつい速くなってしまふことは反省しなくてはならない。	ゆっくりと進むようにすること。授業内容をより基礎的なものにしほることが必要かも。

後期	555	情報活用演習Ⅱ	新田眞一	難易度のレベルと進行速度については適切さに欠けていることが示されている。他はほぼ満足されている。	昨年度に比べて、教員の工夫（聞き取りやすくすること、丁寧に説明すること）は、より受け止めてもらえたようだ。	「難しかった」という記述が多く見受けられた。ExcelはWordに比べて計算式などの設定を必要とするので、数学の基礎学力の向上が大切かも？	すぐには実現できないが、数学の基礎学力をExcelの授業をしながらつけている工夫をすること。
後期	556	情報活用演習Ⅲ	新田眞一	有効回答数が10であった。全体的に不満足であった学生が1人いることがうかがわれる(10.0%)。総体的には満足していただいたようだ。	昨年より全体的により満足していることがうかがわれる。	「受講してよかった」という意見が50%、「むづかしかった」という意見が50%ということで、満足している人は50%であることがうかがわれる。	内容がWordの応用であるので、個人個人の進度・理解度に差があることを考えると、個別指導の時間をふやすことが必要である。
後期	557	マルチメディア論	畑野清司	かなり難解な部分もある内容の授業を行っているが、熱心に受講してくれて、それなりの評価をしていただき感謝している。	ほぼ昨年なみの評価をいただいた。難解な部分については十分な準備と熱意をもって講義を行った。	22通の自由記述を回収した。「授業は難しかったが、先生の説明は丁寧に分かりやすかった。」と書いてくれた学生が18名いた。	授業の進め方については、今年度と同様に行う。ただし、配布するプリントの学生の記入欄については学生から提案のあった方式に変える。
後期	558	マルチメディア表現及び技術	眞下義和	概ね好感度であったが、説明の聞き取り易さ、講義内容の理解のし易さに、学生によって評価のバラつきが見られた。	前期に引き続、自己評価と学生評価に大きな乖離は見られなかった。	自由記述を提出したほとんどの学生から好評価を得られた。マイナス評価についてはこれを検討し、次回以降の講義になるべく反映できればと思う。	基本的には学生に好まれる講義環境と、講義内容を積極的に取り入れた事が奏功したと思われる。今後もそういったスタンスを取りつつ、意義のある内容が漏れなく理解し易いような講義を続けていきたい。
後期	559	情報倫理	大野麻子	おおむね良い評価が得られ、良かったです。	前期は講義が多く、板書などで単調さが目立つという意見があったので今回は演習を多く取り入れましたが、それによる満足度の向上はあったと思います。	今後も継続をお願いします。	教科書のページ数が多かったため、どうしても急ぎ足で授業を進めてしまうことから、重点のみをコンパクトにまとめたものに切り替え、演習量が多ても全員がじっくりと学べるような授業内容にしたいと思います。
後期	560	インターネット演習	大野麻子	有効回答数1件からでは判断しにくいですが、自由記述文からは高い満足度が得られたように思います。	前期に比べ、演習量を増やし、講義を減らしたことが評価向上につながったのではと考えます。	率直な意見が伺えますので、継続していただきたいと思います。	受講者数にもよりますが、今後も全体への講義よりは、個人指導できる部分を増やし、全体のスキルアップにつなげたいと思います。
後期	561	プログラミング演習	大野麻子	難易度が少し高めになってしまったかと思いましたが、アンケートや自由記述文の内容から、そこまで難しいとは思われていなかったようで意外でした。	今回はじめての授業でした。	個人的な意見や要望を聞けてよいと思います。	講義資料として、データを共有フォルダに置いておりましたが、配布資料がほしいという意見がありましたので、今回は紙ページの配布にきりかえたいと思います。
後期	562	情報機器利用プレゼンテーション演習	畑野清司	殆どの学生は、期待以上の評価をしてくれた。それらの学生は努力すればするほど、より高いレベルのコンテンツが出来ることを実感し、真剣に取り組んだ。その結果、授業に対する評価が高くなったものとする。しかし、一部の学生に参加すればそれでよしとする考えもあり、残念であった。	昨年度より評価が高まった。私の期待以上の成果が上がったのは、学生の意欲の向上によると思うところが多い。	13通の自由記述があった。大半は「自由なデザインと発表時の緊張感が楽しかった。」としているが、「時間が余った、もっとスピードを上げてもらいたい。」という学生もいた。	それぞれのレベルに合わせて、全員がより高いレベルのプレゼンテーションに挑むための工夫が必要。
後期	563	プレゼンテーション演習Ⅰ	福井愛美	有効回答数が8と人数も少ないせいか、全体に予想以上の良い評価をいただいた。	昨年同様、板書については自己採点を低くしたが予想以上に評価は良く4.88だったので、まずは安定して望みたい。	最初は人前で話をするのは苦手だったが、1分間スピーチをするうちに話すのが楽しくなった、あるいは落ち着いて話せるようになったと言う意見が多かった。また先生のアドバイスが厳しかったが勉強になったと言う意見もあった。	一人一人の個性にあったアドバイスができたのは少人数ならではの授業であったと思うが、もう少し受講してくれればもっと嬉しいのだが…。
後期	564	プレゼンテーション演習Ⅱ	福井愛美	学内平均よりどの項目も上っており平均値が4.33とまずまずの感じである。	前回の反省から問7、問8、問11の自己評価を厳しくつけたが、今期はどれも4以上の評価だったので引き続き努めていきたい。	プレゼンⅡは課題が難しかったが、Iよりも自信がついた、ずいぶん成長したと思う、などの意見が多数あり満足しているとの意見にこちらも励みになった。	授業の最初に1分間スピーチを行い、限られた時間内に内容をまとめて話せる力や人前で話すことに慣れる訓練をしたが、その意味を見出せない学生には、理解できるよう丁寧に説明したい。
後期	565	事務機器論	藤原寛平	問12、問14で平均に足りないが「難しい」の声もあったのでやむを得ないか。全体ではプラス評価(評価4と5合計)47名、マイナス評価(評価1と2合計)17名と平均を上回ることができた。	注力しても必ず成果が出るものではないが、難しいがどうかと思っていたものでも昨年より改善が見られる(問4、問6、問7、問9など)。	エクセルの説明は良く分かったという意見とついて行けなかったという意見があり、レベルの差は大きいようだ。声の大きさに注意したい。	事務機器として操作するための知識、技能習得を狙っているが、初経験のことが多くて難しい点があるので、説明に注意したい。
後期	566	コンピュータ会計	藤原寛平	過去2年と比較し平均値が低下、中でも低下率大の項目に問3、問15がある。共に授業内容と関連は少ない？が、全体の傾向と似ており且つ、過去と異なるので、考察が必要。	昨年度とほぼ同じ項目に力を入れたつもりですが、難しい内容を易しく、聞きやすくと言う点ではまだまだ十分ではない。更なる工夫を必要とする。	内容が難しい、説明をやさしくという意見が多かった一方、パソコンは楽しくやれたの声もあった。会計を勉強するので一般に親しみは少ないが簿記の要素は外せないと思っている。	昨年と内容、範囲、配布資料は変わっていないので、平均値低下の原因は単純ではないと思うが、説明、プリント、視聴覚素材の使い方などの工夫がいると考えている。

後期	567	事務文書管理	仁平征次	全項目、学内平均を下回った。特に、問12、13、14の学生の興味や理解にかかわるところで、昨年は平均を上回っていたが、逆に今年は他の項目より、平均との差がやや大きくなったのが、学生の資質の問題か、講義内容の問題か不明である。	自己評価の上では、昨年とほぼ同じである。		科目の性格上、学生には一番興味のない分野であるが、参加型の授業を取り入れ、興味を引き出したい。
後期	568	オフィスマネジメント(経営学を含む)	仁平征次	前期と同じ科目では、いずれも、平均を大きく下回ったが、今回は1/3の項目が平均を上回り、他も平均との差が縮小した。	自己評価の上では、昨年とほぼ同じである。		事務文書管理に比べ、学生が興味を持ってそうな分野が多いので、より興味を持たせるようなテーマと教材を活用したい。
後期	569	ビジネス実務概論	畑野清司	今回は、受講希望者が多く、1年生にはお断りして次年度に回っていただいた。参加で積極心はほとんど2年生で、熱心に且つ真剣に取り組んでいたがその結果充実した授業展開が出来、高い評価が得られたものと思う。	この授業はかなり周到な準備が必要であると同時に授業中も多くのフォローを必要とする。学生の評価は昨年より高くなっており改善の努力が報われたものと感謝している。	14通の自由記述の提出があった。多くは楽しかったと書いてあるが、時間に余裕がなげざりぎりで、授業に不満のある学生もいた。	90分の時間をフルに使っての授業なので、学生の理解度や積極的な取り組み姿勢に左右されるのは当然だが、殆どがグループ作業のため、発表時間などを考えると、グループ数が少ない方が望ましい。今回25人の定員制を布いたが卒業を控えた2年生が多く、断りきれなかった。
後期	570	ビジネス実務演習	福井愛美	前期から担当した科目であり、3.96から4.06と平均値はやや向上した。	問13、14、15は学内平均より下回っており反省材料である。特に理解力についてはもう少しゆっくり授業を進めていきたい。	社会人としての常識やマナーが見につき勉強になったとの意見が多くあったが、反省材料として、教室が狭い、広い教室にまわってとの意見、また早くで進むスピードが遅いなどの意見があった。	今後は進むスピードをすこしゆっくりとし、学生の理解度を確認しながら進めていくように努めたい。
後期	571	現代社会論	中川博	授業評価の最低は「授業内容をよく理解できるよう丁寧に説明した」の3.33、最高は「学生は満足している」の4.11の隔たりをどう判断して良いのかとまどいを持ちます。	あまり大きな変化はありません。	板書に対するクレームを3名の学生からもりました。	板書した内容をレジュメの書かない学生に注意を与えたい。
後期	572	国際関係論	村井隆之	学生評価の平均値は4.18であり、教員による自己点検評価の平均値4.00を上回っている。	しかし、問12は学生評価の評点が3.83であり、教員による自己点検評価の評点を4.017下回っている。この点だけが問題である。	「自由記述」のすべての記述が授業の内容に対する肯定的内容となっている。しかし、問12の学生評価の評点が教員の自己点検評価の評点よりも0.17低いことに関する記述は「自由記述」の中に見当たらない。	「2」の項目の問題点、なかんずく問12に関する問題点の今後の検討が必要であると考えている。
後期	573	国際事情	村井隆之	学生評価の平均値は4.11であり、教員による自己点検評価の平均値4.00を上回っている。	問12、問13及び問16において教員の自己点検評価の評点が学生評価を下回っている。対前年度比較では、学生評価の評点が下がっている。	すべての「自由記述」が授業内容に対する肯定的内容となっている。しかし、この授業を全体として不満と感じた0.17の理由が何であるかについての記述は「自由記述」の中に見当たらない。	「2」の項目の問題点、なかんずく問16に関する問題点の今後の検討が必要であると考えている。
後期	574	異文化間コミュニケーション論	村井隆之	学生評価の平均値は3.64であり、教員による自己点検評価の平均値4.00を下回っている。	16問すべての項目で教員による自己点検評価の評点が学生評価を0.36下回っている。対前年度比でも学生評価がやや悪化傾向にある。	ほとんどの記述が「外国のことなどがよくなったのでよかったです」といった内容であるが、「先生一人で話しているだけで、おもしろくなかったです」、「レジュメと資料を読み上げるだけの授業がほとんどだったので、すこしねむかったです。」という記述が一つ見られる。前年度比較では、今年の方が学生評価の評点が低いように思われる。	「異文化間コミュニケーション論」は、「国際コミュニケーションエリア」に所属する授業科目である。このエリアは、平成20年度のカリキュラムからスクラップしたので、この授業科目もスクラップするべきか否か議論の余地があるのではないかと。
後期	575	比較文化論	村井隆之	16問中15問に関する学生評価が4以上であった。この意味でこの授業に関する学生の評価はおおむね良好だといえる。	16問中15問に関する学生評価の評点が教員による自己点検評価を上回っていた。昨年度と比べて、向上が認められる。	全体として、授業内容や授業の進め方に満足しているという意味の記述が目立つが、今回も白紙が多かった。	「自由記述」は、あと2、3年経過を觀察して、もし学生の記述の姿勢に改善が見られない場合は、「自由記述」を廃止することも考えられる。
後期	576	Intensive Reading	奥田 純	20人以上の受講登録があり英語の選択科目としては大人数となり、静かな環境作りにも苦労したが、学生の評価は予想以上に良かった。やや過大評価ではないかと思われる。内容の理解や技能の習得といった項目がの中では相対的に評価が厳しかった。	昨年度はIIと二つのレベルに分かれていたところ、今年度I本に集約されたものだが、大幅に評価平均値が上昇した。左記の通り、過大評価の要素があるが、テキストの内容に関する独自の質問等を入れたプリントを作成する等の工夫が評価に反映されたのかもしれない。	自由記述では、一部の学生が注意を受けてもらうべく学習の妨げになったとのコメントが目立った。	英語のリーディングは読解という要素が強くと法的な説明が多くなりがちだが、来年度は新しいタイプのテキストを使って、英会話を勉強するようにリーディングも勉強できないか(興味を持たせて、内容も理解できるように)トライしたい。
後期	577	International Communication	奥田 純	生の英語を多く聴くことに重点を置いたクラスで、リラックスして種々の身近な話題に英語で接するよう努めたが、それなりの学生の評価を得られたと思う。黙っているより、英語でしゃべりするという雰囲気を作成するため、やや教室がうるさく感じた学生も出た。	昨年度は1名の受講者であったものが今年度は20名近くの受講登録があり、環境が大幅に変わった。このため、昨年度とは比較できない。(殊に昨年度は全質問に同じ評価であったこともあり)	授業内容については概ね満足しているとのコメントが多かった。一部うるさくて聞き取りがでなかったとの苦情もあった。	リラックスした雰囲気が英語をしゃべる点では必要なので基本的には同じ授業方針を続けたいが、静かな環境には配慮を行い、内容的に学生が興味をもち英語の習得にもつながるようテキストの題材を絞り込み、独自の工夫も加えたい。

後期	578	Advanced International Communication	奥田 純	全体的にはまずまずの評価であったが、International Communicationの上級編で英語のレベルが難しかったものと思われる。	昨年度は1名の受講者であったところ今年度は4名の受講者となった。評価としては昨年度より若干上昇した。基本的にはまだ同じ傾向と理解している。	他の英語の授業より難しいというコメントが複数あった。(受講生は4名)	テキストは同じものを少なくとももう1回使用予定だが、題材は絞り込んで、英語のレベルが難しくなりすぎないように、また内容的に興味をもてる授業方法も工夫したい。
後期	579	Media English	奥田 純	全体的な評価は良好であった。うるさくする学生も皆無で授業環境も良好であったが、授業内容の理解や関心度という点では改善の余地がまだあると思われる。	昨年度より受講者は倍増して10名程度となったが、評価点は上昇した。板書の適切性、授業内容の理解等(問12~14)について評価点がかかなり向上した。	難しかったとの声もあったが、和訳の配布や工夫で内容はよく理解できたとのコメントも得た。	来年度はテキストのレベルをワンランク下げる予定だが、学生が内容を理解しやすいように、また英語で文化、社会的な題材を読むことに興味をもてるよう工夫したい。
後期	580	Travel English	奥田 純	このクラスはどの項目もほとんど同じ評価で評価点平均に近い値で、今年度後期開講した英語5教科の中で最も良好であった。授業の難易度が相対的に一番評価点が低かった。	本科目は今年度から担当となったもので昨年度との比較はできない。基本的に英会話の範疇に入る授業で、観光、旅行というトピックに絞り込んだ内容。ビデオ視聴による実践的な内容が学生の評価につながったと考えられる。	他の英語の授業より分りやすかった、海外に行って役立つ内容でよかったというコメントを得た。	評価は良好であったが、ビデオがやや古いこともあり来年度はテキストを変更予定。DVD視聴の学習方法をその予定だが、実際の英語の習得ができるよう工夫したい。
後期	581	ホテル・レストラン学	小野清和	自己の評価より学生の評価が上回っていた項目が8項目。平均より上回っていた項目が8項目。大きな声で分かり易い授業と・難易度レベル・総合的にこの授業を受けて満足していると思う箇所の評価が自己・学内平均より上回っていたので満足している。	今年の学生は興味を持って聞き・質問や発言が積極的な状況だった為授業が楽しく出来た。	サービス業って奥深く簡単に思っていたけれども勉強すればするほど難しい事が良く分りました。との意見が多かった。	今後はもっと現場の状況を動画配信にて何故そうする必要があるのかを徹底して教えてモチベーションの切り替えの大切な・自分の仕事がかかのの人に与える影響、自分の仕事の社会的な意義や役割は何かと言うサービス業本来の人を中心としたビジネスの本質に触れて行きたいと思っています。
後期	582	プライダル総論Ⅱ	小野清和	学生の興味がある分野であり一度はやって見たい仕事であると思います。もっと内容的に分かりやすくパソコンのパワーポイントで紹介して行きます。	黒板を今年は使用致しましたが評価からみて、今後は一昨年と同じように内容的に分かりやすくパソコンのパワーポイントで紹介して行きます。	自分たちが必ず経験する事ですが簡単に思っていたけれど歴史・地域によるしきたり・意味など良く分かった。自分の場合にはこんな事してみたいと言う自分の意見が多く見られた。	学生の興味がある分野だけにプライダルアシスタントコーディネーター(ABC検定)資格を全員合格が出来るように徹底周知いたします。
後期	583	観光学	西川 博	本年の学生は、あまり反応しない学生が多く、わたしが思った以上に授業には関心を持っており、よく聞き取ろうとしていたことが感じられました。	昨年に比較し、視聴覚教材を若干増やしましたが、それについては好意的な評価が出ているように思われます。いつ、どの時点で、授業の展開の中でどのように入れるかということはまた工夫していかなければなりません。が、板書・スピーチ以外の多面的な授業展開は常に考えていかなければならないことだと感じました。	自由記述に関しては若干のコメントがありましたが、学生にとつてはトータルで記述するのがむずかしいようです。いくつかの点に絞ってコメントを求めたほうがいいのかもしれないと思いました。	ポイントを押さえ、ゆくりと話す工夫も必要なのかと思いました。授業展開に関しても様々な工夫をこらすことで、学生の理解・関心があがっていくのではないかと痛感しました。アンケートも踏まえ、創意工夫した授業展開をしていけるように今後も努力していきたいと思っています。
後期	584	中国語会話Ⅱ	沈揚	学生評価はすべて学内平均より高い、特に1・2・8・9・10・11項目だった、うれしいです。	自己評価は前年度より低くしたので、学生評価と学内平均を下回っていました。	学生は「勉強したら中国語も面白いなあ、もっと早く勉強したらよかったね」と言ってくれましたので、こちらも感無量でした。	世界中もとても数多い人々が使っている言語ー中国語、学生時代にその学びチャンスを与えてあげれば、将来ビジネスに、留学に、海外旅行などさまざまな面で役に立っていきませんか？
後期	585	韓国語会話Ⅱ	張 愚診	自己評価に上手い出来たと思った項目に関しては学生評価には予想より低く評価されたことや自己評価に上手い出来なかったと思った項目に関しては学生評価には予想より高く評価されたことが結果として出ました。特に、シラバスに書いたとおりできなかったことや授業の進行速度の非適正であることが今年の授業方式の問題点として見つけられました。反省し、より学生向けの授業ができるように努力します。	突然に、後期に担当された授業であり、不足した授業評価でした。また、次期にこの評価に基づいて自己点検評価を行います。	何よりも、授業が楽しかったと言う学生が多かったので先生として嬉しく思っています。それで、韓国語にちょっと興味を持つことができ、これからも勉強を続けたいと言う学生もいたので先生として自信を持ってくださいという学生もいました。	シラバスに基づいた授業の進行速度を維持し、より楽しく授業ができるよう、また適性が高い教材を使ってより易しい授業が出来るように頑張ります。
後期	586	社会人としての自己表現とマナー	奥田玲子	2つの項目を除いて全て学生評価が4.0を上回る高い評価を頂いた。学生の興味と熱意の項目と教室の大きさ・設備の項目がわずかに4.0を切った。今年度はインターンシップ参加者が少なく、目的意識の十分な学生も受講したのではないかと考えられる。	教室の設備以外全ての項目で、自己評価より学生評価が上回っていた。昨年の結果と比較して、授業の声、話し方教材の使い方の項目に改善が見られた。	社会に出て役立つこと、新しい知識が得られたとする記述が多かった。「自己表現」についての解説が少ないとの指摘もあり、次年度以降の授業で改善していきたい。	現時点での、この分野に関する学生の興味を把握した上で、学生が熱意を持って授業に参加できるよう、授業内容、進め方を工夫する。
後期	587	インターンシップ	村井隆之	実習なのでデータなし。			

後期	588	社会人としての一般常識	ライフデザイン総合学科の全専任教員(本項の文責・村井)	16問すべての学生評価の評点が学内平均を下回っている。授業の前半7回は英語・数学・国語・社会に関する一般常識の学習、後半6回は日本語コミュニケーション能力の開発、最後の2回は「日本語コミュニケーション能力検定試験3級」及び近畿地区短大統一テストの受験に当てた。後半の授業はおおむね好評であったが、前半の授業は学生のトラウマ乃至劣等意識を刺激したため極めて不評であった。このことが学生評価の低得点に反映していると考えられる。	16問すべての項目について教員による自己点検評価の評点が学生評価を下回った。昨年との比較では、今年の方が学生評価の評点は低い。これは学生の側に問題があるのか、あるいは教員の側に問題があるのか、一考を要する問題である。	一般常識の授業は「難しかった」「わかりにくかった」「いやだった」などの意見が多く記されている反面、日本語コミュニケーション能力開発の授業は「面白かった」「ためになった」など肯定的な意見が多い。なお、『自由記述』は授業担当の全教員に回覧したが、どの教員の感想も同様であった。なお「自由記述」については、前項(「比較文化論」と同様である。	来年度は、授業内容の重点を、英語・数学・国語・社会の一般常識の学習から日本語コミュニケーション能力開発に移行させる方向で教員間の意見調整を図っている。
後期	589	職業の心理	近藤淑子	6名の履修申請はあったが、実際に授業に出席していたのは1名であった。一人の評価なのですべてが5であるが、これは正当な結果とはいえないと思う。もちろん、受講者は正直に評価してくれているとは思いますが、この結果を一般化する事はできない。	一人の授業なので実状に合わない質問項目もあった。これらの項目は自己評価では3にしていた。ただ学生は5とつけていた。	一人の授業ではあったができるだけ授業らしくないよう工夫した。このことに受講生は応えてくれた。	来年度はこの授業はなくなるので、改革する事はできません。

付表3 教員による自己点検報告書(介護福祉学科)

前期・後期	授業コード	科目名	担当者	1. 学生による授業評価調査の集計結果について	2. 教員による自己点検結果について -昨年度の結果と比較して-	3. 学生の自由記述についてご意見があればご記載下さい	4. 2と3の結果より今後の改善点について
前期	301	生活環境論	汐見信行	私の意図するところが十分理解できていないのではないかと感じる。出席率はきわめて良いが、講義のスピードと難度についてこれない学生が多い。実習に比して講義はすべて評価は下がるであろう。	1年生、初の学科生と言うことで私なりに配慮した点は80%くらい通じたようだ。教材、講義、内容は多すぎたか？今後の課題である。	結構書いてくれた。おおむね好評な意見。社会人学生は成績も良く、私の意図は授業後半、完全に理解してくれたようだ。	1年生と社会人入学生との取り組みに関する整合性がなかなか難しい。講義内容は絞り込んで、減らしてみたい。
前期	302	生物学	坂口守彦	授業内容はさほど難解とは考えられないが、理解度、満足度などが学内平均をいくぶん下まわっていた。本科目は理科系科目の中で重要なものであるから、授業のはじめにこの点を強調する必要がある。また授業の過程で難解なところが出現しても授業後に質問したりして十分に内容を把握してほしいものである。	高校の授業ではなく、大学の授業であることを強調しつつ、毎回十分に準備し、できるかぎりの努力をした(したがって自己点検評価は高い)にもかかわらず、学生にこちらの熱意が十分に伝わっていない。この点が極めて遺憾なところである。	毎回プリントを配布して授業を進めた。授業内容が難解である、授業に関心を持たせるような話し方ではなく独りよがりな口調である。授業内容の要点がはつきりしないなどの指摘があった。こちらの気づかないところを指摘しているので、自由記述は重要な項目であり、今後も継続の必要を認める。	授業にはプリント(図や写真はモノクロ)を使ったが、カラーの方がみこたえがあるので、投影機が使える教室がのぞましい。次回から授業内容を部分的に変更して理解度の向上をはかる。
前期	303	運動と健康	千住真智子	本年度から開講された授業であるため、学生の受講状況も予測がたてられず、予定していた内容進行をそのときそのときで修正していた。そのため学生にとって困難な点がなかったのか心配していたが、集計結果から見て充分ではないが困難な点は無かったことが何え安心している。	昨年度と比較することはできないが、今回明確になった問題を十分に検討し、内容、進め方をさらに工夫する必要があると思った。	学生には励まされる意見を多数届けてくれたことに感謝している。学生にとって有意義な学習内容と機会が提供できるように努力したい。	
前期	304	人間論	吉井珠代	学生からの評価は、ほぼ学内平均だった。項目別にみると、「授業内容の理解度」、「授業の関心度」が学内平均を下回っており、次年度の授業計画の参考としたい。	教員自己評価5.0に対し、学生の評価が3.65と最も乖離しているのは「シラバスに沿った目標や内容」であり、学生に理解されていないことがわかった。今後、授業評価記入時には改めてシラバスを確認させるなどの必要があると思った。	自由記述では、配布資料や視聴覚教材が適切で、参考になったという意見が多く、創意工夫したことが評価されたと考える。	授業期間中に何回か授業アンケートをとりながら授業内容を微調整していたが、つい一部の熱心な学生の「満足」「次が楽しみ」といった高評価に応えようという力が入りすぎ、多くの学生のレベルに合っていないかのようにある。次年度の課題である。
前期	305	くらしと音楽	仲宗根 稔	学生は概ねいい評価をしてくれたが、こちらの意図が充分反映されていない項目もあった。知識や技能など学びへのモチベーションを高める必要を感じた。	今年度からの担当科目のため、比較してのコメントは出来ないが、自分に対し甘い評価をしたことを反省する。	平易な課題には興味を示してくれたが、難易度が高くなっても学ぼうとする気持ちを持ち続けて欲しい。	音楽が自分だけの楽しみに終わらず、介護の現場で少しでも役立つような授業内容に工夫を凝らしたい。又学生の反応を見ながら柔軟な対応ができるようにしたい。
前期	306	英会話	井上泰子	介護福祉学科の選択授業で、受講者は3名であった。毎時間、学生の興味と関心のあるトピックを選び、英語の歌や遊びを取り入れ、楽しみながらの授業であったので、おおむね満足してもらえたようである。	創設されたばかりの学科での新しい取り組みであったので、学生の反応を見ながら、シラバスにとらわれず楽しく積極的に参加できる授業を目指した。日本の文化や生活習慣を中心に、身近な内容をトピックに選んだ。基本的な会話表現を習得し、英語学習の楽しさを感じ取ってもらえたと思う。	3人とも、授業が楽しかったとのことである。試験がんばりますという意思表示もあった。	選択授業で、自由にのびのびと授業ができ、自分も大いに楽しむことができた。英語が苦手だった学生も自信が持てるようになったようである。来年度、人数が多くなった場合、どのような内容でどの程度のことをやるのか、目標の設定が難しい。まず、学生の実態を把握することから始めなければならない。
前期	307	社会福祉概論	名和月之介	新設の介護福祉学科でしかも少人数のクラスで、学生は比較的にこちらの意図を受け止めてくれた物と思う。学生の評価を今後の授業に反映するように努めたい。	今年度新設の介護福祉学科であるので割愛する	学生の「自由意見」はそれだけ真摯に授業に望んでくれる物と思われ、今後の授業にできるだけ反映させたい	教育に早道はないと思う。時間はかかるが地道に根気よく努力を継続するように心がけたい
前期	308	老人福祉論Ⅰ	山戸 隆也	本学の諸先輩が日頃から学生に携ってすばらしい授業をされていると感じ、力不足を補うべく努力がますます必要と申しました。	丁寧に解りやすく授業をしていく努力が必要と思いました。本学の学生にとってどのような授業を行うべきか考え少しずつでも自己を高めていきたいです。	一人一人の自由記述をすぐにご覧いただくことができたので、その後改善すべき点が明らかになり良かったと思います。	老人福祉論の内容をどのように教えるかを事前にもっとしっかり考えておくこと。そして、解りやすい例え話としても興味深い事例などを織り込んで工夫していくこと。
前期	309	レクリエーション活動援助概論	橋本顕寛	自己評価と学生評価・学内評価がほぼ同じであった。特に気になる部分はありませんでした。	自己評価と学生評価がほぼ同じであったが、1年生前期の科目のため、介護の専門的知識が必要な講義になると理解が困難になる。対象者の知識を十分学習していない中、認知症や寝たきり又は障害者へのレクリエーション援助の講義は理解が不十分なままになっていたと思われる。	特に学生から改善の要望等ありませんでしたが、介護福祉科へ入学間もない時期であることを、私自身が認識し、授業を進めるよう留意したい。	利用者の生活を支援する介護福祉士に必要なレクリエーション援助の知識・技術を、介護実習経験のない学生に、理解しやすい講義内容になるよう資料等の活用で工夫していきたい。

前期	310	家政学概論Ⅰ(食生活)	林真千子	学内平均にやや満たないところがある事と、学生と自己間との評価差がある点につきましては来年度改善する必要があると思います。	学生の授業を受けた満足度では、半数の人がどちらでもないと感じています。やはり、満足感のある授業を行う事が大切であり、教員の使命であると思いますので、今後の課題として取り組みたいと思う。	自由記述に多くあった板書の量や早さについては、今後視覚教材を用いて改善を図ること、早さについては、学生のスピードにあわせるように努めて行きたいと思っています。	学生の理解度を深め、興味が持てる授業にするため、今後視覚教材を使っていい必要があると考えます。
前期	311	家政学概論Ⅱ(家庭生活の経営と管理、被服生活、住生活)	伏木真理子	総合的にみた満足度は、自己評価より学生評価のほうが高かった。しかし、声の大きさ、聞き取り易さ、速さでは、学生評価のほうが特に低かった。授業の難易度、進行速度の適切さでは、学生評価のほうが高かった。これに関連して、内容の理解度も学生評価のほうが高くなっている。意外な結果だったのは、興味、熱心さについての学生評価が高かったことである。	(今年度から開講の授業のため、昨年度のデータ無し。)	声が大きくて聞きとりやすかったけど、教室を動きまわって嫌でした。先生は少し早口なので、おちついて授業してもらう方がうれしいです。説明してくれるのはよいのですが、途中で話がかわたりするのでわかりづらい時もあった。(原文のまま。)	声の大きさ、聞き取り易さ、速さは、内容の理解にも大きく関わるものなので、改善したい。今学期は、マイクを使わずに話すことが多かったので、マイクを使用するようにしようと思う。授業の難易度、進行速度は、もう少し上げたいと思うので、それに伴って理解度が下がっていないか気をつけたい。(特に発展的な内容を説明する時は、学生にとっては話が飛んでいると感じるおそれがあると思うので。)学生は授業に対して興味を持っているが、おとなしく、密やかに燃えているようなので、授業の雰囲気もそれに合わせてみようと思う。(現状では、興味を引き出そうと、また寝ている人は起こそう、私語をしている人には注意をしようとして、教員のほうが熱くなりすぎているところがある。)
前期	312	医学一般Ⅰ(人体の構造と機能)	山野雅弘	概ね学内の平均よりよい評価をいただいたが、板書では自分でも文字が下手と自覚しているので今後丁寧な文字を書くようこころがける	今年度からの就任なので	板書時、丁寧に文字を書くよう気をつける。	ハード面ではとても充実しているので、これらをフルに活用してもっと学生の興味を引き、わかりやすい講義を目指したい。
前期	313	介護概論Ⅰ	吉井珠代	かなりの項目に5をつける学生が多い反面、1をつける学生もいて、学生評価に大きなバラツキがみられた(全体的には学内平均をやや下回った)。概論系の講義は抽象的な概念や倫理などを教わるので、入学まもない時期の学生にとって、かなり難解だったためだろうと考える。		ビデオ教材や、説明が具体的に理解しやすいという好意的な意見が多かった。しかし、私が担当する他の科目の内容と混同した記述をする学生もかなりいて、反省させられた。	学生の理解を得るため、“わかりやすい事例や説明”を多く取り入れる必要があると考える。
前期	314	介護技術Ⅱ(居住環境、着脱)	榊原和子	学生からは予想以上によい評価を頂いている項目が多かった。しかし、問17の「授業中の技能や実技の指導は適切であったと思う」評価が3.96ポイントであったにもかかわらず、問20の「授業の内容は技術や実技の向上に役立ったと思う」が4.31ポイントと差があり、全体的な精査の必要性を感じる。	できず。	全体的な意見として、「熱意が感じられる」と言う感想が多かったが、授業時間が不足していたことが理由のこともあり、今後授業内容と時間の使い方に工夫の必要がある。	できず。
前期	315	介護技術Ⅲ	中家洋子	学内平均とほぼ同じ評価であった。授業への興味や理解度は教員の評価よりも高く、思った以上に興味を示しており、嬉しいことである。介護技術Ⅲは、演習の助手として関わったが、難易度、理解度が平均よりやや低いのは事前にどのように学生に伝えるか教師間で共通認識できていなかったかもしれない。	知識、授業内容の理解については、自己評価を上回っており、学生は理解していると評価している。だが、演習や試験の結果は低く、学生と教員の目標設定に異なりがある。	学生からは、具体的な事例をあげて、説明があり理解しやすかったとの評価があった。反面、もう少し時間をかけてゆっくり進めてほしいとの希望もあった。	介護技術Ⅳでも触れたが、技術については、1度だけの実施では理解につながらない。限られた時間内での講義と演習では、学生の満足度が低く、繰り返しでの技術指導や全体の時間配分、他科との連携を考えていきたい。
前期	315	介護技術Ⅲ	植北康嗣	総合的には予想以上によい評価を受けたと感じている。ただ、演習科目ということもあり、授業の中で体験や繰り返し練習する時間が限られているため課題の量や取り組む時間に不足を感じているようだ。	教員の指導姿勢に対して、授業を受ける学生との間に印象にずれがあった。特に質疑に対しては、こちらが思っているよりも答えられていないという結果となっている。ほとんどが授業時間内での質疑対応となっており少ない時間なので、疑問を解決できていないようだ。	1でも述べられたように、演習時間がもう少し欲しいや少人数にしてほしいという意見があった。あと、一部には厳しいという意見とその反対に厳しくされているので集中して学べるという二つの意見があった。	演習時間が少ないことに関しては、座学の時間を見直したり、準備をスムーズに行うことで演習時間の確保に努めたい。しかし、それだけでは演習時間の確保は極めて困難なため2クラスに分けて授業を行うことが必要と考える。質疑時間については、授業時間外での対応や毎回の記録用紙を通じて回答できるようにしたい。あと、指導については緩急をつけて、集中できる授業の組み立てを意識して今後も取り組みたい。

前期	316	介護技術Ⅳ	中家洋子	演習授業の性質上学生の興味は高く、その結果が評価に表れていると思う。全体として学生の満足度も高いものとなっているが、少数意見として「そう思わない」があり、個々の学生のニーズと理解力に合わせた指導の必要性を感じている。	昨年度との比較はできないが、授業は、「熱意をこめて学生に理解しやすくを目標に努力している。自己評価とほぼ同じ、若しくは学生の熱心さや満足度の高得点はうれしいものであった。ただ、わかりやすい授業を目標に置いているが、板書はいつも学生より評価が低く課題である。	「楽しい」と答える学生がほとんどであり、興味をもって臨んでいることがわかる。だが、楽しいだけでは、学びにならないので理論と実践が繋がる授業を工夫したい。また、少数であるが「少し早い、何度も繰り返し実施したい」という意見がある。	技術については、1度だけの実施では理解につながらない。限られた時間で講義と演習を効果的に組み立てる必要がある。介護技術全体の時間配分や連携を考えていきたい。また、一人ひとりの理解度がことなる為、個々の理解できていること、できていないことを評価シートなど作成し把握していきたい。板書については意識して改善したい。
前期	317	形態別介護技術Ⅰ	吉井珠代	ほぼ全項目に対し学内平均を上回る評価が得られ、ほっとしている。1年前期の厚労省指定専門科目であるため、学生にとっては初めて耳にする専門用語・知識が多い授業であるが、体験学習やグループ学習を効果的に取り入れた結果であると考ええる。		難しい専門用語の説明が分かりやすく、新しい知識が増えたとの記述が多かった。また、発表の機会を多くしたので、徐々に恥ずかしさが軽減したとの好意的な感想もいた。	授業に対する「熱意」は十分伝わったようだが、「早口なためついて行くのが大変」の記述もあり、話す速度をゆっくりするよう心がけたいと思う。
前期	318	介護実習指導Ⅰ	中家洋子	実習につながる重要な授業であるが、学内平均よりやや下回った結果となった。他の教科との関連が特に必要な教科である。学生は、実習のイメージがわからない中での授業であり、工夫の必要性を感じている。	昨年度との比較はできないが、授業は、全教員がゼミ方式でかわる授業であり、教員間の統一した目標の重要性を感じた。また、前期は2週に一度の授業であり、前回の授業との関連が分かりにくかった事も考えられる。	「実習の動機付けになった」と目的を評価する学生もあつたが、「難しく理解できなかった」という意見が多く、全教員がゼミ方式でかわる難しさを感じた。通年の授業であり、学生の意見を真摯に受け止め後期の授業を組み立てたい。	実習指導は、介護福祉士において主となる重要な授業であり、また、他科との関連が必要な科目である。学生が興味を持って授業に臨めるように、授業の構成を職員間で考えたい。
前期	318	介護実習指導Ⅰ	榊原和子	今回の学生の評価は妥当だと思う。理由として、入学して間もなく、実習を実感できていない中で授業を展開したにも拘わらず、少しずつ実習に関心を持ち、意欲を示してくれたことはゼミ形式で行った結果で、今後(後期)につながる基礎となったと考える。	できず。	学生が実習に不安や期待を持っていることや、具体的に不足している学習内容が理解でき参考になった。	できず。
前期	318	介護実習指導Ⅰ	山戸 隆也	実習指導では常時教員が6人いるので、準備を十分に行い、もっと解りやすい授業を行って行きたいと思っています。	今年からスタートであり、自己を見つめ直し、「よく分かる授業」を提供していきたいと思っています。	意外とグループでの学びが好評であった。ただ、6人の教員が担当しているので、学生も遠慮している面もあると思うので、ますます力を付けていきたい。	学生がどの程度のことを知り理解しているかについてもっと良く把握していくこと。さらに、学生一人一人の個性についてよく知り、実習に生かすことを考えた授業を行うこと。
前期	318	介護実習指導Ⅰ	石川 肇	教員のチームワークが大切な授業だと思いますが、初めての経験のため、思いと実態の乖離があったと思います。		グループでの学習が好評のようです。内容が深まるような開わりや支援ができなかったことが反省です。	学生が意欲を持って実習に臨めるよう授業内容をより具体的な内容の提示によってすすめていきたい。
後期	601	くらしと法(人権、関係法規を含む)	沼口智則	全体として大きな問題はありませんが、こちらの自己評価と学生評価が問1から4まで少し開きがありました。	自己評価と学生評価の食い違いは、問1から4で言えば声や説明やシラバスどおりかや準備と工夫などであるが学生平均が4であるのに対し自己評価が5と言うことで、自分が考えているほどには充分評価されていない。もう少し謙虚に反省し学生の側に立った工夫や準備をしたい	特になし。	こちらの情熱や熱意や準備や工夫が100%伝わらないとすれば、伝わる努力や工夫をこれまで以上に行う必要を感じます。
後期	602	日本語表現法	益田昭子	学生からは予想以上によい評価を頂いた。学生数が少なく、しかも一度単位を落とした学生ばかりだったので、何とか理解させ、合格させたいとの思いが強かったので、かなり学生が頑張ってくれ、理解してくれたことを嬉しく思います。		特になし。	今後はありません。
後期	603	情報基礎	飯田慈子	今回の授業は、年齢の高い社会人学生との速さのギャップや、社会人学生の方々が、座学とは異なる授業形態のため、若い学生諸君に及ぼす影響に悩み続けた。若いからこそ社会へ出た際要求されるスキルに耐えられるよう若い学生諸君にはハードルの高い課題を設定し、社会人と若い学生諸君とに課題のレベル差を設けた点について、学生が理解するよう説明義務を怠ったため、こちらの熱意などが伝わっていない結果となっている。この結果はもともたなものであると考えられる。また、この結果や、自由記述に、差別したことについて、若い学生諸君が、非常に芳しくない印象を抱いていたことが書かれており、本当に自分が取った判断は良かったのかについて、自信が持てない。	自己評価において、若い学生諸君には、就職時の要求に耐えられることに重点を置いているいろいろ策を練ったが、左記の通りの理由でこちらの思惑が伝わっておらず、学生諸君の評価は自己評価を下回っている。これについても、妥当な評価だと思ふ。今年は、もう一度、若い学生諸君には、やはり若干高めハードルを設け、これについては、彼らが十分理解するよう、そのねらいについて説明義務を果たしたいと考えている	左記のとおりです。	今後も、レベルダウンをして平等に扱うべきかを悩むところではあるが、やはり若い学生諸君は、コンピュータスキルに対して社会が容赦なく要求を投げかけてくるのは必定で、社会人学生諸君との差別化は避けられないと考えている。このため、少しでも学生の理解が得られるよう差別化の必要性和ねらいを説明していきたい。

後期	604	社会福祉概論Ⅱ	名和月之介	こちらは努力したつもりであるが学生の評価は総じてきびしいと思われる。国家資格である介護福祉士養成のテキストにおける教科内容は難しいものであり、それをどうやって第1学年の1年間で伝えられるかが今後の課題である。	今年度が開始年度であり昨年度と比較できない。	学生から板書のとり方が難しいとの批判が見られ、後期こちらでレジュメを作成配付した。それも良し悪しで、学生が筆記するのを省くようにすると、集中力が欠ける面も出てきやすい。	平成20年度は各授業においてなるべくワークシートのなものを取り入れ、介護福祉士国家資格の受験ということを絶えず学生に意識してもらいながら授業を進めたいと考えている。
後期	605	老人福祉論Ⅱ	山戸隆也	わかりやすさ、適切な進度などをより考慮して今後授業を実施していこうと思います。介護福祉士養成課程における老人福祉論は、一般に学生が理解しにくい内容が多いようですが、充実した時間を学生にすごしていただくよう心掛けたいと思います。	学生評価が自己評価を回っていた項目と、下回っていた項目が半々でした。授業の終わりに学生に書いてもらっているふりかえりには、「わかりやすかった」という記述が少なくなかったのですが、数字では良くなかったので、反省しております。	予想とは違い好意的な内容が少なくなりました。グループでの話し合いについては賛否両論でした。課題をより丁寧に提示する必要があったかもしれませんが、反省点です。新聞記事や自作のプリントを使っている授業は、わかりやすかったです。	ことばの語尾があいまいな時があるのを、伝えたいことをより明確にしていきたいと思います。また、グループでの話し合いについては、授業の理解度がやや悪いため、内容を基礎的なものに変更し、学生がもっと意見を出しやすいものにしていくよう努めます。
後期	606	社会福祉援助技術	山戸隆也	全体として、評価がおもわしくなかったように思います。テキストを主体として授業を行っています。それが尾を引いてしまっています。問10に関しては、石川先生は質問に丁寧に答えになってはいたのですが、数字には出ておりません。	教員による自己評価は、今回は担当回数に大きな差があり、石川先生に行っていた良かったです。介護福祉学科の学生にとって、内容がなじみにくい項目(ケースワーク等)に関する専門的内容)も少なくないかと思えます。	グループワーク、コミュニティワーク、スーパービジョンについて担当させていただき、学生の記述内容が率直に言って、自分自身が改善すべき点を指摘されているのかはわかりません。ただ、貴重な意見として参考にさせていただきます。	テキスト主体ではなく、もっと福祉現場での話や学生にとって身近な話を多用すれば、よいかと思います。この科目においても、介護福祉学科の学生にとっても、興味深く、取り組みやすい内容を実施していきたいと思えます。
後期	606	社会福祉援助技術	石川肇	教員の自己評価と学生評価に差があり、驚いています。授業をわかりやすくする工夫はしたのですが、それが伝わらなかったようです。	今年度よりの授業ですので比較できません	具体的な事例を交えた授業はわかりやすかったです。板書について、字が汚いとの指摘がありました。	具体例の提示や、板書方法の工夫、OHPの活用などを図り、理解しやすい授業となるようにしたいと思えます。
後期	607	レクリエーション活動援助各論	弘中陽子	ほぼ学内平均と同様の評価を頂いた。中でも、声の大きさや話す速さ、適切な板書については、平均を上回る評価であった。しかし、授業内容のレベル、技術や知識の習得の項目では、平均を下回っており、今後の課題とするところであると理解した。	自己評価が高い項目における学生評価は、他の項目と比較すると、若干ではあるが高い結果ではあったが、全体的に下回っているものばかりであった。授業内で意識して行なっているつもりではあったが、学生に対してうまく伝わっていない結果であると受け止めた。	自由記述の記載がなかった。この授業評価を行なう時の時間的なゆとりに少し欠けしてしまったところがあり、今後の時間の確保をきちんと行なう必要があると考えている。	授業内での技術の習得や授業に対する関心の低さがみられるので、出来る限り実践的な場面の展開を多くし、また現場での声や教材の工夫を行い、レクリエーションに対する関心を高められるよう創意工夫に努めていきたいと考えている。また、課題に取り組む時間配分についても、全体の授業配分、進行状況との兼ね合いから検討していきたいと思っている。
後期	608	家政学実習Ⅰ(栄養と調理)	林真千子	総合的に見て、満足している学生が多かったこと、そして、本教科の学生評価と学内平均がほぼ同じくらいであったことについて安心致しました。	実技指導及びテキストやプリントの適切性についての自己評価と学生によるものが、同様であった事が良かったと感じました。しかし、こちらが必要と判断し、指示した課題の量が多いという学生が数名あり、またそういったことから、提出しない者が出てくるという問題がありました。	実習の出来具合を各班ごとに説明が欲しいという意見がありました。時間的なことから、試食した班と全体に対するコメントしかできませんでした。しかし、今後はなるべくできるように、努めていきたいと思っております。	レポートに対する問題については、今後、レポートの量と内容について見直すこと、また、提出しない者に対して、何らかの対策を考えていくようにしたいと思っております。
後期	609	家政学実習Ⅱ	伏木真理子	丁寧な説明、十分な準備と工夫という点で、学生評価と自己評価の隔たりが大きかった。態度の悪い学生への注意・集中できる授業作りでは、学生評価と自己評価は一致しているが、学内平均より低くなっている。意外だったのは、学生の授業に対する興味、熱心さの学生評価が、自己評価より低かったことである。	(今年度からの授業のため、昨年度のデータ無し。)	焦らず、ゆっくり喋ってほしいと思うことが何度かありました。授業中は先生がてんばっているという印象がとても強く見ていて大丈夫かな?と思いつつも楽しかったです。実習の説明に時間がかかりすぎて作業する時間が少なかったと思います。先生の熱意は伝わってきました。ただ実習においては、補助的な人材をつけた方がよいかと思えます。全て一人で対応されようとするので、大変だと思いました。(原文のまま)	実習のため、かなりの時間をかけて準備し授業に臨んでいるが、教員だけが空回りしている結果となり、また書画カメラも活用し示範も交えて説明しているが、学生に伝わっていない結果となっている。今後は授業の準備の部分にもっと学生も参加してもらおうと思う。実習に使う機器類は今年度初めて使う機器も多く、教員が操作に不慣れであったためにも影響していると思う。態度の悪い学生に対する注意はより厳しくしていこうと思う。教員から見れば、学生は興味を持って熱心に取り組んでいたと思うのだが、後期になり、学生も学校には慣れた反面、それが興味や熱心さを低下させる時期でもあるので、今後はそういった面にも配慮して授業を考えたい。
後期	610	医学一般Ⅱ(高齢者を中心とした病態整理)	山野雅弘	学内平均値より高く評価しているものが多くよかった、板書は文字が汚いので妥当な評価だと考える	今回は自己評価より学生の評価が高いものが多く、よかった。授業の熱意をもってやっているつもりであるが、学生評価が学内平均より低いことはややショックであった。	医学に興味をもてた、とか難しい医学をわかりやすく解説してくれたなど、概ねいい評価を書いていただいていたが板書の文字がきたないという意見がたくさんあった。来期はそこをより気をつけます。	熱意をもって授業に取り組んでいるように感じてもらうのと、板書をもっと丁寧に書いていこうとおもいます。

後期	611	介護概論Ⅱ	吉井珠代	質問項目の6割が学内平均を上回り高い評価を得てほっとしている。当該科目は、前期にIがあり引き続き担当しているので、通年科目のつもりで、前期の授業評価を参考に改善・修正を図りつつ実施したので、今回の評価では全項目とも前期より高い評価点を得ることができた。	前期の授業評価で点数の低かった問10、問12、問13を意識しながらわかりやすい説明、毎回授業のねらいを明確にするなど授業方法を工夫した結果、全項目0.3～0.6点上昇しており、改善の効果が出ているものと分析している。	「ビデオ教材が適切で興味が増した」「解説が具体的でわかりやすい」など、好意的な意見が前期に比し増加した。特に、私自身、発問を工夫して学生の理解を促す努力を重ねたが、「毎回学生に問いかけて理解したかを確認してもらえて嬉しかった」と受けとめられており、胸を撫で下している。	口述筆記させる場合に、早口でついでいけないと訴える学生が1～2名いるので、少しゆっくりと話すことを心がけたいと思っている。
後期	612	介護技術Ⅰ	吉井珠代	すべての項目において、学内平均を上回る評価が得られほっとしている。特に、問2、問7、問10、問20は、4.40という高い評価点であった。	当該科目は実技・演習系科目であるため(実習室の設備機器に限りがあるため)、学生の体験すべき事柄を細かく時間配分して、板書するだけでなく配布資料で実技手順を示すなど授業準備を密にして臨んだ結果、学生に満足感を与えられたものとする。	問1～16の講義、問17～20の実技演習の両方に学生の満足度は高かった。「わかりやすく興味が増してよかった」「学生の意見を求められるのでほっとしていられない授業で楽しかった」「実習直後に学生に学びを整理してくれて他で、介護への関心が強くなった」などの好意的な意見が大半であった。	学内における介護実習室での実技演習に多くの学生が興味を示してくれているので、次年度は実技体験の機会を多くしたいと考えている。
後期	613	形態別介護技術Ⅲ	榊原和子	多くの項目で学生評価と自己評価に差が見られた。自分では聞き取りやすいように心がけているが、話に集中すると早口になることもあるので注意したい。また、授業環境を整えると共に、教材を工夫してもっと興味を引き付けられるようにしていきたい。		11月の実習に役立つという意見が多かったが、もう少し早いうちに学びたいという意見もあった。今後、進め方を検討したい。 ・認知症について、もう少し時間をかけて学びたい。今後、この科目では時間数に限りがあるため他科目でのフォローや別の学習機会なども考えたい。 ・今のままで良いが、ビデオをもう少し増やして具体的に理解したい。今後、時間配分を検討して更に視聴覚教材を取り入れることも考えたい。	学ぶべき項目が多い科目なので、足早に進めてしまうことがあったと思います。授業の項目を改めて振り返り、学習内容の優先順位を再検討していきたい。あと、学生にとつての聞きやすさと理解のしやすさについて、事前にシミュレーションを重ねたいと思います。
後期	613	形態別介護技術Ⅲ(肢体不自由者及び居宅での介護)	榊原和子	学生からは、予想以上によい評価を頂いた。しかし、自己評価と学生評価に差がある項目がいくつかあり、次年度から留意していかなければならないと考える。	昨年はありません	概ね良い意見が多く見られたが、さらなる授業内容の検討をしてゆきたい。	学生の向学心を高めるような授業内容にこころがける。
後期	614	介護実習指導Ⅰ	植北康嗣	授業運営に際し、学生の主体的な取り組みを促すようにしたが、一部学生には十分に趣旨が伝わらなかったのかもしれないと思う。		複数担当の授業運営の難しさを指摘されたような気がする。	教員間の意思を確認しつつ、役割分担を明確にすることで、学生に不安や混乱をもたせないような授業にしていきたい。
後期	614	介護実習指導Ⅰ	山戸隆也	平均的な評価で、十分とは言えないものだった。複数の教員がかかわる科目のため、学生全体の理解度を把握することが難しかった。また、個人差があり、理解の不十分な学生への指導に集中したため偏りがあったかもしれない。		概ね授業内容を理解してもらえたようだ。しかし、実習に向けての事務作業も多いため、もう少し教員間の指導・伝達方法に統一性をもたせる必要を感じた。	介護福祉学科として初めての実習のため、施設側との調整がスムーズでないこともあった。今回の課題を次年度に向けて、学科内でさらに検討を重ねたい。
後期	614	介護実習指導Ⅰ	石川肇	教員の熱意等は伝わっているようです。どの項目も、学内平均を少し下回っています。6名で同時に同じ科目を行う授業はもう二度と体験できないかもしれませんが、他の教員による教員方は参考になる点も多かったと思います。	教員による自己評価は、個人としては低かったですが、その割には学生による評価は悪くはなかったです。1年生にとつて、実習先で期待される社会性についてどの程度指導できるか(どこまで学生に期待できるのか)を見ていく必要があると思います。	教員によってということが違っている、等しい指摘もありました。新設の学科では困難でしょうが、教員間でも少し連絡、確認をしっかりと行っていくことが必要であったということが、学生の記述から読み取ることができました。	6名での実施が3名での担当となり、来年度をむかえますが、3名であっても、3人の統一した見解、指導を行っていくという、主体的な努力が学生に良い授業、指導を行っていく上で欠かせません。来期はより学生に統一感のある授業を進めたいと思います。
後期	614	介護実習指導Ⅰ	中家洋子	通年の授業であり、介護福祉士には、実習に繋がる重要な授業である。全ての項目が、学年平均よりも下回っており、全てが4以下と低い結果が出ている。「教員間での指導に違いがあり混乱した」との学生の評価から、事前打ち合わせが十分でなかったと反省する。	授業は、全職員がゼミ方式で関わる授業形態で、教員間の授業の組み立てなど齟齬があり、学生からも指摘があった。このことを真摯に受け止め、今後の授業の準備を含めた教員間での統一・連携が必要である。	前期での反省が活かさない結果となった。「教員間での指導に異なりがあり、迷う」との意見があり、教員の姿勢も問われる授業となった。目標を統一して、全体の構成を再検討する必要がある。	授業の結果が、第1段階・2段階の現場実習の結果に顕著にみられた。学生は実習中「実習の目的が分からない」「記録が書けない」などつまづきが見られ実習を中断した学生もいる。個別指導の重要性と他の教科とのリンクをどうするか、授業構成も含めて、今後の課題となる。
後期	614	介護実習指導Ⅰ	榊原和子	全体として学生の評価は、予想どおりの評価を頂いている。問1、9～11、15に関しては自己評価が妥当だと考えていたが、学生評価との差が大きく、授業展開を再考してゆかなければならない。	昨年はありません	概ね良い意見が多く見られたが、指摘事項に関しては、アンケート集計からもうかがい知ることができると、真摯に受けとめ改善してゆきたい。	1時間の授業内容のボリュームが多く、学生の理解度を確認する時間が少なかったように思えたので、時間的なゆとりも考慮してゆきたい。

後期	614	介護実習指導 I	吉井珠代	全質問項目において学内平均を下回った。特に、問5の授業の難易度が適切かの得点が3.54と最も低くなっていて、授業運営を反省させられた。専任6名と一緒に授業を担当するという形式であったため、統一見解が不十分であったことが、最大の原因であると考ええる。	介護実習における諸注意事項や提出物などの取り決め事項を等しく伝達しなければならない場合も担当教員別に分かれて伝達することが多かったため、齟齬が生じた。結果、学生を混乱させたものと痛感している。	「先生によって言うことがばらばらで、理解しづらかった」という意見が数名あった。	学科内教員間の共通理解を図ることが大前提であり、早急に統一見解を示せるよう、まずは、“実習のてびき”を理解されやすいように修正することとした。
後期	615	介護福祉演習	中家洋子	学内平均、若しくは以下の項目が多く、反省しなければならない。授業の難易度が高く理解できなかったとの事であるが、演習授業であり、毎回の授業の目的を明確にして進めることが必要である。	介護福祉演習が、実習指導の補足授業として進められた。だが、その意図するところが学生には伝わっていないことがあり「興味を持ち熱心に…」の項目が低かったことは今後の課題である。	授業は、グループ学習で学生の創造性を引き出し、学生発表が中心の授業であった。グループのダイナミクス等を引き出しながら展開されるものだが、目的が分からない・発表が負担である等の意見があり興味をもてる授業とならなかった。	演習授業は、学生の持つ能力や興味を引き出しながら構成されなければならないが、この点でのずれを感じる授業展開となってしまう。実習に繋がる重要な授業であり、授業の工夫が必要であると感じている。
後期	615	介護福祉演習	吉井珠代	学生の評価点にばらつきが見られ、全体的には学内平均をやや下回る結果に終わった。ただし、授業運営に際し、学生の主体的な取り組みを促すようにしたので、意欲の高い学生には好評であったと感じている。	現在学生が学んでいる専門科目を統合する目的で、学生が主体的に学ぶようグループ学習方式をとったが、後半の「利用者アセスメント」においては介護実習前の動機づけが不十分だったこともあり、消化不良気味だったことが反省点である。	少人数制の演習科目で、教員に多くの質問ができて参考になったという意見や自分たちで考えていくのが難しかったがやり甲斐もあったという好意的な意見と、逆に、メンバー構成の関係で他のメンバーが非協力的だったので不公平だったという意見もあって、教員として反省させられることも多くあった。	学生の主体的な学習において、動機づけの大切さを再認識させられた授業評価であった。授業の組み立てを検討していきたい。

「学生による授業アンケート調査」実施要領

平成19年度も昨年に引き続き、先生方の担当授業ご研鑽の一助としていただくことを目的として、学生による授業アンケート調査を実施いたします。

本調査の実施は各授業担当者をお願いしております。実施に際しましては、下記の手順に従ってご進行下さいますようお願い申し上げます。

調査用紙（調査票とマークシート用紙）の確認

1. 調査票とマークシート用紙、学生用自由記述用紙を同封した封筒の表紙に記載されている授業科目名と担当者名をご確認下さい。
2. 表紙に記載の赤の三桁の番号は授業科目と担当者を示す識別番号となっております。

実施手順

1. 調査時間は20分程度を予定しておりますが、時間に余裕をもって開始して下さい。
2. 設問項目は調査票に示した通りです。それぞれの設問に対する回答は、マークシート用紙に鉛筆で黒くマークさせて下さい。
3. 授業評価に先立ってまず授業科目欄（番号欄）に、授業科目と担当者を示す識別番号（封筒の表紙に記載の赤の三桁の番号）をマークさせて下さい。次いで学年（年欄）、所属学科（クラス欄）、出席回数（D欄）をマークさせて下さい。
4. 授業評価項目は問1～問20で構成されています。講義・演習科目は問1～問16まで、実技・実習科目については問1～問20までとなっています。それぞれについて5段階評価の該当する数字にマークするようにご指示下さい。
5. 引き続き同封の「自由記述用紙」に、授業に対する要望などを自由に記載させて下さい。

調査終了後の取り扱い

1. 調査終了後、学生を指名して調査票とマークシート用紙を回収させて下さい。その後学生自身により調査票とマークシート用紙を元の封筒に収納させ、テープでしっかりと密封をさせて下さい。自由記述用紙は別に回収させ、先生御自身でお受け取り下さい。回収にあたっては、できるだけ学生個人が特定できないようにご配慮下さい。
2. 封筒を学生から受け取り、授業終了後直ちに別添えの先生ご自身が回答された「授業の自己点検評価用紙」と共に事務局の担当者までお届け下さい。
3. 学生に自由記述を求めた「自由記述用紙」は別の封筒に収納し、先生御自身でお持ち帰り下さい。後日、「自己点検評価報告書」をご提出下さる際のご参考として下さい。

集計結果のお知らせと「自己点検評価報告書」（ご意見）ご提出のお願い

1. 集計結果は、先生にご提出頂いた自己点検評価用紙を添えて9月上旬に先生方まで個別にメールボックス（専任教員）、または郵送（非常勤講師）にてお届け致します。
2. 同封の報告書に集計結果の分析、問題点の所在、改善策など先生のご意見をご記載の上、郵送、またはFDにて9月末日までに表記宛ご提出下さい。

教員による授業の自己点検評価票

昨年度から学生による授業評価に並行して「担当教員による授業の自己点検評価」を実施させて頂くことになりました。ご多用中誠に恐縮ではございますが、下記項目にご記入の上ご担当科目についての「学生による授業アンケート調査」実施終了後、**回収用紙の入った封筒と共に**ご提出下さいますようお願い申し上げます。

※一授業科目について1部ご提出ください。

※複数担当者によるオムニバス形式の授業につきましてはその中の代表者をご記入下さい。

ご記入日	2007年 月 日 () 時限	
授業担当者		
授業科目名	科目コード	3桁のコード()
総受講生数とご担当コマ数	() 名	() コマ

「マークシート」は、次の要領で記入してください。※回答はマークシート用紙に鉛筆で黒くマークして下さい。

記入事項				評価：5. ～ 1. までの評点をマークしてください。																					
記入不要	記入不要	科目コード	記入不要																						
年	クラス	番号	D	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	・	・
1	1 1	1 1 1	1 1 1 1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	・	・
2	2 2	2 2 2	2 2 2 2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	・	・
3	3 3	3 3 3	3 3 3 3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	・	・

評価は次の5段階でおこないます。問1～問16、および問17～問20（実技、実習科目のみ）について、該当する番号に一つだけ○をつけて下さい。

評点	5. そう思う。	4. どちらかといえばそう思う。	3. どちらでもない。
	2. どちらかといえばそうは思わない。	1. そうは思わない。	

- 問1 授業では大きな声で聞き取り易い速さで話すように心がけた。
- 問2 学生が授業内容を良く理解できるように丁寧に説明した。
- 問3 授業はシラバスに示された目標や内容に沿って行った。
- 問4 授業には十分な準備と工夫をして臨んだ。
- 問5 授業の難易度のレベルは適切であったと思う。
- 問6 授業の進行速度は適切であったと思う。
- 問7 テキストやプリント、視聴覚教材の使い方は適切であった。
- 問8 板書は適切であったと思う。
- 問9 授業は熱意をこめて真剣に行った。
- 問10 学生の質問や発言に適切に対応した。
- 問11 授業態度の悪い学生に注意し、授業に集中できる静かな環境をつくる努力をした。
- 問12 学生は授業に興味をもって熱心に取り組んでくれた。
- 問13 学生は授業の内容を良く理解することができたと思う。
- 問14 学生は授業により新しい知識や考え方、必要な技能を習得し、授業内容に対する関心を高めてくれたと思う。
- 問15 この授業の教室の大きさや設備（視聴覚機器や教材など）は適切であった。
- 問16 学生は総合的にみてこの授業を受けて満足していると思う。

5	4	3	2	1
5	4	3	2	1
5	4	3	2	1
5	4	3	2	1
5	4	3	2	1
5	4	3	2	1
5	4	3	2	1
5	4	3	2	1
5	4	3	2	1
5	4	3	2	1
5	4	3	2	1
5	4	3	2	1
5	4	3	2	1
5	4	3	2	1
5	4	3	2	1

《問17～問20は実技や実習科目のみご回答下さい》

- 問17 授業中の技能や実技の指導は適切であったと思う。
- 問18 この授業で課した課題の量は適切であったと思う。
- 問19 学生が与えられた課題に取り組む時間は充分にあったと思う。
- 問20 授業の内容は技術や実技の向上に役立ったと思う。

5	4	3	2	1
5	4	3	2	1
5	4	3	2	1
5	4	3	2	1

教員による自己点検報告書（ご意見）

—学生の授業評価より—

ご提出日 平成 年 月 日

授業担当者名（ ）

授業科目名（ ）

1. 学生による授業評価の集計結果について。
2. 教員による自己点検評価と学生による授業評価について—昨年度の結果と比較して—（分析と問題点）。
3. 学生からの「自由記述」について、ご意見があればご記載下さい。
4. 2と3の結果より、今後の改善策について。

授業評価報告書

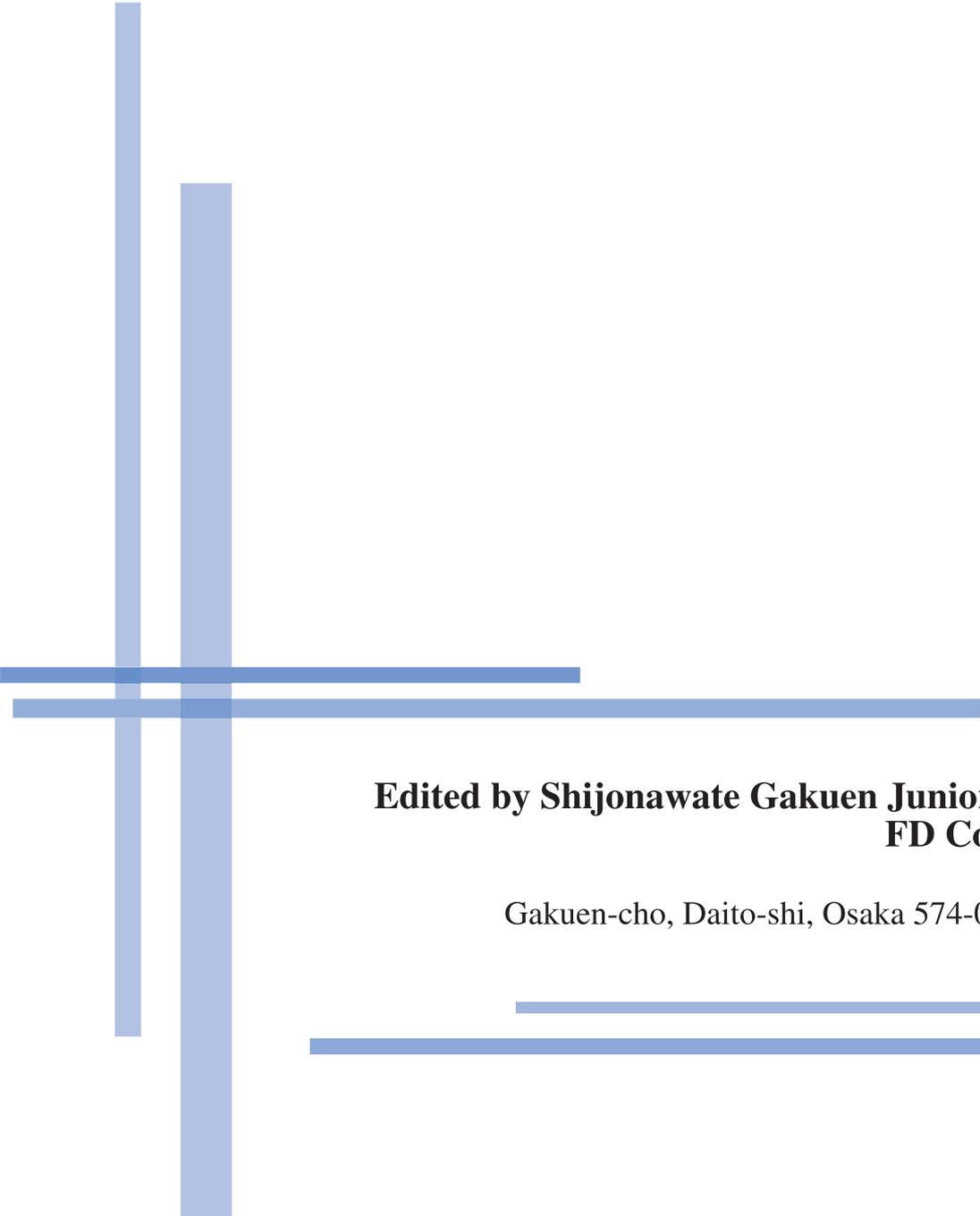
－よりよい授業への改善をめざして－ 2007

©2008年10月発行

編集 四條畷学園短期大学 FD 委員会
FD 委員長 石村哲代
FD 委員 井上泰子 石川肇 奥田純
鍛冶谷静 北村瑞穂

発行 四條畷学園短期大学
〒574-0001
大阪府大東市学園町 6-45
Tel : 072-876-1321

表紙デザイン 北村瑞穂



**Edited by Shjonawate Gakuen Junior College
FD Committee**

Gakuen-cho, Daito-shi, Osaka 574-0001 Japan